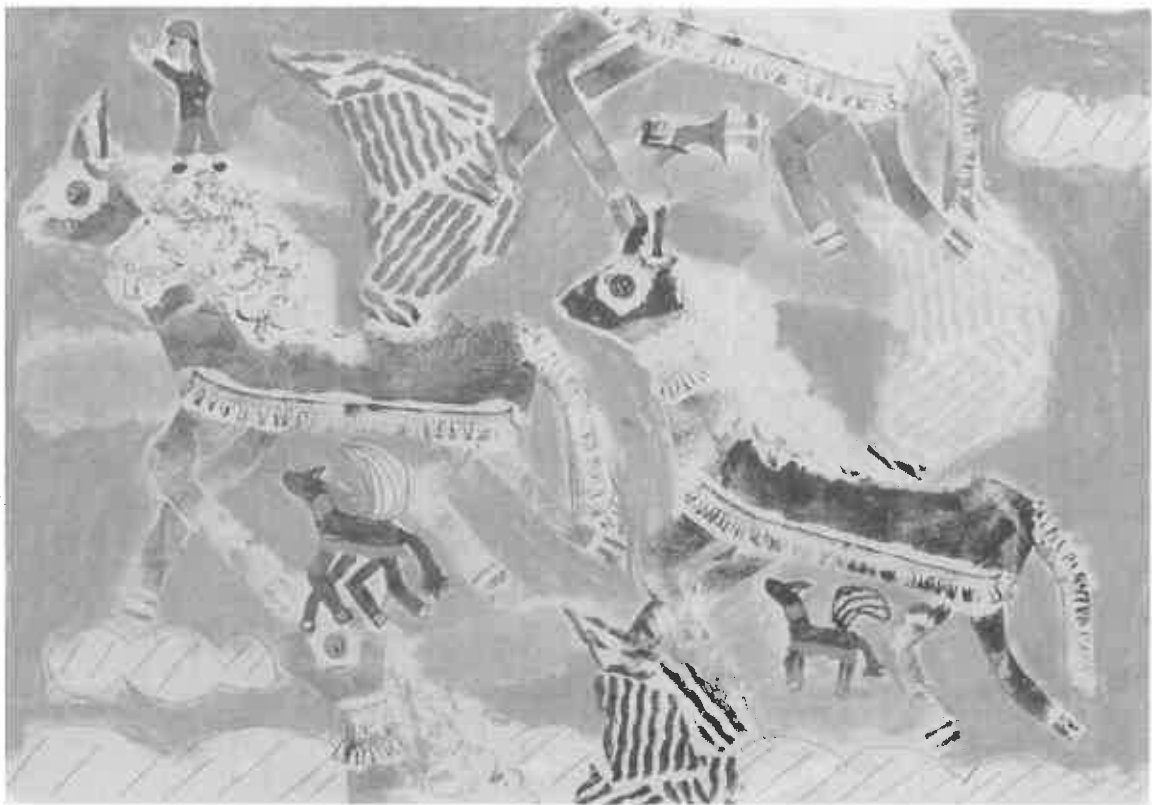


# 平成29年度 川越市の学力向上

～学力分析と指導の手立て 15～



川越市教育委員会

川越市学力向上研究委員会

## あ い さ つ

川越市教育委員会教育長  
新 保 正 俊

川越市教育委員会では、川越市立小・中学校の児童生徒の学力向上を図るため、川越市学力向上研究委員会を設置しております。ここに本年度の研究の成果を「平成29年度川越市の学力向上～学力分析と指導の手立て15～」として刊行いたします。

グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、予測が困難なこれからの時代において、学校教育には、これまでの実践や蓄積を生かし、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して未来社会を切り開くための「生きる力」を確実に育成することが求められております。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを維持するとともに知識理解の質を高め、子どもたち一人一人の確かな学力を育成する視点が必要となります。

川越市におきましては、現在、児童生徒の学力向上は喫緊の課題であり、児童生徒の「思考力・判断力・表現力の育成」及び「家庭学習の充実」を図る取組を一層推進していくことが重要であると認識しておりますが、まず、教員の指導力向上が、学力向上の根幹であることは言うまでもありません。

このような現状を踏まえ、川越市教育委員会では、児童生徒の学力向上に向け、教育委員会と市立小・中学校が目標を共有し、様々な取組が計画的・継続的に行われるよう「川越市小・中学生学力向上プラン」を策定しております。それに基づき、本年度は、川越市学力向上研究委員会を中心に、児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図るための取組に加え家庭学習の充実に関する研究を進めてまいりました。具体的には、昨年度に引き続き、各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「モデル授業プラン」についての研究を進め、全校で、明日からの授業にすぐに活用できるような資料を作成いたしました。また、「家庭学習の充実」については、児童生徒の知識・技能の習得及び家庭学習の定着を目指し、各教科における基礎的・基本的な内容の課題を中心とした「ときもドリル」を作成いたしました。

各校におかれましては、自校における学力の実態を十分に把握した上で、本冊子を、毎時間の教材研究、また、校内研修等で有効に活用し、若手からベテランまでの教師が学力向上の方策を共有してさらに研究を進め、児童生徒一人一人の学力向上を目指して御尽力くださるようお願いいたします。併せて、各校における学力向上の重点取組を推進することにより、本市の学校教育を活性化させる成果につながることを期待しています。

結びに、本冊子の作成に携わっていただきました川越市学力向上研究委員会委員の皆様、並びに御指導くださいました関係各位に厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

# はじめに

川越市学力向上研究委員会委員長

吉野 和仁

本委員会では、「川越市小・中学校学力向上プラン」の趣旨を踏まえ、確かな学力の向上をめざして活動してまいりました。

本年度は、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果分析から得られた以下の2点を活動の出発点としました。

○知識・技能を活用した問題及び記述式の問題の正答率が低い。

○家庭学習の実施状況（小学校）が全国平均を下回っている。

これらの現状を踏まえ、研究の視点を「子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力の育成」「家庭学習の充実」と決めました。

一つ目の視点である「子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力の育成」をめざし、「モデル授業プラン」を作成しました。学び合い・高め合いのある授業を実践するための具体的な研究を行い、本委員会として川越市に広めたい授業スタイルを、本冊子に掲載しました。

二つ目の視点である「家庭学習の充実」をめざし、「ときもドリル」を作成しました。児童生徒が、自ら基礎的・基本的な知識・技能の取得を目指せるよう研究を進め、親しみのあるドリルとし、一部を本冊子に掲載しました。

どちらの研究の成果資料も、各校で日常的に活用していただけるよう、教育センターの電子キャビネットに掲載してあります。本委員会の活動が、児童生徒一人一人の学力向上に向け、各校の教科等指導の工夫改善に役立てば幸いです。

結びに、全体会（講演会）でご指導いただきました埼玉大学教育学部自然科学講座 二宮 裕之様、理科部会に研究を委嘱していただきました埼玉大学教育学部自然科学講座 小倉 康様、各部会でのご指導並びに運営でお世話になりました川越市教育委員会の先生方、そして校務ご多用の中多くの時間を割いて研究を推進していただきました委員の皆様、さらに、委員の派遣につきましてご理解くださいました所属校の校長先生方に改めて感謝申し上げます、あいさつといたします。

# I 研究の概要

## 川越市小・中学生学力向上プラン

### 研究の視点

「子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力の育成」  
「家庭学習の充実」

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果分析より

川越市の現状①「知識・技能を活用した問題及び記述式の問題の正答率が低い」

②「家庭学習の実施状況（小学校）が全国平均を下回っている」



＜平成29年度の学力向上研究委員会における研究の視点＞

「子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力の育成」

「家庭学習の充実」

(研究の内容)

### 研究Ⅰ モデル授業プランの作成

- ・「学び合い 高め合い」のある授業を実践するための具体的な授業実践例を示す。
- ・川越市として広めたい授業スタイルを提案する。

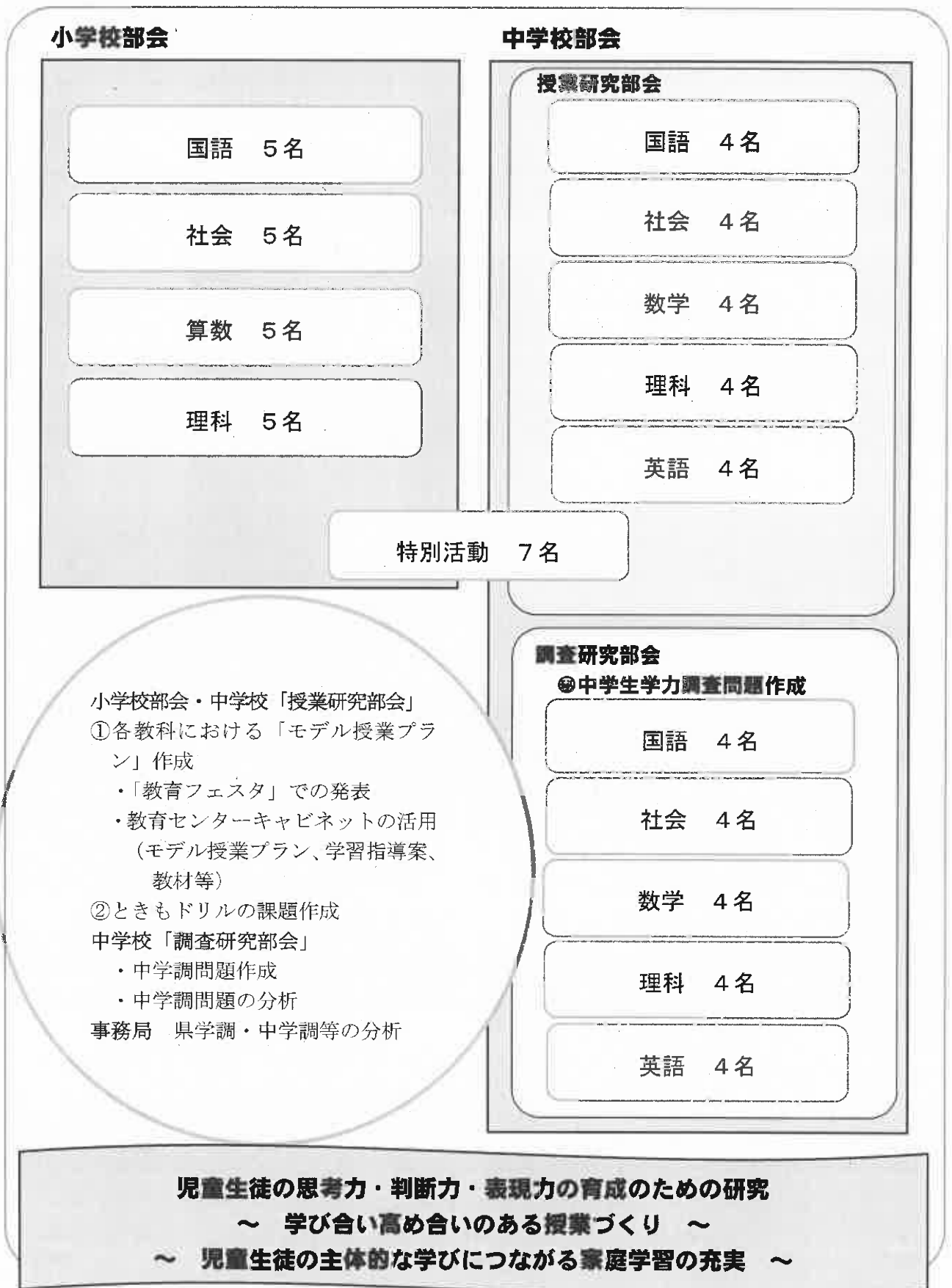
### 研究Ⅱ 「ときもドリル」の作成

- ・児童生徒の家庭学習の充実に向けた課題を作成する。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の取得を目指した課題を作成する。

### 研究の成果の広報

- ・教育センターキャビネットの活用（「モデル授業プラン」、「学習指導案」、「教材」等）
- ・教育フェスタ KAWAGOE での発表（任意）
- ・ときもドリルの配布
- ・その他

## II 平成29年度 学力向上研究委員会（組織図）



【新規】道徳推進委員会

体力向上推進委員会  
 情報教育推進委員会  
 小学校外国語活動委員

【独立】社会科副読本研究委員会  
 博物館利用研究委員会  
 美術館利用研究委員会

### Ⅲ 学力分析と指導の手立て

#### 1 研究方法

##### (1) 検査・調査資料名および研究の対象と教科

検査・調査名	実施時期	対 象	教 科
①教研式標準学力検査 (NRT)	6月末まで	小4～6 中1	社会、理科 国語、社会、数学、理科
②川越市中中学生学力調査	9・11月	中3	国語、社会、数学、理科、英語
③県学力・学習状況調査	4月	小4～6 中1～3	国語、算数・数学、 英語(中2, 3のみ)

##### (2) 方法

川越市教育委員会が事務局となり、市内小・中学校の校長、教員からなる、学力向上研究委員会を設置し、各教科について各部会を組織した。

各教科部会では、上記の検査・調査等の結果を分析し、川越市の課題を明らかにし、課題解決を図る手立てを示した。

#### ○ 教研式標準学力検査(NRT)について

##### (1) 全国通過率と川越市通過率の比較

通過率とは、1つの問いについて、正答人数を総人数で割り、100倍した数である。川越市通過率とは、川越市の児童生徒の通過率の平均である。

##### (2) 大領域の比較・中領域の比較

大領域について	学習指導要領に示された「内容」を大きな領域に分類した。
中領域について	学習指導要領の「内容」を参考に単元に近い領域に分類した。

大領域・中領域の数字は、正答率で表した。

##### (3) 教研式標準学力検査(NRT)の見方・生かし方

本調査で利用した教研式標準学力検査(NRT)は、全国基準に基づく相対評価法による学力調査である。活用については、以下を踏まえる必要がある。

- ① 学級全体の学力水準は、標準得点(学力偏差値)の学級平均(M)の値が全国平均偏差値50と比べて高いか低いかで判断する。
- ② 大領域や中領域では、全国の正答率との比較で、低い領域を重点指導領域としてどの領域・どの単元に重点をおいて指導すべきかを判断する。
- ③ 分析結果を基に、各学校、各学年、各教科の課題を把握し、校内研修の内容及び指導の実践に活用する。

#### ○ 川越市中中学生学力調査について

平成29年度中学3年生に実施した結果について掲載した。各教科の平均正答率、各分野の出題の意図と考察が述べられている。

#### ○ 平成29年度埼玉県学力・学習状況調査

平成29年度小学4年生～中学3年生に実施した結果について掲載した。各教科の学年ごとの平均正答率、領域別・観点別平均正答率で表した。

## 2 教研式標準学力検査（NRT）の結果

### (1) 川越市の学力の推移（標準学力検査）

(数値は偏差値平均)

教科	校種	学年	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
全教科平均	小学校	第4学年	51.1	51.0	50.9	50.2	50.1	50.6
		第5学年	50.3	51.0	50.2	49.6	48.6	49.1
		第6学年	49.7	49.0		47.5	47.7	47.5
	中学校	第1学年	49.5	49.1	48.7	48.8	49.1	49.6
		第2学年	50.0	49.5	48.8	47.4		
国語	小学校	第4学年	50.9	50.3	50.8			
		第5学年	51.4	52.4	51.1			
		第6学年	51.5	50.6				
	中学校	第1学年	50.6	50.2	50.4	50.4	50.5	51.5
		第2学年	51.2	50.5	50.8			
社会	小学校	第4学年	51.2	51.0	50.9	49.5	49.7	50.1
		第5学年	51.4	51.6	51.0	50.6	49.5	50.1
		第6学年	49.2	47.9		47.2	47.4	47.2
	中学校	第1学年	49.1	48.6	48.1	48.3	48.5	48.8
		第2学年	47.7	47.9	47.5	48.0		
算数・数学	小学校	第4学年	50.7	51.3	51.1			
		第5学年	50.1	51.1	50.3			
		第6学年	49.7	49.7				
	中学校	第1学年	50.2	49.3	49.1	49.3	49.5	50.1
		第2学年	51.3	50.7	49.2			
理科	小学校	第4学年	51.6	51.3	51.0	51.0	50.7	51.2
		第5学年	48.5	48.9	48.4	48.7	47.7	48.1
		第6学年	48.4	47.6		47.7	48.1	47.8
	中学校	第1学年	47.9	48.0	47.4	46.9	47.7	47.9
		第2学年	48.2	46.5	45.9	46.9		
英語	中学校	第1学年						
		第2学年	51.5	52.0	50.6			

平成24年度より小学校と中学1年は新学習指導要領に対応

平成25年度より中学2年は新学習指導要領に対応

は同一集団を表す一例

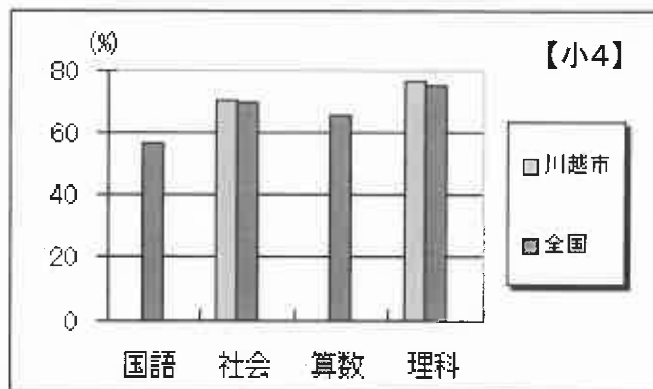
## (2) 各学年の状況

### ① 小学校第4学年

(ア) 全国通過率と川越市通過率の比較

(%)

教科	国語	社会	算数	理科
川越市		69.9		76.4
全国	56.7	69.3	65.5	74.8



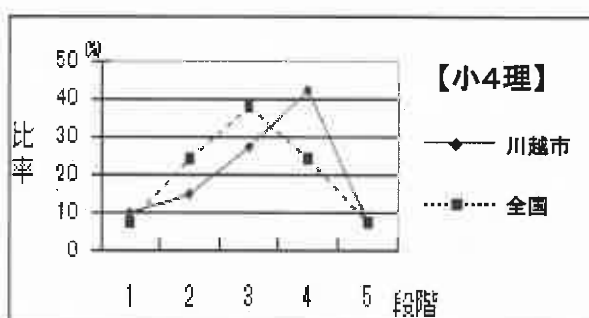
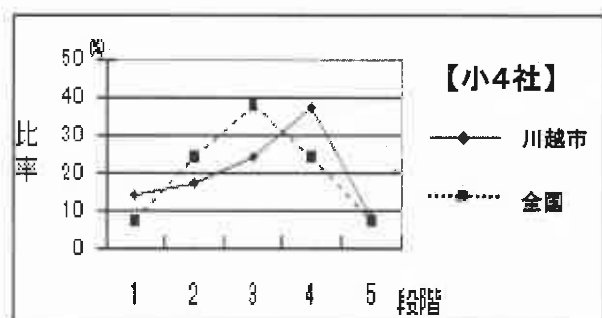
(イ) 社会科、理科の5段階出現率

社会

段階	1	2	3	4	5
川越市	14	17	24	37	8
全国	7	24	38	24	7

理科

段階	1	2	3	4	5
川越市	10	15	27	42	7
全国	7	24	38	24	7

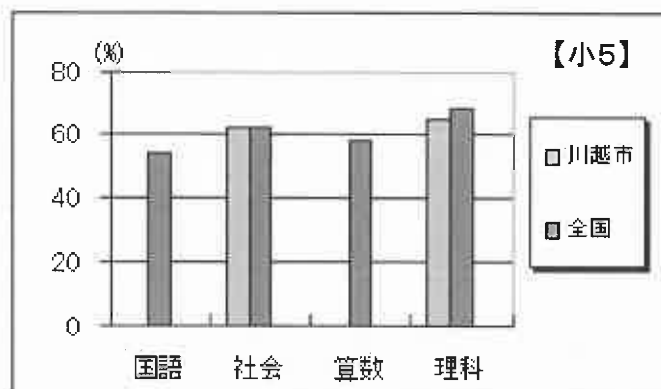


### ② 小学校第5学年

(ア) 全国通過率と川越市通過率の比較

(%)

教科	国語	社会	算数	理科
川越市		62.0		65.2
全国	54.4	61.9	58.4	68.2





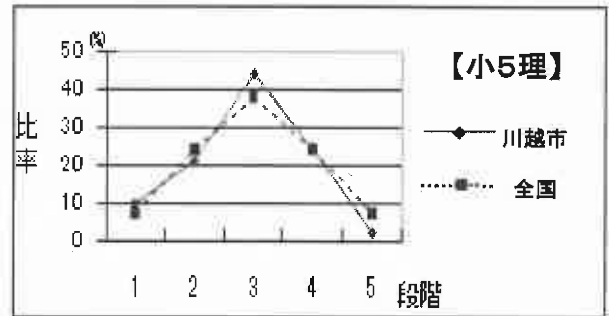
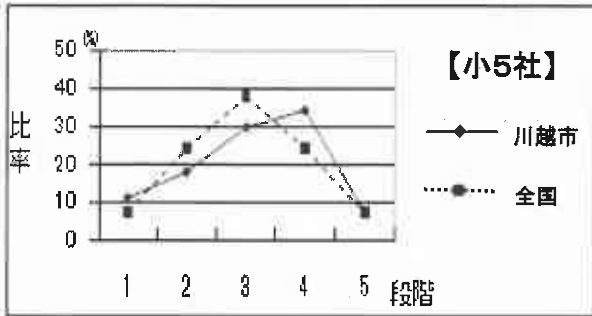
(イ) 社会科、理科の5段階出現率

社会

段階	1	2	3	4	5
川越市	11	18	30	34	7
全国	7	24	38	24	7

理科

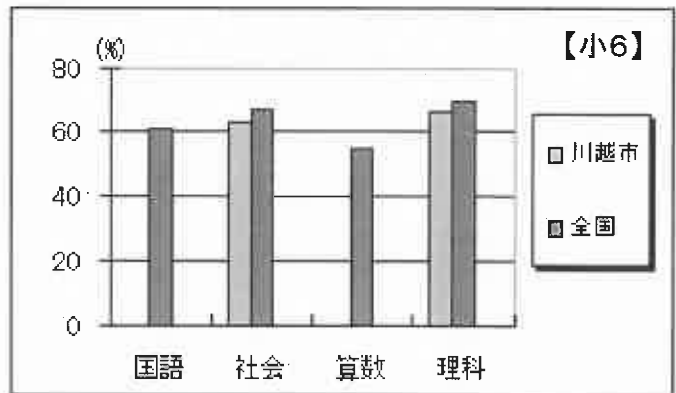
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	21	44	24	2
全国	7	24	38	24	7



③ 小学校第6学年

(ア) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	全国通過率と川越市通過率の比較 (%)			
	国語	社会	算数	理科
川越市		62.6		66.2
全国	61.1	67.2	54.8	69.7



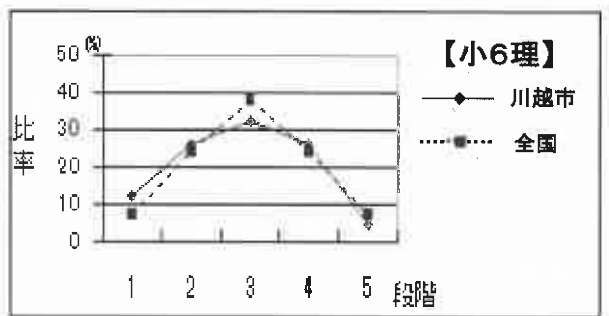
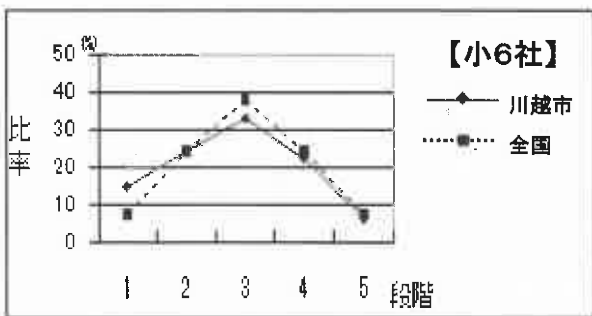
(イ) 社会科、理科の5段階出現率

社会

段階	1	2	3	4	5
川越市	15	24	33	22	6
全国	7	24	38	24	7

理科

段階	1	2	3	4	5
川越市	12	26	32	26	5
全国	7	24	38	24	7

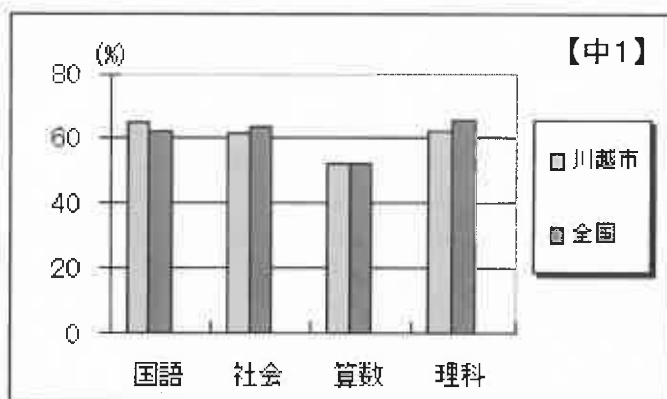


④ 中学校第1学年

(ア) 全国通過率と川越市通過率の比較

(%)

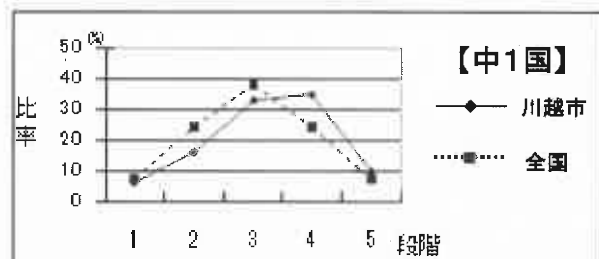
教科	国語	社会	数学	理科
川越市	64.7	61.5	52.2	62.1
全国	62.3	63.2	52.0	65.3



(イ) 各教科の5段階出現率

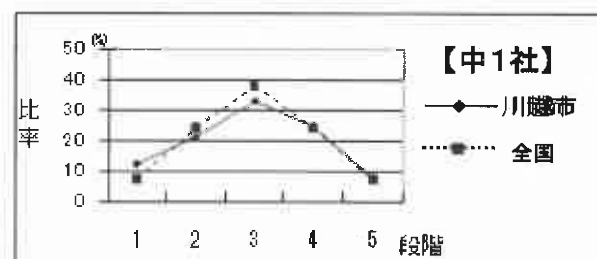
国語

段階	1	2	3	4	5
川越市	6	16	33	35	10
全国	7	24	38	24	7



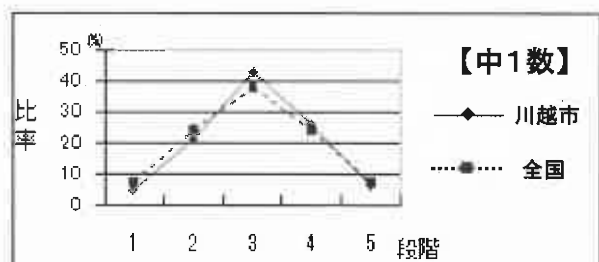
社会

段階	1	2	3	4	5
川越市	12	21	33	25	8
全国	7	24	38	24	7



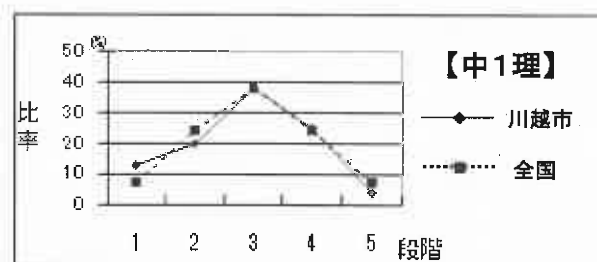
数学

段階	1	2	3	4	5
川越市	5	21	43	26	6
全国	7	24	38	24	7



理科

段階	1	2	3	4	5
川越市	13	20	38	25	4
全国	7	24	38	24	7



### (3) 各教科の状況

#### ①国語

(ア) 中学校第1学年 (内容第6学年)

(a) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)											偏差値	平成27年度平均	50.4
											偏差値	平成28年度平均	50.5
											偏差値	平成29年度平均	51.5
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	
1 話すこと・聞くこと	88.0	86.9	87.4	86.0	86.0	86.0	2.0	0.9	1.4				
2 書くこと	60.4	59.6	60.5	56.9	56.9	56.9	3.5	2.7	3.6				
3 読むこと	52.3	52.9	53.3	51.5	51.5	51.5	0.8	1.4	1.8				
4 伝統的な言語文化と国語の特質	55.3	56.4	59.8	57.2	57.2	57.2	-1.9	-0.8	2.6				

(b) 全国通過率との開きがある小問

(c) 全国・川越ともに  
通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	3	討論会・共通語 (3-2)	77	84	-7	73	84	-11	78	84	-6
3	7	表現・それはそれは (9-2)	54	61	-7	54	61	-7	55	61	-6
4	8	照応・たぶん (10-3)	65	70	-5	66	70	-4	68	70	-2
4	9	漢字読み・補う (11-5)	87	85	2	88	85	3	83	85	-2
4	9	漢字書き・測量 (13-1)	28	47	-19	24	47	-23	24	47	-23
4	9	漢字書き・往復 (13-2)	37	52	-15	40	52	-12	48	52	-4
4	9	漢字送りがな・設ける (14-1)	29	41	-12	29	41	-12	34	41	-7
4	9	漢字送りがな・快い (14-3)	30	43	-13	39	43	-4	37	43	-6
4	9	熟語の構成 (15-2)	37	44	-7	40	44	-4	40	44	-4

・ 要点をまとめる	(6-3)
・ 文章表現・まるで	(9-1)
・ 類義語の使い分け	(16-2)

( )は問題番号

#### ②算数/数学

(ア) 中学校第1学年 (内容第6学年)

(a) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)											偏差値	平成27年度平均	49.3
											偏差値	平成28年度平均	49.5
											偏差値	平成29年度平均	50.1
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	
1 数と式	58.2	57.2	58.1	58.2	58.2	58.2	0.0	-1.0	-0.1				
2 図形	50.0	49.9	51.2	51.9	51.9	51.9	-1.9	-2.0	-0.7				
3 関数	50.6	52.4	53.2	53.3	53.3	53.3	-2.7	-0.9	-0.1				
4 資料の活用	43.5	44.1	45.9	44.0	44.0	44.0	-0.5	0.1	1.9				

(b) 全国通過率との開きがある小問

(c) 全国・川越ともに  
通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	最小公倍数 (4-1)	58	65	-7	58	65	-7	57	65	-8
1	3	分数の乗法・立式 (8-1)	21	24	-3	18	24	-6	17	24	-7
1	3	分数の乗法・答え (8-2)	15	17	-2	12	17	-5	12	17	-5
2	6	展開図・四角柱 (13-1-1)	63	70	-7	65	70	-5	65	70	-5
2	6	四角柱の体積 (13-3-1)	33	44	-11	35	44	-9	38	44	-6
2	6	円柱の体積 (13-3-2)	47	54	-7	48	54	-6	48	54	-6
3	8	比例の事象 (17-1)	44	50	-6	42	50	-8	45	50	-5
4	10	場合の数・順序 (24)	16	21	-5	22	21	1	16	21	-5

・ 分数の乗法・立式	(8-1)
・ 分数の乗法・答え	(8-2)
・ 縮尺・地図上の長さ	(12-1)
・ 縮尺・実際の距離	(12-2)
・ 台形の求積の応用	(15-1)
・ 三角形の求積の応用	(15-2)
・ 反比例の事象	(17-2)
・ 文章題・比例の応用	(21-1-3)
・ 場合の数・順序	(24)
・ 平均の意味とその応用	(25)
・ 資料を読み取る	(26-2-4)
・ 円グラフの読み取り	(27-2)

( )は問題番号

### ③社会

#### (ア)小学校第4学年 (内容第3学年)

##### (a)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成27年度平均	49.4	
										偏差値 平成28年度平均	49.9	
										偏差値 平成29年度平均	50.1	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29
1 身近な地域	71.8	71.9	72.9	71.8	71.8	71.8	0.0	0.1	1.1			
2 地域の人々の生産と販売	64.7	66.1	66.5	62.7	62.7	62.7	2.0	3.4	3.8			
3 昔のくらし	71.7	72.6	71.3	77.3	77.3	77.3	-5.6	-4.7	-6.0			

##### (b)全国通過率との開きがある小問

##### (c)全国・川越 ともに 通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	観察道具・カメラ (1-3-オ)	62	72	-10	63	72	-9	60	72	-12
3	7	昔の道具・火鉢 (14-エ)	73	92	-19	72	92	-20	69	92	-23
3	7	昔の道具・井戸 (15-2)	89	95	-6	90	95	-5	88	95	-7
3	7	昔の道具・セリん (15-3)	84	89	-5	85	89	-4	83	89	-6
3	7	せんたく道具の変化 (17-1)	75	82	-7	76	82	-6	74	82	-8
3	7	60年前の家事 (17-2)	51	61	-10	51	61	-10	50	61	-11
3	7	家事の時間減少 (17-4ウ)	37	54	-17	41	54	-13	40	54	-14
3	7	昔の生活の調査方法 (18-ア)	69	76	-7	70	76	-6	69	76	-7

・図書館までの道順説明 (5-2)
-------------------

( )は問題番号

#### (イ)小学校第5学年 (内容第4学年)

##### (a)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成27年度平均	50.6	
										偏差値 平成28年度平均	49.5	
										偏差値 平成29年度平均	50.1	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29
1 健康な生活と安全な生活	66.5	63.6	64.9	65.2	65.2	65.2	1.3	-1.6	-0.3			
2 地域の開発と人々の生活	62.4	61.6	62.1	60.7	60.7	60.7	1.7	0.9	1.4			
3 県のように人と人々のくらし	58.6	57.5	58.2	58.6	58.6	58.6	0.0	-1.1	-0.4			

##### (b)全国通過率との開きがある小問

##### (c)全国・川越 ともに 通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	読図・ダム (1-3)	55	60	-5	51	60	-9	52	60	-8
1	1	読図・森林の働き (1-4)	64	68	-4	62	68	-6	61	68	-7
1	4	防火施設・消火栓 (7-1)	68	71	-3	62	71	-9	64	71	-7
1	4	防火施設・消防署位置 (7-3)	54	60	-6	47	60	-13	49	60	-11
3	8	地図・急な道 (13-3)	31	37	-6	28	37	-9	29	37	-8
3	9	地図の利用・生活産業 (16-1)	50	55	-5	45	55	-10	49	55	-6
3	9	低地の土地利用 (16-4)	33	40	-7	29	40	-11	33	40	-7

・消防署・道路混雑調べ (6-2)
・開発前後の判断理由 (11-2-2)
・川の流れる方向 (16-2)

( )は問題番号

(ウ) 小学校第6学年 (内容第5学年)

(a) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値	平成27年度平均	47.2
										偏差値	平成28年度平均	47.4
										偏差値	平成29年度平均	47.2
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29
1 わが国の国土のようす	52.7	53.2	52.2	61.3	61.3	61.3	-8.6	-8.1	-9.1			
2 わが国の農業や水産業	57.8	58.1	56.3	62.7	62.7	62.7	-4.9	-4.6	-6.4			
3 わが国の工業生産	64.9	65.1	66.0	69.3	69.3	69.3	-4.4	-4.2	-3.3			
4 情報産業と国民生活	78.3	78.8	79.1	77.7	77.7	77.7	0.6	1.1	1.4			

(b) 全国通過率との開きがある小問

(c) 全国・川越 ともに  
通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	海洋名・インド洋 (1-1)	49	64	-15	46	64	-18	49	64	-15
1	1	ユーラシア大陸 (1-3)	51	72	-21	52	72	-20	55	72	-17
1	1	国名・大韓民国 (1-4-2)	42	57	-15	37	57	-20	37	57	-20
1	2	最長の川・信濃川 (4-2-1)	35	71	-36	42	71	-29	36	71	-35
1	1	信濃川の河口・日本海 (4-2-2)	49	65	-16	52	65	-13	46	65	-19
2	5	漁獲量変化・養殖漁業 (7-1-1)	57	67	-10	54	67	-13	54	67	-13
2	4	低い自給率・小麦 (8-イ)	58	75	-17	62	75	-13	58	75	-17
2	4	低い自給率・大豆 (8-エ)	45	64	-19	51	64	-13	49	64	-16
3	7	中京工業地帯の位置 (11-2-1)	49	62	-13	46	62	-16	48	62	-14
3	7	用語・太平洋ベルト (11-3)	34	80	-46	29	80	-51	34	80	-46

該当問題なし
--------

( )は問題番号

(エ) 中学校第1学年 (内容第6学年)

(a) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値	平成27年度平均	48.3
										偏差値	平成28年度平均	48.5
										偏差値	平成29年度平均	48.8
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29
1 地理的分野	67.0	65.6	67.1	63.3	63.3	63.3	3.7	2.3	3.8			
2 歴史的分野	53.8	55.4	55.0	61.5	61.5	61.5	-7.7	-6.1	-6.5			
3 公民的分野	62.8	63.4	64.1	65.9	65.9	65.9	-3.1	-2.5	-1.8			

(b) 全国通過率との開きがある小問

(c) 全国・川越 ともに  
通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	3	日本海側の気候の特徴 (6-2)	35	44	-9	33	44	-11	35	44	-9
2	7	北条時宗と元寇 (7-1-A)	43	61	-18	49	61	-12	48	61	-13
2	8	西郷隆盛と西南戦争 (7-1-C)	46	53	-7	50	53	-3	44	53	-9
2	7	元の襲来 (7-2)	51	71	-20	48	71	-23	51	71	-20
2	8	出来事・西南戦争 (7-3-C)	28	38	-10	29	38	-9	27	38	-11
2	7	歴史地図・長崎 (10-1-2)	30	41	-11	29	41	-12	30	41	-11
2	6	人物・真大寺の大仏 (12-1-1)	68	79	-11	68	79	-11	68	79	-11
2	8	条約改正に尽力した人 (12-2)	29	41	-12	31	41	-10	32	41	-9
3	10	日本国憲法・国民主権 (14-2-1)	76	82	-6	69	82	-13	66	82	-16
3	11	資料・国連加盟国 (16-2-2)	71	72	-1	61	72	-11	60	72	-12

・ 歴史地図・壇ノ浦 (10-1-3)
・ 内閣への世論 (13-3-B)

( )は問題番号

④理科

(ア)小学校第4学年 (内容第3学年)

(a)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成27年度平均	51.0	
										偏差値 平成28年度平均	50.7	
										偏差値 平成29年度平均	51.2	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29
1 昆虫と植物	77.9	78.0	79.0	78.9	78.9	78.9	-1.0	-0.9	0.1			
2 太陽と地面の様子	76.7	76.1	76.9	72.0	72.0	72.0	4.7	4.1	4.9			
3 物の性質と働き	73.9	73.6	74.1	74.7	74.7	74.7	-0.8	-1.1	-0.6			
4 物と重さ	75.3	74.0	74.2	72.5	72.5	72.5	2.8	1.5	1.7			

(b)全国通過率との開きがある小問

(c)全国・川越 ともに  
通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	モンシロ蝶の卵の観察 (1-2-1)	73	78	-5	70	78	-8	73	78	-5
1	1	アゲハの卵の観察 (1-2-2)	54	57	-3	45	57	-12	47	57	-10
1	1	昆虫の体のつくり・腹 (2-1)	64	76	-12	69	76	-7	72	76	-4
1	2	種の観察・ホウセンカ (5-1)	74	81	-7	75	81	-6	74	81	-7
3	7	水に浮かべた磁石 (18)	63	73	-10	61	73	-12	62	73	-11
3	6	鉄の缶とアルミ缶電気 (19-1)	18	22	-4	15	22	-7	17	22	-5
3	7	鉄の缶とアルミ缶磁石 (19-2)	44	52	-8	46	52	-6	48	52	-4
3	7	磁石の車・障害物 (20-2)	63	71	-8	63	71	-8	64	71	-7
4	9	粘土の分割と重さ (24-2)	69	72	-3	67	72	-5	68	72	-4

・鉄の缶とアルミ缶電気 (19-1)
--------------------

( )は問題番号

(イ)小学校第5学年 (内容第4学年)

(a)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成27年度平均	48.7	
										偏差値 平成28年度平均	47.7	
										偏差値 平成29年度平均	48.1	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29	H.27	H.28	H.29
1 季節と生物・人の体のつくり	71.6	70.7	70.3	73.3	73.3	73.3	-1.7	-2.6	-3.0			
2 月と星・天気の様子	57.9	55.9	57.3	60.0	60.0	60.0	-2.1	-4.1	-2.7			
3 電気の働き	66.4	65.2	65.8	69.3	69.3	69.3	-2.9	-4.1	-3.5			
4 空気・水・金属の性質と温度	66.3	64.8	65.5	67.8	67.8	67.8	-1.5	-3.0	-2.3			

(b)全国通過率との開きがある小問

(c)全国・川越 ともに  
通過率30%以下の小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	秋のカマキリの様子 (1-3)	49	59	-10	47	59	-12	43	59	-16
1	1	テントウムシの冬の姿 (2-2)	33	61	-28	34	61	-27	33	61	-28
1	2	寒ができた後のヘチマ (3-2)	48	60	-12	46	60	-14	48	60	-12
2	4	水蒸気の結露 (7-2)	55	71	-16	48	71	-23	51	71	-20
3	7	用語・光電池 (10-1)	34	62	-28	35	62	-27	33	62	-29
3	6	検流計・電流の強さ (11-1)	55	71	-16	49	71	-22	51	71	-20
3	6	速く走る車 (13-1-3)	48	65	-17	44	65	-21	49	65	-16
3	6	同じ向きに速く走る車 (13-2)	22	41	-19	18	41	-23	18	41	-23
4	9	空気の温まり方扇風機 (15-2)	56	67	-11	56	67	-11	54	67	-13
4	9	金属の熱の伝わり方 (20-1)	78	83	-5	70	83	-13	70	83	-13

・満月の見えた位置 (6-1)
・満月の1か月前の形 (6-2-2)

( )は問題番号

(ウ) 小学校第6学年 (内容第5学年)

(a) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成27年度平均	47.7	
										偏差値 平成28年度平均	48.1	
										偏差値 平成29年度平均	47.8	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29
1 生命の誕生と成長	70.0	69.7	69.3	75.6	75.6	75.6	-5.6	-5.9	-6.3			
2 流水の働き・天気の変化	67.4	68.6	68.5	71.4	71.4	71.4	-4.0	-2.8	-2.9			
3 電流の働き・振り子の運動	68.0	68.3	67.1	67.9	67.9	67.9	0.1	0.4	-0.8			
4 物の溶け方	57.3	58.3	58.7	60.8	60.8	60.8	-3.5	-2.5	-2.1			

(b) 全国通過率との開きがある小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	花のつくり・子房 (1-1-3)	62	75	-13	64	75	-11	64	75	-11
1	1	ヘチマの柱頭の位置 (1-2)	56	65	-9	52	65	-13	53	65	-12
1	1	アサガオのおしべ (1-3)	39	64	-25	45	64	-19	45	64	-19
1	2	ヒトの誕生・へそのお (2-1)	84	90	-6	77	90	-13	77	90	-13
1	2	ヒトの誕生・妊娠期間 (2-2)	83	85	-2	73	85	-12	74	85	-11
1	2	顕微鏡・観察場所 (7-1)	78	85	-7	74	85	-11	71	85	-14
2	3	川の流れの速い場所 (8-1)	55	71	-16	59	71	-12	57	71	-14
2	3	河川の浸食作用 (8-4)	50	58	-8	48	58	-10	47	58	-11
2	4	日本付近の雲の動き (10-2)	62	75	-13	63	75	-12	62	75	-13
3	5	目的に合う実験と仮説 (14-3)	55	61	-6	52	61	-9	47	61	-14

(c) 全国・川越ともに  
通過率30%以下の小問

・ 電磁石実験・調べる事 (13-3)
・ ろ過した液の性質 (18-2)
・ 水溶液の特徴・均一性 (19-2)

( )は問題番号

(エ) 中学校第1学年 (内容第6学年)

(a) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成27年度平均	46.9	
										偏差値 平成28年度平均	47.7	
										偏差値 平成29年度平均	47.9	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29	H. 27	H. 28	H. 29
1 エネルギー	66.4	67.4	67.4	69.4	69.4	69.4	-3.0	-2.0	-2.0			
2 粒子	48.2	49.2	49.5	54.7	54.7	54.7	-6.5	-5.5	-5.2			
3 生命	69.4	70.7	71.2	74.7	74.7	74.7	-5.3	-4.0	-3.5			
4 地球	56.1	58.1	58.5	61.3	61.3	61.3	-5.2	-3.2	-2.8			

(b) 全国通過率との開きがある小問

大領域	中領域	内 容 ( )は問題番号	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
2	5	ろうそくの燃え方 (8-1)	63	76	-13	60	76	-16	58	76	-18
2	5	火の消えた瓶での燃焼 (8-3)	73	81	-8	71	81	-10	71	81	-10
2	4	析出する水溶液 (9-2)	26	34	-8	26	34	-8	24	34	-10
2	4	気体の溶けた水溶液 (12-2-1)	19	39	-20	23	39	-16	21	39	-18
3	7	小腸の役割と位置 (18-2)	32	49	-17	34	49	-15	33	49	-16
3	7	肝臓の役割と位置 (18-4)	40	53	-13	42	53	-11	41	53	-12
3	7	大腸の役割と位置 (18-5)	61	73	-12	63	73	-10	63	73	-10
4	10	三日月と太陽の位置 (24-1)	26	41	-15	30	41	-11	29	41	-12
4	10	月の表面・クレーター (24-4)	55	72	-17	59	72	-13	55	72	-17

(c) 全国・川越ともに  
通過率30%以下の小問

該当問題なし
--------

( )は問題番号

### 3 平成29年度「川越市中学生学力調査」報告書

#### ■調査目的

- 川越市内の中学3年生の学習状況（中学で習得すべき学習内容がどの程度身に付いているか）を調査することによって、学習上の問題点や指導上の改善点を明らかにする。

#### ■調査内容

- 国語・社会・数学・理科・英語について、学習指導要領に定める内容からペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて、第1回(9月)と第2回(11月)の2回実施した。

#### ●受検者数（人）

	第1回	第2回
国語	2,831	2,836
社会	2,834	2,832
数学	2,833	2,836
理科	2,835	2,834
英語	2,831	2,832

#### ●教科毎の平均正答率（%）

	第1回	第2回
国語	61.3	63.4
社会	54.4	46.4
数学	53.3	48.6
理科	48.5	48.3
英語	51.9	50.4

#### 【平均正答率の推移】

##### 教科別集計（平均正答率）

教科	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
国語	60.0	44.0	58.4	52.9	59.7	60.3	62.4	67.2	61.3	63.4
社会	47.3	49.6	48.0	47.4	41.9	50.0	54.5	53.0	54.4	46.4
数学	49.6	48.9	50.6	51.7	50.2	49.0	48.4	42.7	53.3	48.6
理科	43.8	47.3	51.7	44.7	48.8	48.1	41.1	41.8	48.5	48.3
英語	43.8	45.8	50.0	47.7	50.3	40.4	45.9	44.5	51.9	50.4

#### ■各教科の正答率等

- ・正答率：受検者全体の中の正答者の割合×100（部分点の時は、得点分の配点）
- ・通過率：受検者全体の中で該当の答え方をした者の割合×100
- ・得点率（達成度）：配点の合計の中での生徒得点の割合×100
- ・無解答率：受検者全体の中の無解答者の割合×100



# 国 語

## 【第1回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○文学的文章の読解

人物の心情をつかむ力や場面を理解する力をみることをねらいとした。記述式の設問において、人物の心情を正確につかみきれず、不十分な書き方に留まって減点となったものが多く見られた。

#### ○言語事項

漢字の読み書き、文法事項の基本に加えて、対義語・慣用句など言語事項の理解度をみる設問とした。文節相互の関係が理解できていないなど、基礎的な学力が身につけていない。

#### ○説明的文章の読解

要点をおさえて筆者の考えをとらえる力、および、とらえた内容を適切に記述する力をみることをねらいとした。筆者の考えはある程度とらえることができているが、書き抜く場合でも、自分で記述する場合でも、意味が通るように文を組み立てて書くことが苦手であり、結果として書き抜きでは無得点、記述では減点になりがちであった。また、書き抜き、記述ともに、解答を全く書けていない答案も多かった。

#### ○古典的文章の読解

主語をおさえて読み、内容を大まかにつかむ力をみることをねらいとした。口語訳の助けがあっても内容把握が不十分で、どのような出来事があったかを正確に理解できていない。古文を読むことそのものに、まだ不慣れである。

#### ○作文

理由を明確にして書く力をみることをねらい、複数の意見から自分の考えに近いものを選んで作文する形式とした。指定の行数に達していないもの、文の途中で終わってしまっているものが見受けられ、決められた時間で書く力の習得が不十分である。

### 〈多く見られる誤答分析〉

#### 大問2

問2 正解 文節の数 六 通過率 26.6%

誤答 文節の数 五 率 53.3%

単に文節に区切れないということではなく、29年度県入試でも「補助の関係」が出題された文節相互の関係について理解できていないと考えられる。

#### 大問1

問1 正解 寛大・余裕 通過率 49.8%

誤答 「寛大」のみ正解 率 43.1%

指定された条件は「漢字二字」だったが、「余裕」を探せず「賢い」と仮名交じりで解答したものが多く見られた。この設問に限らず、条件を読み落とした解答、正しく理解していない解答が多い。

## 【第2回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○文学的文章の読解

人物の心情、あるいはその心情になった理由をつかむ力をみることをねらいとした。記述式の設問では、内容に不足があることも多いが、空欄前後とのつながりを意識して書くことができていないものが非常に多く見られた。書くべき内容を、文脈を考えて記述する力が足りていない。

#### ○言語事項

漢字の読み書きのほか、語彙や文法の知識をみる設問とした。入試でよく出題される熟語の構成を正しく識別できていないなど、基本的な知識にやや不足が見られる。

#### ○説明的文章の読解

文脈をつかみ、内容を正しく理解する力をみることをねらいとした。記述式の設問では、指定された語句を使っていないものが散見され、また文学的文章での記述と同様に、文脈を考えて記述することができていないものが多くみられた。

#### ○古典的文章の読解

内容をある程度具体的につかむ力をみることをねらいとしたが、主語をおさえて読むことができず、内容の理解が不十分である。

#### ○作文

資料をもとに自分の考えを書く力をみることをねらいとした。資料をふまえた書き方になっていないもの、指定の行数に達していないもの、文の途中で終わっているものなどが見受けられた。時間配分を考えて試験に臨むことができていない。

### 〈多く見られる誤答分析〉

#### 大問1

問3 正解 通過率 13.6%

誤答 内容不備 率 69.6%

「自分は筆をやめた」が、「今井は続けようとしている」という2点が必要だが、前者のみに留まっている答案が多い。空欄後にある「尊敬」につながる内容が書けていないものであり、この設問に限らず、文脈を考えて書くことができていないケースが多い。

#### 大問3

問2 正解 通過率 47.3%

誤答 別の箇所 率 43.1%

傍線に近い場所から意味的に合いそうなものを選んでしまっている。選択肢が与えられていない場合でも、解答として考えられる候補を自分で挙げた上で最も適切なものを選ぶという思考過程を身につける必要がある。

# 社 会

## 【第1回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○地理的分野

「世界地理総合」は、世界地図やグラフ、表などの読みとりを中心とした出題、「日本地理総合」は、日本地図やグラフ、地形図などの読みとりを中心とした出題となっており、いずれも地理的技能の習得をみることをねらいとして出題した。地理的分野では、基本的な知識は身に付いているが、グラフや地形図を読みとる技能の習得は十分とは言えない結果となった。

#### ○歴史的分野

「古代～近世の歴史」「近世～近代の歴史」は、表や写真などの資料を使い、歴史的事象の理解の程度と、学習した知識を活用する力をみることをねらいとして出題した。基本的な知識を問う問題の通過率は高いが、文章記述問題の通過率は低く、歴史的事象を自分の言葉で説明する力が十分とは言えない結果となった。

#### ○地理・歴史融合問題

「地理・歴史融合問題」は、地図やグラフ、写真などの資料をもとに、地理的分野と歴史的分野についての総合的な理解力と思考力をみることをねらいとして出題した。地理的技能を必要とする問題の通過率は高いが、これに比べて歴史的事象に関する知識・理解を問う問題の一部で通過率が低く、習得している知識に偏りがあると考えられる結果となった。

### 〈多く見られる誤答分析〉

#### 大問3

問2 正解 通過率 11.4%

誤答 率 88.6%

この問題では、表2を参考にして、都までの行きの日数が都からの帰りの日数よりも多い理由を答える必要があるが、誤答となった解答の中では、「都まで運ぶ」という内容を書いてはいるが、「調」や「庸」などの語を用いていないものが多く見られた。問いに対する解答を適切な言葉で表現する力が十分ではなかったと考えられる。

#### 大問4

問3 正解 通過率 18.1%

誤答 率 81.9%

この問題では、表1を参考にして、自由民権運動をすすめた人々が明治政府のどのようなことを批判したかを答える必要があるが、誤答となった解答の中では、表1の「出身地」に着目せず、明治政府の中心人物が「特定の藩（長州藩や薩摩藩）」の出身者であることを書いていないものが多く見られた。歴史資料から読み取れることを活用し、言葉で表現する力が十分ではなかったと考えられる。

## 【第2回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○地理的分野

「世界地理総合」は、グラフや表の読みとりを中心とした出題、「日本地理総合」は、日本地図やグラフ、地形図などの読みとりを中心とした出題となっており、いずれも地理的分野の基礎的な知識や地理的技能の習得をみることをねらいとして出題した。地理的分野の基礎的な知識が十分に身に付いているとは言えず、また統計表の読み取りなど、地理的技能の習得も十分とは言えない結果となった。

#### ○歴史的分野

「古代～近世の歴史」「近代～現代の歴史」は、写真や年表などの資料を使い、歴史的事象に関する基礎的な知識の定着と、学習した知識や歴史資料を活用して文章で表現する力などをみることをねらいとして出題した。歴史的分野の基礎的な知識が十分に身に付いているとは言えず、歴史的事象を言葉で説明する力も十分とは言えない結果となった。

#### ○公民的分野

「現代社会・憲法」は、現代社会や日本国憲法、基本的人権に関する学習事項の理解の程度のほか、公民的分野に関する思考力・表現力等をみることをねらいとして出題した。基本的人権に関する基礎的な知識を問う問題の通過率は比較的高いと言えるが、日本国憲法や人権思想の歴史に関する問題の通過率は50%を下回っており、課題が残る結果となった。

### 〈多く見られる誤答分析〉

#### 大問2

問5 正解 通過率 21.0%

誤答 率 79.0%

この問題の正答は「ア、ウ」だが、誤答率では「ア、イ」が27.0%、「イ、ウ」が15.2%、「イ、オ」が7.8%であり、「イ」を選んだ解答が50%にのぼることがわかる。「イ」は台地の両端の斜面の標高差を述べた文だが、この文を「誤っている」と判断した生徒が多かったことになる。「イ」を選んだ生徒が多いことから、等高線から地形と標高差を読み取る力が十分ではなかったこと、「ア」「ウ」を選ばなかった生徒が多いことから、地図記号の基本的な知識が十分ではなかったことが考えられる。

#### 大問4

問1 正解 通過率 19.1%

誤答 率 80.9%

この問題では、三国干渉とはどのようなできごとかを、三国干渉を行った国々の国名をあげて答える必要があるが、誤答となった解答の中では、「イギリス、ロシア、アメリカ」などのように、「アメリカ」「イギリス」を書いているもの多く見られた。大問4の年表中には「日英同盟」の記載があるが、三国干渉と日英同盟のつながりの把握が不十分だったとも言える。三国干渉という歴史的事象に関する知識と、歴史的事象を歴史の流れの中で把握する力がともに十分ではなかったと考えられる。

# 数 学

## 【第1回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○数と式・方程式

基本的な数と式の計算技能の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、72.9%であった。大問1(8)は等式を1つの文字について解く問題で、正答率が54.2%であった。等式の性質を定期的に確認することで、より一層の定着を図りたい。大問3(2)②は連続する4つの奇数を文字式で表す問題で、正答率が14.7%と低く、無答率が24.3%と高かった。問題を正しく把握し、適切な形の式に表現することに課題があることがわかる。

#### ○図形

基本的な図形の性質についての理解や計量の技能、図形について論理的に考察し表現する能力の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、38.0%であった。大問2(4)は立体の体積を求める問題で、正答率が19.4%であった。面積や体積の求め方の公式を覚えるだけでなく、なぜその公式で求められるのかを含めて理解を促していくことが大切である。

#### ○関数

一次関数のグラフについて図形の性質を利用して解く応用力の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、28.0%であった。大問1(10)は反比例の比例定数の範囲を求める問題で、正答率は13.3%、無答率は41.8%であった。関数に関する知識や技能を利用して応用問題にも対応するため、問題文に示された内容をひとつひとつ丁寧に処理する力を身に付けさせたい。

#### ○資料の活用

不確定な事象をとらえ、予測し、問題解決する技能をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、55.6%であった。

### 〈多く見られる誤答分析〉

大問1 (11) 確率

正解  $\frac{19}{36}$  通過率 44.8%

誤答  $\frac{1}{6}$  率 17.2%

出る目の数の和が10以上となる、6通りで計算したと思われる誤答が多かった。

大問2 (2) ヒストグラム

正解 ウ 通過率 63.9%

誤答 エ 率 13.3%

中央値の回数を間違えたと思われる誤答が多かった。

## 【第2回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○数と式・方程式

基本的な数と式の計算技能の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、69.2%であった。大問1(8)は式の値を求める問題で、正答率は、43.0%であった。誤答の多くは、問題の式を変形せずに、直接  $x$ 、 $y$  の値を代入し計算を間違えたと思われる。与式を因数分解してから代入することのよさを理解させ、能率よく処理できるよう指導したい。

#### ○図形

基本的な図形の性質の理解や計量の技能や図形の見方や考え方、図形について論理的に考察し表現する能力の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、37.3%であった。大問2(3)は折り返した三角形の角の大きさを求める問題で、正答率は38.5%で、無答率は9.7%と比較的低かった。折り返した図形で等しくなる角や辺などに着目し、図形の性質についての知識および理解を深めさせたい。大問3(1)は、三角形の合同を証明する問題である。式と理由、合同条件の両方を満たした解答は18.8%、合同条件のみ不可の解答は13.5%、無答率は14.5%であった。三角形の合同条件を確実に覚え、その根拠とともに確実に伝えられる力を身に付けたい。

#### ○関数

一次関数と関数  $y=ax^2$  についての基本的な理解や、関数  $y=ax^2$  について図形の性質を利用して解く応用力などをみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、27.0%であった。大問4(2)は一次関数と関数  $y=ax^2$  について、線分の長さから点の  $x$  座標を求める問題で、正答率が12.8%と低く、無答率が54.0%と高かった。求める点の座標を文字で表し、線分や面積の関係から方程式をたてて解く力を身に付ける必要がある。

#### ○資料の活用

起こり得る場合をもれなく調べ、与えられた条件を満たす確率を求めること、度数分布表に整理された資料についての理解をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、50.0%であった。

### 〈多く見られる誤答分析〉

大問1(12) 三角形の面積の比

正解 9 : 2 通過率 1.8%

誤答 3 : 1 率 10.0%

相似比を面積比に計算しなおさず、そのまま答えたと思われる誤答が多かった。

大問3(2)① 最頻値

正解 181 通過率 32.9%

誤答 174~188 率 31.1%

最頻値が含まれる階級である174~188と答えた誤答が多かった。

# 理 科

## 【第1回 結果講評】

### <各分野の出題の意図と考察>

#### ○気象の変化

気象観測の結果を正しく読み取る能力や、空気中の水蒸気に関する計算能力、台風についての知識の習得、および静電気についての知識をみることをねらいとして出題した。気象観測の結果から台風の接近した時刻を問う問題や、偏西風の名称、放電の名称を問う問題は通過率が高いが、水蒸気量の計算問題や台風の中心付近の風の流れを問う問題はやや通過率が低く、公式など知識の習得が不十分であると考えられる。また、台風の進路が時期によって変化する理由を答える問題の通過率は特に低く、公式の意味や、問題で問われている内容を把握する能力を身に付けることが課題と考えられる。

#### ○植物のはたらき

植物の光合成のはたらきを調べる実験を中心とし、実験に使用する試薬、実験に関する物質や実験手順の知識の習得と、実験の結果を正しく読み取る能力をみることをねらいとして出題した。物質の性質や実験操作に関する知識を問う問題の通過率は比較的高く、基本的な知識の習得はできているものとみられるが、BTB溶液の色の変化に関する物質についての問題の通過率はやや低く、科学的な思考力を身に付けることが課題と考えられる。

#### ○電流とそのはたらき

電源装置と電熱線をつないだ回路に関する実験を中心に、電流とそのはたらきと状態変化に関する知識の習得をみることをねらいとして出題した。沸点の名称を問う問題やグラフの作図問題は通過率が比較的高いが、計算問題や実験操作についての問題、実験結果を考察する問題は通過率が低く、計算を含めた科学的な思考力を身に付けることが課題と考えられる。

#### ○化学変化と質量

化学変化に関わる物質についての知識の習得をみるとともに、グラフを正しく読み取って計算することにより答えを導き出す能力をみることをねらいとして出題した。水の化学式や、鉄の燃焼に関する単純な知識問題の通過率が高いが、実験結果の読み取りを必要とする複雑な計算問題や、実験結果を考察する問題は通過率が低く、計算を含めた科学的な思考力・表現力を身に付けることが課題と考えられる。

### <多く見られる誤答分析>

#### 大問1

問6            正解    ア, イ, エ    通過率 25.8%  
                  誤答    ア, エ            率 44.1%

気体の性質を答える問題。アンモニアの性質についての知識不足、密度についての理解が不十分であることが考えられる。

#### 大問5

問3            正解    ウ    通過率 26.5%  
                  誤答    イ            率 46.2%

実験の結果を考察する問題。化学反応により密閉容器内の気体の体積が減る実験を、化学反応で気体が発生する実験と混同していることが考えられる。

## 【第2回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○地層と過去のようす

地形図や柱状図から読み取れることを中心に、堆積岩や化石に関する知識の習得、データを正しく読みとる能力をみることをねらいとして出題した。堆積岩の特徴、代表的な示準化石の示す年代に関する知識を問う問題の通過率は高いが、記述の内容が長い示準化石の特徴を答える問題の通過率はそれより低い。柱状図の読みとりの問題の通過率もやや低く、科学的な思考力・表現力を身に付けることが課題と考えられる。

#### ○生命の連続性

エンドウを用いた遺伝の法則を確かめる実験から、遺伝の規則性と植物のつくりに関する知識の習得、結果から遺伝子についての考察をする能力をみることをねらいとして出題した。花のつくりや遺伝に関する知識を問う問題の通過率は高かったが、花粉管の伸長の記述問題については、記述式であったためかやや通過率が低かった。遺伝子の組み合わせを結果から考察する問題についても通過率はやや低い程度であり、この分野の習得率は比較的高いとみられ、知識・科学的思考力・表現力をさらに高めることが課題と考えられる。

#### ○化学変化とイオン

塩化銅水溶液の電気分解の実験を通して、イオンに関する知識の習得をみることをねらいとして出題した。実験の技能や実験結果、電流とイオンの関係の記述など、実験に関する問題の通過率は高いが、イオン式を書く問題や塩素の性質を答えるなどの知識問題の通過率は低い。また、質量パーセント濃度の計算問題の通過率も高くなく、知識の定着を図るとともに、計算能力を身に付けることが課題と考えられる。

#### ○運動の規則性

物体の運動についての知識の習得と、実験データから必要な数値を読み取り、答えを導き出す能力をみることをねらいとして出題した。教科書などにも記載されているような実験結果が何を表しているかを問う問題、実験内容から実験結果を考察する問題や、グラフの読みとり問題の通過率は高かった。しかし、圧力や平均の速さ、物体にかかる力など、文章や図、表から値を読み取って、計算や作図を行う問題の通過率が低く、計算を含めた科学的な思考力・表現力を身に付けることが課題と考えられる。

### 〈多く見られる誤答分析〉

大問1

問2 正解 C>B>A 通過率 42.4%  
誤答 C>A>B 率 41.3%

等圧線の読みとり問題。気圧の高い側がどちらかを読み取れていないことが考えられる。

問6 正解 2.7 通過率 23.2%  
誤答 67.5 率 32.8%

密度を求める基本問題だが、体積ではなく1辺あたりの長さが示されている。密度が体積あたりの質量であることを理解していないこと、立方センチメートルやセンチメートルの記号の意味を理解していないことが考えられる。



# 英 語

## 【第1回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○リスニング

正答率は70.7%。4つの分野の中で最も正答率が高く、日頃の指導の成果が出ている。対話文を聞き日本語で答える問題、スピーチを聞き質問に答える問題でも、正答率は高い。一方、英語で指示された場面での適切な発言を選ぶ問題では、正答率は32.3%・44.4%とほかの問題と比べて課題が残る。

#### ○語い

今回出題した語は August, lives, eight, big の4語である。(正答率は順に52.9%, 36.3%, 64.9%, 82.0%。) いずれも1学年で学ぶ基本的な語で、bigについては定着していると言えるものの、学習済みの内容を定着させていく工夫がさらに必要であると思われる。

#### ○長文読解

今年度から大問2が読解問題から語いの問題に変更になったことにより、読解問題に使える時間が増加したものと想定される。そのため、昨年度までは読解問題で見られた無答の割合が3割を超える設問が大幅に減った。(1問のみ無答が34.1%〔大問4 問8〕)

##### ・長文

正答率は44.0%。まとまった量の英文を読み取り、英文の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。選択式の問題や文法問題はある程度解けたようだが、内容理解を伴う日本語記述や英問英答については課題が残った。

##### ・対話文

正答率は44.3%。対話の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。長文同様、選択式の問題はある程度解けたようだが、英問英答など記述式については課題が残った。

#### ○英作文

指定語を使って自分の意見を述べる形式で、解答するうえでのハードルが高いためか、上位群と下位群の差が見られる。1文目でI like play ~やI like study ~等、動名詞や不定詞を適切に使えない解答が目立った。基本的語彙の定着や、時制、接続詞becauseを使った表現等、学習済みの文法事項の定着が課題である。

### 〈多く見られる誤答分析〉

#### 大問2 B 適語補充

正解 lives 通過率 36.3% live と解答したもの 34.1% 無答率 7.0%

7割の生徒が動詞 live「住む」を知っていたものの、3単現の表現であることを理解し、語形変化ができた生徒は、その半数であった。

#### 大問4 問2 語順整序

正解 you sleep well last night 通過率 44.6%

you sleep last night well と解答したもの 24.2%

you well sleep last night と解答したもの 15.0%

副詞 well の位置が適切でない解答がかなりの数に上る。

## 【第2回 結果講評】

### 〈各分野の出題の意図と考察〉

#### ○リスニング

正答率は59.2%。第2回でも英語で指示された場面での適切な発言を選ぶ問題の、正答率が4割である。複数の情報をもとに正答を判断する問題において、正確な聞き取りが課題として残る。

#### ○語い

正答率が5大問の中で1番よい。今回出題した語は Sunday, country, two, send の4語である。(正答率は順に77.6%, 64.0%, 81.8%, 51.0%)。曜日や数字を書く問題においては正答率が高い一方で、send は定着が十分でないと言える。

#### ○長文読解

まとまった量の英文を読み取り、英文の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。英問英答において、動詞や代名詞を適切に変化させていないミスが目立つ。

##### ・長文

正答率は45.0%。第1回に比べ、文挿入の問題と日本語記述の問題の正答率がよい。内容理解の適語選択や英問英答など、本文中の情報を正確に理解する点が課題が残る。

##### ・対話文

正答率は41.0%。対話の前後に文をあてはめる問題については2回とも正答率が5割を超えている。対話の内容を読み取れていると考えられる。しかし、対話全体の内容理解を問う問題では正答率は3割程度であり、限られた時間で正確に理解する力が課題として残る。

#### ○英作文

第1回に比べ、無答率が5%減と少し改善がみられた。(無答率10%) テーマは比較的書きやすい点もあったと思われるが、同じ文構造を繰り返していたり、条件を守れていない解答が目立った。限られた時間内で表現していく力が求められる。

### 〈多く見られる誤答分析〉

#### 大問3 問2 語形変化

正解 asking 通過率 28.3% 誤答率 66.1% 無答率 5.6%

asked という誤答が57.1%。stop ~ing の定着に課題があると考えられる。他には、下線部全体が過去形であるため、asked を書いた可能性もあると思われる。

#### 大問4 問8 内容理解(適文補充)

正解例 Did you like it? 通過率 25.6% 誤答率 44.6% 無答率 29.8%

問われている内容(どういうことを書くか)は理解できていても、一般動詞の疑問文の作り方や接続詞の使い方、品詞の正しい理解の定着が課題として残る。具体的には Did you interesting the book(interesting it)? や Did you think interesting book? 等の解答であった。

#### 大問5 〈誤りの見られる表現の主なもの〉

- ・ Because ~.の誤用(主節がないもの)
- ・ Playing sports is ~.の羅列
- ・ like / love play ~ や it is interesting for me to reading ~ など不定詞や動名詞の不適切な使用

## 4 平成29年度埼玉県学力・学習状況調査の結果

### 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒の一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### 2 調査内容

各教科について、下記の調査方法に基づいて作成したペーパーテストにより実施する。また、学習に対する意識や生活の様子に関する質問紙調査を併せて実施する。

- ① 教科に関する調査
- ② 児童生徒に対する質問紙調査
- ③ 学校及び市町村教育委員会に対する質問紙調査

### 3 教科に関する調査結果の概要（◇良好 ◆課題）

#### (1) 「平均正答率」等の状況

##### ①国語

◇中学校3年生において、「話す・聞く能力」を除く、全ての項目で県の平均値を上回った。

◆小学校4年生、5年生において、領域別、観点別の全項目で県の平均値を下回った。

##### ②算数・数学

◇領域別の「数と計算」「量と測定」「図形」、観点別の「数量や図形についての技能」における市全体の平均値が県の平均値を上回った。

◆領域別の「数量関係」、観点別の「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」における市全体の平均値が県の平均値を下回った。

##### ③英語

◇中学2年生の観点別の「外国語表現の能力」、中学3年生の領域別の「読むこと」、観点別「外国語理解の能力」の平均値が県の平均値を上回った。

◆領域別の「聞くこと」「書くこと」、観点別の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」における市全体の平均値が県の平均値を下回った。

#### 【国語】

		昨年度レベル	今年度レベル	学力の伸び	領域等別平均正答率			観点別平均正答率				
					話すこと・聞くこと・書くこと	読むこと	伝統的な言語文化等	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
小学校4年生	市平均	64.3	-	5-A	-	55.8	59.4	68.4	44.7	63.2	59.4	68.4
	県平均	67.3	-	6-C	-	58.0	60.5	72.4	46.8	65.5	60.5	72.4
小学校5年生	市平均	67.1	5-A	6-A	3.0	55.4	63.1	72.0	59.2	51.6	63.1	72.0
	県平均	67.6	6-C	6-A	2.0	57.5	63.2	72.2	60.0	54.9	63.2	72.2
小学校6年生	市平均	67.4	6-A	7-B	2.0	52.1	73.3	67.8	62.5	41.7	73.3	67.8
	県平均	68.2	7-C	7-B	1.0	52.4	74.7	68.4	64.7	40.1	74.7	68.4
中学校1年生	市平均	64.2	7-B	8-C	2.0	68.9	73.3	58.3	73.0	64.9	73.3	58.3
	県平均	64.4	7-B	8-C	2.0	68.9	73.0	58.8	72.9	64.9	73.0	58.8
中学校2年生	市平均	59.1	7-A	8-B	2.0	62.4	59.5	58.2	58.5	66.2	59.5	58.2
	県平均	59.1	7-A	8-B	2.0	63.2	59.7	57.8	58.3	68.1	59.7	57.8
中学校3年生	市平均	58.1	8-B	9-C	2.0	53.1	69.5	53.2	60.5	45.7	69.5	53.2
	県平均	57.2	8-C	8-A	2.0	52.8	68.3	52.4	60.8	44.8	68.3	52.4
平均	市平均	63.4	-	-	-	58.0	66.4	63.0	59.7	55.6	66.4	63.0
	県平均	64.0	-	-	-	58.8	66.6	63.7	60.6	56.4	66.6	63.7

【算数・数学】

			昨年度レベル	今年度レベル	学力の伸び	領域別平均正答率				観点別平均正答率		
						数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
小学校4年生	市平均	61.7	-	5-B	-	65.8	65.3	51.9	59.9	46.4	69.2	58.1
	県平均	61.8	-	5-B	-	66.4	64.8	51.6	60.2	47.4	68.6	58.7
小学校5年生	市平均	61.2	5-B	6-C	2.0	65.9	52.4	67.1	54.8	21.4	62.9	68.7
	県平均	61.6	5-B	6-C	2.0	66.2	52.6	66.9	56.1	26.0	62.9	68.5
小学校6年生	市平均	61.4	6-B	6-A	1.0	68.9	57.8	61.6	53.0	50.2	66.2	60.6
	県平均	62.3	6-B	6-A	1.0	70.0	59.0	61.7	53.9	51.2	66.6	61.8
中学校1年生	市平均	66.3	7-C	7-B	1.0	60.1	63.4	64.2	78.3	47.5	71.6	66.6
	県平均	65.9	7-C	7-B	1.0	59.9	62.1	64.7	77.9	46.3	71.5	66.3
			昨年度レベル	今年度レベル	学力の伸び	数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
中学校2年生	市平均	54.8	7-B	8-C	2.0	61.1	50.8	59.1	41.7	42.6	56.6	57.7
	県平均	54.8	7-B	8-C	2.0	60.5	50.6	59.4	42.7	41.8	56.1	58.9
中学校3年生	市平均	63.4	7-A	8-A	3.0	70.8	70.0	42.0	65.3	44.1	64.2	75.0
	県平均	61.7	7-A	8-B	2.0	68.8	68.1	40.1	64.9	41.7	62.7	73.3
平均	市平均	61.5	-	-	-	65.4	60.0	57.7	58.8	42.0	65.1	64.5
	県平均	61.4	-	-	-	65.3	59.5	57.4	59.3	42.4	64.7	64.6

【英語】

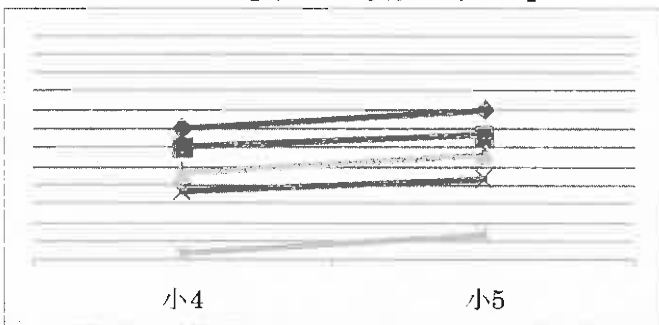
			昨年度レベル	今年度レベル	学力の伸び	領域別平均正答率			観点別平均正答率			
						聞くこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
中学校2年生	市平均	59.1	-	8-A	-	62.8	58.5	55.6	72.0	31.0	60.1	58.7
	県平均	59.7	-	8-A	-	63.1	59.4	55.7	73.2	29.6	60.6	59.4
中学校3年生	市平均	55.7	8-A	10-C	4.0	60.6	56.2	47.0	66.2	22.9	57.8	53.9
	県平均	55.3	8-A	10-C	4.0	60.9	55.4	47.2	67.0	26.0	57.3	53.5
平均	市平均	57.4	-	-	-	61.7	57.4	51.3	69.1	27.0	59.0	56.3
	県平均	57.5	-	-	-	62.0	57.4	51.5	70.1	27.8	59.0	56.5

(2) 「学力の伸び」の状況

同じ学齢の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。

前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分析の変化がわかります。

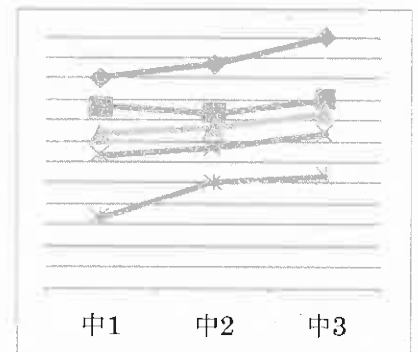
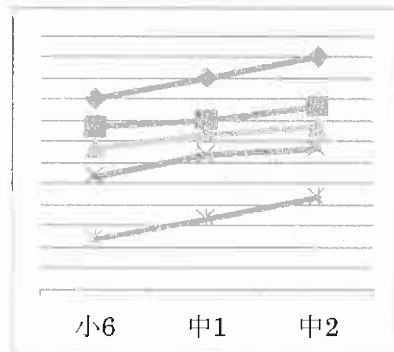
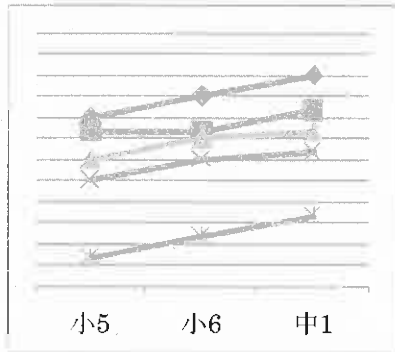
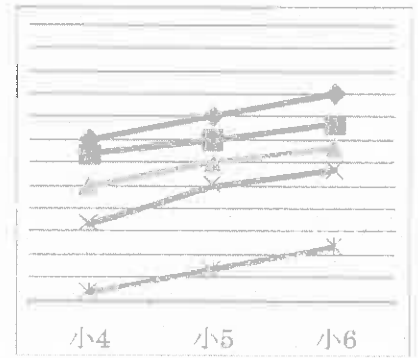
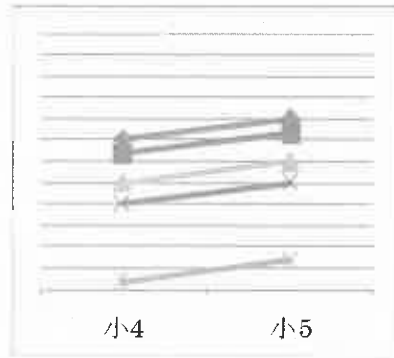
【学力の状況の見方】



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- \* ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

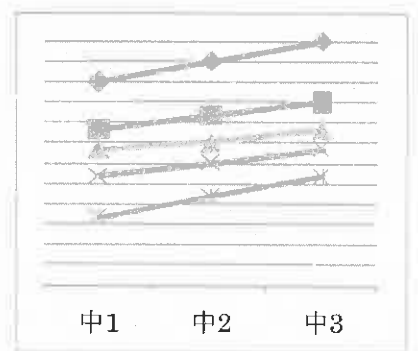
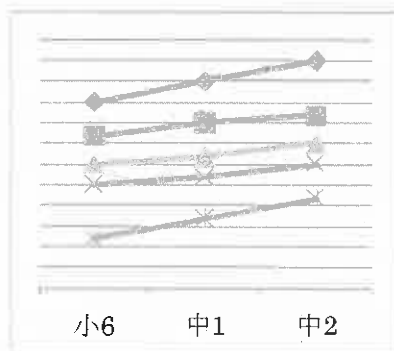
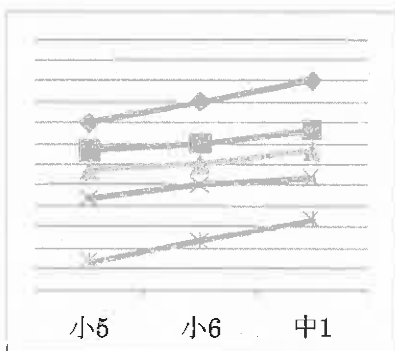
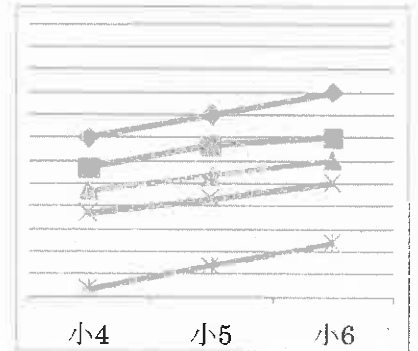
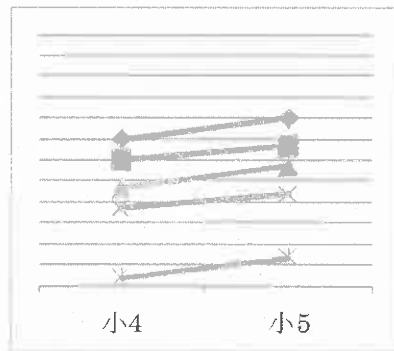
①国語

- ◇どの学年もどの層においても、児童生徒の学力の伸びが見られる。
- ◇中3になり、上位層と下位層との差が狭くなり、下位層が底上げされていることがわかる。



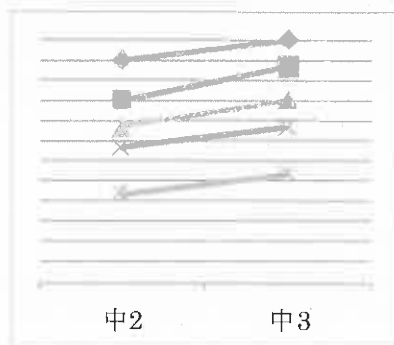
②算数

- ◇上位層、中位層、下位層、どの層の児童生徒も学力を伸ばしている。
- ◆小5から小6、中1から中2の上から数えて25%にあたる児童生徒の学力の伸びが、他の階層に比べ、緩やかになっている。



③英語

- ◇上位層、中位層、下位層、どの層の児童生徒も学力を伸ばしている。



#### 4 質問紙調査結果より（一部抜粋）

※表中の数字は、児童生徒質問紙調査で児童生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計を示す。

※「授業に関すること」についての質問は、小4・6と中2は前学年の国語について、小5、中1・3は前学年の算数（数学）について回答している。

(%)

項目	質問内容		小4	小5	小6	中1	中2	中3
勉強する理由	①勉強することが楽しい、好きだから	埼玉県	76.9	71.3	65.1	60.3	37.6	31.3
		川越市	79.0	74.4	68.8	62.3	39.1	34.5
	②将来の進学や就職の役に立つから	埼玉県	88.7	88.8	92.0	96.2	95.3	96.3
		川越市	89.0	88.9	91.3	96.9	95.4	96.3
	③先生や家の人にほめられたいから	埼玉県	58.5	50.6	45.7	42.4	39.4	37.1
		川越市	58.9	48.6	48.0	42.6	42.2	39.1
自分や地域に関する事	④自分には、よいところがあると思う	埼玉県	76.8	76.3	79.0	75.0	67.3	69.4
		川越市	78.2	78.4	80.3	73.7	72.3	69.2
	⑤今住んでいる市の歴史や自然に関心がある	埼玉県	69.6	71.3	67.5	58.1	42.1	35.0
		川越市	68.7	73.5	71.5	60.7	48.1	40.5
	⑥将来の夢や目標をもっている	埼玉県	89.6	91.2	87.5	86.8	75.3	72.2
		川越市	89.8	90.8	87.3	86.5	76.2	70.7
授業に関する事	⑦授業のまとめを先生に見てもらった	埼玉県	79.1	84.0	81.0	84.9	73.4	80.3
		川越市	80.8	84.8	83.3	86.5	74.7	79.9
	⑧グループで考えを出し合って課題を解決した	埼玉県	84.7	89.6	89.4	94.4	83.2	86.6
		川越市	84.3	90.4	89.3	94.3	83.0	86.5
	⑨授業で考えを出し合って課題を解決した	埼玉県	81.2	87.7	88.3	91.0	82.4	85.1
		川越市	81.8	88.1	89.2	90.8	83.5	86.5
家庭学習	⑩授業の予習や復習をしている	埼玉県	70.9	72.1	71.7	73.2	61.0	54.6
		川越市	71.1	72.4	74.4	72.2	60.2	53.7

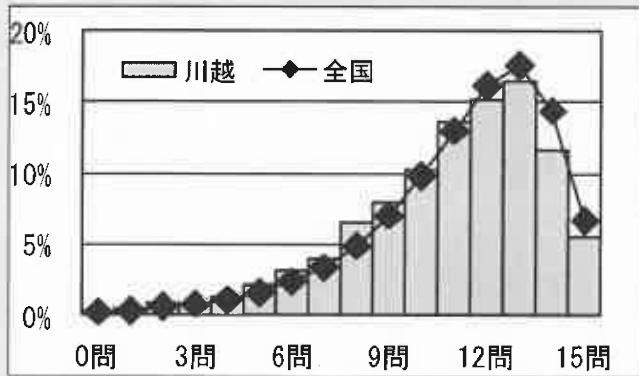
- ◇概ね県平均値と同様の傾向がでているが、多くの項目で、県平均値を上回っている。
- ◇「①勉強することが楽しい、好きだから勉強する」については、全ての学年で県平均値を上回っている。
- ◆「⑥将来の夢や目標をもっている」については、小5、小6、中1、中3において、県平均値を下回っている。

## 5 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析（参考）

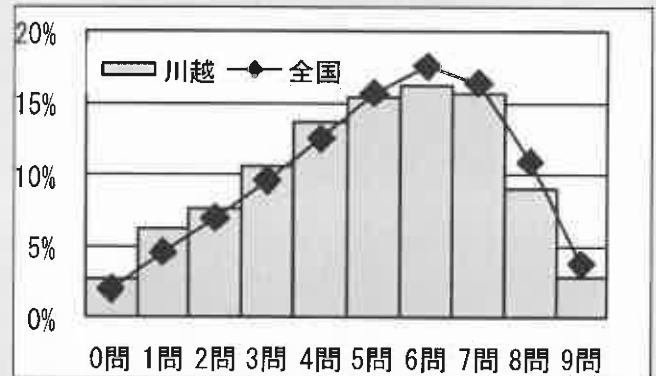
### 平成29年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果（小学校6年）

教科ごとの調査について、正答分布率（正答数ごとの児童の割合）、調査結果の概要及び指導改善のポイントは、以下のとおりです。

【国語A】川越市の平均正答率：72%



【国語B】川越市の平均正答率：54%



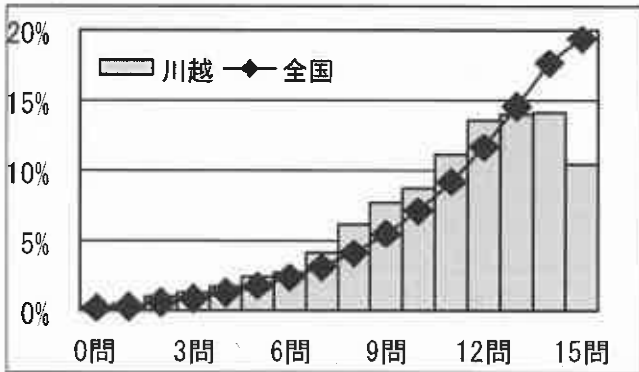
【結果概要】◇今回出題された漢字の読みについては、相当数の児童ができています。

- ◆目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題がある。
- ◆自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。

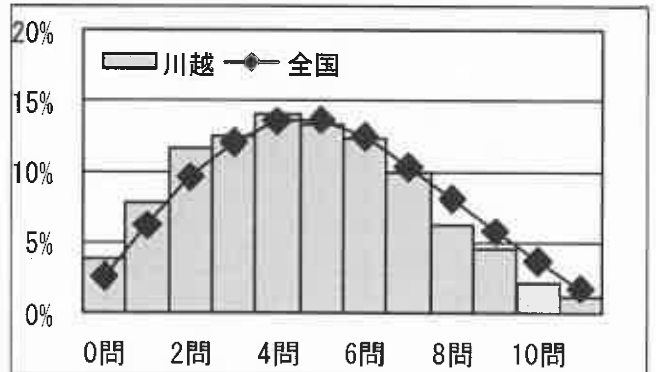
【指導改善のポイント】

- 読み手に自分の伝えたいことが分かるようにするため、具体的な事実を基にしたり、複数の内容を関係付けたりして必要な内容を整理して書くことは重要である。目的や意図に応じて、取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、その中から、具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導することが大切である。
- 物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにすることは重要である。そのために、自分の考えが、どの叙述に基づいているか、自分の経験などどう結びつけているのかを明らかにしながら伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるように指導することが大切である。さらに、互いの考えの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが大切である。

【算数A】川越市の平均正答率：73%



【算数B】川越市の平均正答率：42%



【結果概要】◇具体的な問題場面において、情報で表すことができる二つの数量の関係の理解については、相当数の児童ができています。

- ◇立方体の面と面の位置関係は、相当数の児童ができています。
- ◆商を分数で表すことに課題がある。
- ◆高さが等しい平行四辺形と三角形における、底辺と面積の関係の理解に課題がある。
- ◆身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。

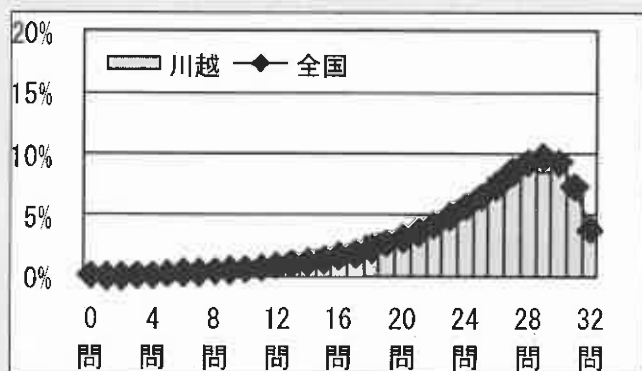
【指導改善のポイント】

- 整数、小数及び分数の計算においては、計算の意味と計算の仕方を、図や数直線などを用いて関連付けながら考察し、説明できるようにすることが大切である。
- 量の比較や測定においては、比較や測定の方法のよさを理解し、新たに学習する量の比較や測定に活用できるようにすることが大切である。
- 日常生活の中には、算数で学習した内容を基に数理的に処理し合理的に判断できる場面がある。日常生活の事象を、児童にとってより身近なものなどに置き換え、割合を活用して考察したり、表や図、グラフに表して捉え、そこから見いだすことができる特徴や傾向を基に考察したりすることができるようにすることが大切である。

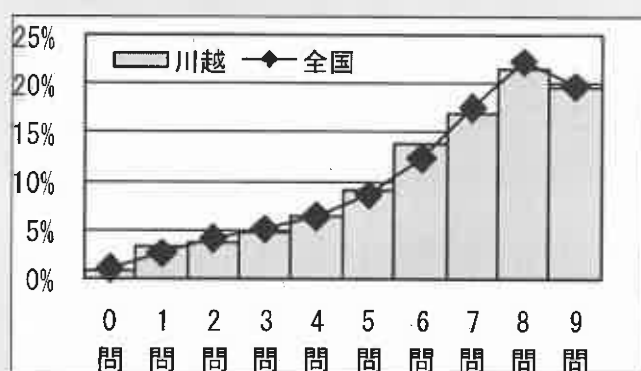
## 平成29年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果（中学校3年）

教科ごとの調査について、正答分布率（正答数ごとの生徒の割合）、調査結果の概要及び指導改善のポイントは、以下のとおりです。

【国語A】 川越市の平均正答率:76%



【国語B】 川越市の平均正答率:72%



【結果概要】 ◇目的に応じて資料を効果的に活用して話すことは、相当数の生徒ができています。

◇文脈に即して漢字を正しく読むことは、相当数の生徒ができています。

◆事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題がある。

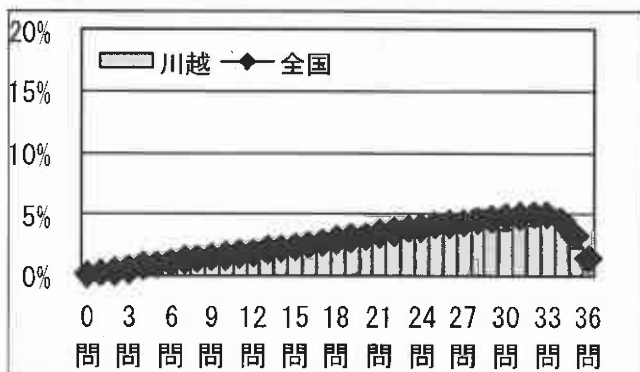
◆場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することに課題がある。

【指導改善のポイント】

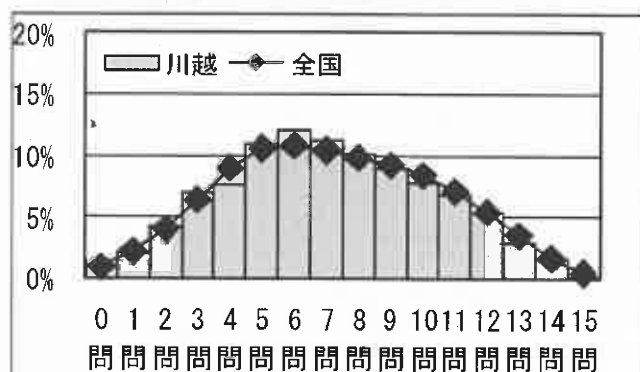
○事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるために、それぞれの語句が話や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が表現するときどのように活用すればよいかについて辞書等を用いながら考える機会を意図的に設ける必要がある。

○目的に応じて一つ一つの叙述の意味を捉える力を身に付けるために、着目した語句や文が含まれる部分を読んで考えるだけでなく、文章中の時間的、空間的な場面の展開などに注意して文章全体を読んだ上で考えるように指導する必要がある。その際、生徒の実態に応じて、話の展開に注意して読むとはどういうことなのかについて、文章の具体的な内容を取り上げながら説明することも大切である。

【数学A】 川越市の平均正答率:64%



【数学B】 川越市の平均正答率:47%



【結果概要】 ◇実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることへの理解については、相当数の生徒ができています。

◇円錐が回転体としてどのように構成されていることへの理解については、相当数の生徒ができています。

◆反比例の表から、比例定数を求めることに課題がある。

◆2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【指導改善のポイント】

○2つの数量の関係から関数関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象における2つの数量について一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まる関係を確認する活動を重視することが大切である。さらに、その2つの数量について変化や対応の様子を表・式・グラフを用いて捉え、それらを相互に関連付けて考察することを通して、どのような関数になりそうか検討し、関数関係を判断する活動も大切である。

○図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるようにするために、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する場面を設定することが大切である。その際、説明される結論が正しいものとなるようにするためには、前提となる条件が不足していないかどうかについて検討したり、振り返ったりする活動を重視することが大切である。



平成 29 年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果の傾向

90%以上の児童が肯定的に回答した項目

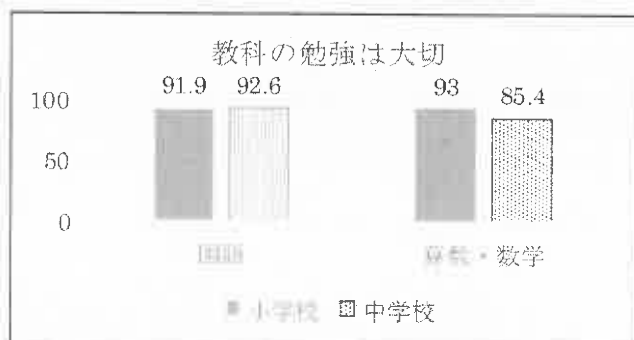
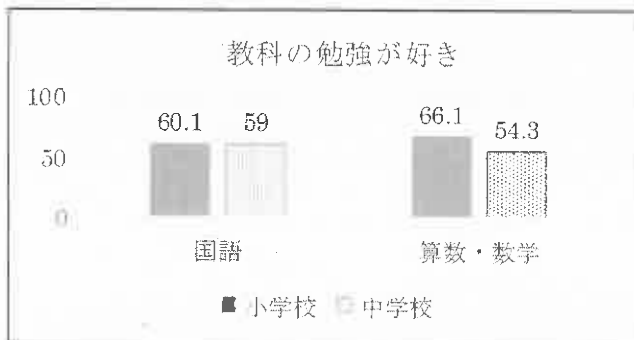
児童質問紙  
(小学校 6 年生)

- <基本的な生活習慣>
  - ・朝食を毎日食べている。 96.5%
  - ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 92.1%
- <自尊意識>
  - ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 95.5%
- <規範意識>
  - ・学校のきまりを守っている。 95.9%
  - ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 97.1%
  - ・人の役に立つ人間になりたいと思う。 92.8%
- <学習時間等>
  - ・家で、学校の宿題をしている。 97.9%
- <学習状況>
  - ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。 95.2%
- <学習に対する関心・意欲・態度>
  - ・学校で、好きな授業がある。 93.3%
  - ・国語の勉強は大切だと思う。 91.9%
  - ・算数の勉強は大切だと思う。 93.0%

全国平均と比べて好ましい回答であった項目

- <学習時間等>
  - ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 70.0% (全国比+5.5)
  - ・家で、学校の授業の予習をしている。 54.1% (全国比+13.1)
  - ・家で、学校の授業の復習をしている。 66.5% (全国比+12.7)
- <学校生活等>
  - ・学級会などの話し合いの活動で、自分と異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている。 59.2% (全国比+8.9)
  - ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。 89.3% (全国比+3.3)
- <地域とのかかわり>
  - ・今住んでいる地域の行事に参加している。 75.7% (全国比+13.1)
- <学習状況>
  - ・5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 82.4% (全国比+7.3)
  - ・5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思う。 82.9% (全国比+4.8)
- <学習に対する関心・意欲・態度>
  - ・5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいる。 84.9% (全国比+7.0)
  - ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 81.7% (全国比+11.9)

<関心・意欲・態度に関する項目から> \*数値は、質問項目について肯定的な回答をした児童生徒の割合



○学習に対する関心・意欲・態度に関する質問項目について、肯定的な回答は中学校より小学校で多い。  
○中学校で、「勉強が好き」の肯定的回答は国語、数学ともに6割前後であるが、「勉強は大切」の肯定的回答は国語93.0%、数学85.4%となっており、学習への関心が高いことが分かる。

## 90%以上の生徒が肯定的に回答した項目

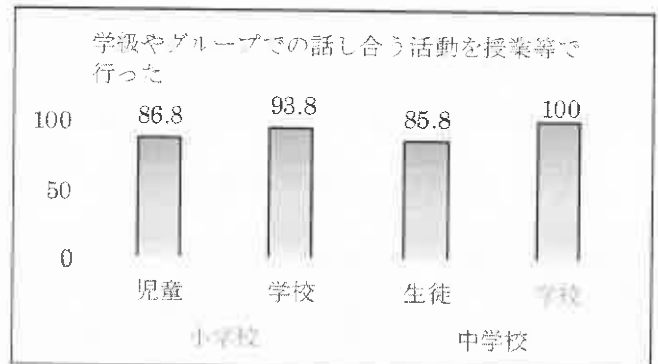
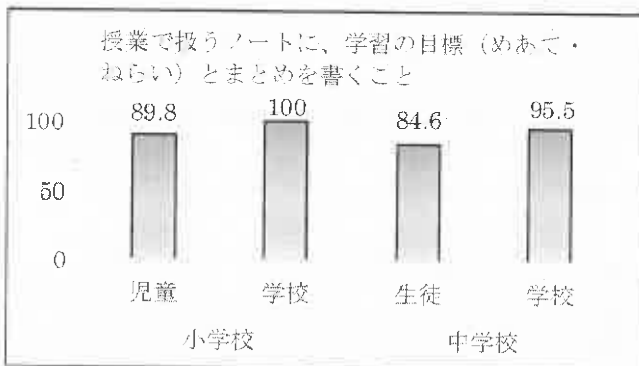
- 生徒質問紙  
(中学校3年生)
- 〈基本的生活習慣〉
    - ・朝食を毎日食べている。 93.2%
    - ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 92.8%
  - 〈自尊意識〉
    - ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 95.0%
  - 〈規範意識〉
    - ・学校の規則を守っている。 96.6%
    - ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 93.4%
    - ・人の役に立つ人間になりたいと思う。 91.6%
  - 〈学習状況〉
    - ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。 94.4%
  - 〈学習に対する関心・意欲・態度〉
    - ・国語の勉強は大切だと思う。 92.6%
    - ・数学ができるようになりたいと思う。 91.5%

## 全国平均と比べて好ましい回答であった項目

- 〈学習時間等〉
  - ・家で、学校の授業の予習をしている。 41.6% (全国比+9.9)
  - ・家で、学校の授業の復習をしている。 53.3% (全国比+2.8)
- 〈学校生活等〉
  - ・学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている。 45.7% (全国比+5.2)
  - ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。 84.8% (全国比+4.4)
- 〈学習状況〉
  - ・1, 2年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。 79.3% (全国比+7.3)
  - ・1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思う。 66.4% (全国比+8.5)
  - ・1, 2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。 71.9% (全国比+5.8)
- 〈学習に対する関心・意欲・態度〉
  - ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 75.6% (全国比+11.3)

## 〈学習指導(指導状況・指導方法、言語活動)から〉

\*数値は、質問項目について肯定的な回答をした児童生徒の割合及び学校の割合



○肯定的回答の状況については、昨年度と同様に、児童生徒より学校の方が多し。学校は、「学習の目標とまとめを書くように指導した」と考えていても、「授業で扱うノートに、学習の目標とまとめを書いていた」と思っていない児童生徒が概ね1割程度存在する。

○学力との関係では、肯定的回答をした児童生徒の平均正答率は高くなっている。

【改善】学習の「めあて」と「まとめ」について、児童生徒の理解がより一層深まるよう指導する。

○児童生徒による肯定的回答は、全国と比較して、小学校・中学校ともに全国を上回っているが、児童生徒と学校との肯定的回答には1割程度の差が出ている。

○学力との関係では、肯定的回答をした児童生徒の平均正答率は高くなっている。

【改善】児童生徒が、学級やグループなどで話し合う活動を通して、自らの考えが広がり深めたりできるような場を設定するよう指導する。

## 国語科授業づくり

### 「読むこと」～教科書の特性をとらえた単元計画～

川越市で採用している国語科の教科書（東京書籍）の「読むこと」単元の年間計画のねらいは、大きく分けて前半の教材で基本的な技能を習得させる、後半の教材で習得した力を活用させる、という配列になっています。前半の教材は、後半の教材に比べて、短い文章となっています。いわゆる「単元を貫く言語活動」は、後半の教材に位置づけられています。

#### ①学習内容、指導事項を単元名とする単元構成

（読解の基盤）

2年説明文「2つのせつめいをくらべよう」	物語文「ばめんごとに読もう」
3年説明文「読んで、感そうをつたえ合おう」	物語文「物語のしかけをさがそう」
4年説明文「説明のまとまりを見つけよう」	物語文「人物の変化をとらえよう」
5年説明文「筆者の考えをまとめて伝え合おう」	物語文「物語の山場をとらえよう」
6年説明文「文章を読んで自分の考えを持とう」	物語文「感動の中心をとらえよう」

モデル授業 6年

『～人物と人物との関係を考えよう～風切るつばさ』

#### ○学習の見通し（学習内容に対する見通し）

- ・「読むこと」の技能が単元名となっていて、技能習得が目標となるよう見通しを持たせる。

#### ○既習事項

- ・前学年の既習事項を想起させ本単元の技能との関連を図る。

1次では、この単元でどのような力を身に付けるのか、その力をどのように活用していくのか、見通しを持たせます。

今回は、人物と人物との関係の変化を学習します。



#### ○読解技能の定着

- 【説明文】・2年順序の読み取り方、3年段落のまとめ方、4年段落相互の関係、5年要旨のまとめ方、6年自分の考えを持ちながら読むこと
- 【物語文】・2年場面の様子、3年物語のしかけ、4年登場人物の心情の変化、5年山場を中心とする物語の構成、6年人物と人物の関係

2次では、上記にあるような、学習内容が中心となって展開されます。3次を見据えた指導が大切です。モデルは、主人公の心情の変化を色違いの付箋で表しています。さらに高学年の指導事項である、登場人物の相互関係を図で表しています。ここで、読解の技能を定着させます。

ある場面の人物相関図です。



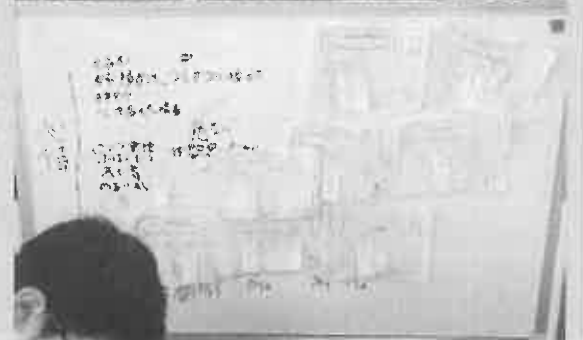
#### ○考えの交流

3次では、2次での活動を基に、考えを交流していきます。モデルは、2次で作成したシートを並べて、作品全体の主人公の心情の変化をグループでまとめていっています。終末には、どのような力が身に付いたのか単元全体を振り返ります。また、次の単元に向けての活用の見通しを持たせます。

人物相関図を並べることで、物語全体の心情の変化がわかります。

#### ○感想、振り返り

- ・「このようなことができるようになった」などメタ認知の振り返りができるようにする。
- ・さらに学習したいことなどの意欲も持てるとよい。



②言語活動を単元名とする単元構成

(情報活用)

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1年説明文「のりものことをしらべよう」         | 物語文「おはなしを読もう」       |
| 2年説明文「どうぶつのみみつをみんなでさくろう」    | 物語文「紙しばいをしよう」       |
| 3年説明文「はたらく犬について調べよう」        | 物語文「世界の物語をしょうかいしよう」 |
| 4年説明文「くらしの中にある「和」と「洋」を調べよう」 | 物語文「音読げきをしよう」       |
| 5年説明文「和の文化について調べよう」         | 物語文「物語の良さを解説しよう」    |
| 6年説明文「町の未来をえがこう」            | 物語文「本を読んですいせんしよう」   |

モデル授業 6年

『～「いのち」について語り合おう。読書座談会～海のいのち』

本単元は、教科書会社が示している言語活動ではなく、実態に応じて工夫した単元名になっています。

○学習の見通し（言語活動のゴールに対する見通し）

- ・「読むこと」と「書くこと」「話すこと・聞くこと」を関連付けた単元構成になっている。
- ・より主体的になっている。
- ・(上)の教科書の既習事項との関連が強い。

1次では、学習計画を知ったり、教師の言語活動の見本を見たりして、学習の目的意識を持たせるとともに、見通しを持たせることが大切です。また、前単元の学習内容をしっかりと導入で確認し、本単元で活用できるようにします。



教師の見本である読書座談会のビデオを見て、見通しを持っているところです。

1次

○ゴールに向かっていくために必要な読み

- 【説明文】・教材文の読み⇒内容＋書き振りを学ぶ  
 ・内容を調べる⇒話し合う  
 【物語文】・教科書教材の読み⇒並行読書教材の読み

教科書教材で学習の仕方を学び、並行読書教材で、自力で活動を進めるのが一般的な進め方です。並行読書本は、ねらいにあった選書をするのが大切です。※2次で学習する内容に沿った本が望ましいです。

自力で教科書教材と並行読書教材を重ねて読んでいきます。



2次

説明文

物語文

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1年：のりもの図鑑をつくる   | 手紙を書く        |
| 2年：動物クイズ大会を行う   | 紙芝居で紹介する     |
| 3年：リーフレットを作る    | 本の紹介・音読発表を行う |
| 4年：〇〇ブックを作る     | 読書会・音読劇を行う   |
| 5年：説明会を開く       | 解説・感想文・朗読    |
| 6年：プレゼンテーションをする | 本の推薦カードを書く   |

読書座談会の様子です。



3次

この言語活動が、ゴールです。上記は、教科書会社が示している言語活動ですが、実態などに応じて、工夫することもできます。

②言語活動を単元名とする単元構成 授業実践例

## 和と洋ブックで身の回りの「和」と「洋」のよさを伝える 4年生「くらしの中の和と洋」

1 単元の目標

- (1) 暮らしの中の「和」と「洋」の違いに関心をもち、目的に応じて引用したり要約したりして、「和と洋ブック」を作ろうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 自分の考えを述べたり紹介したりするために、文章の必要な部分を引用したり要約したりすることができる。 (読むこと)
- (3) 調べたことをもとに、「和」と「洋」を比較しながら、事例を挙げて文章を書くことができる。 (書くこと)
- (4) 段落相互の関係に注意しながら、指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

2 教師の事前準備

- ・本単元で児童に作らせたい「ブック」のモデルの作成 (児童が作る大きさのもの・拡大版の2種類)
- ・並行読書の選定 (今回の単元の学習テーマと合致したもの)  
 <今回使用した並行読書の本>

「日本と世界のくらし どこが同じ?どこがちがう?衣・食・住」 (汐文社)  
 「いろいろなたべものはじまり」(ポプラ社) 「日本のくらしの知恵事典」(岩崎書店)  
 「手で食べる?」(福音館書店) 「食べもの記」(福音館書店)  
 「日本のくらし絵事典」(PHP 研究所)「和菓子のほん」(福音館書店) など  
 その他 国語辞典、ポプラディア (ポプラ社) を使用した。

- ・単元計画表の作成 (児童に学習の流れが分かるようにするため)  
 <単元計画表 (児童用) >

教室に掲示したり、児童に配布したりしておく。

5	4	3	2	1	時
/	/	/	/	/	月
11	10	9	8	7	6

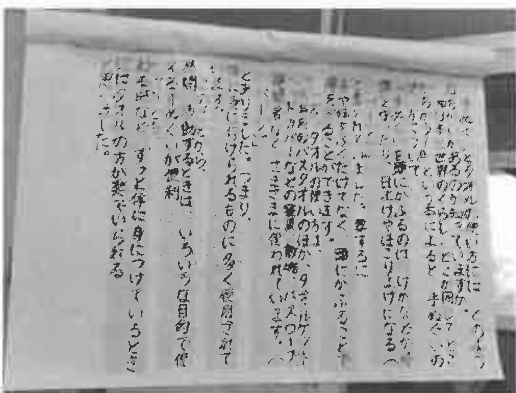
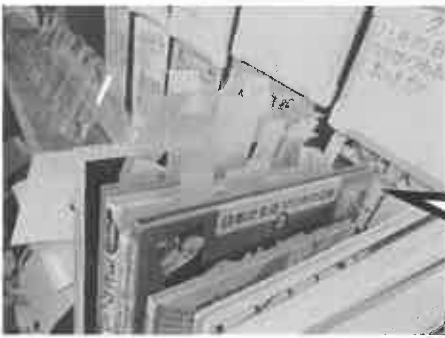
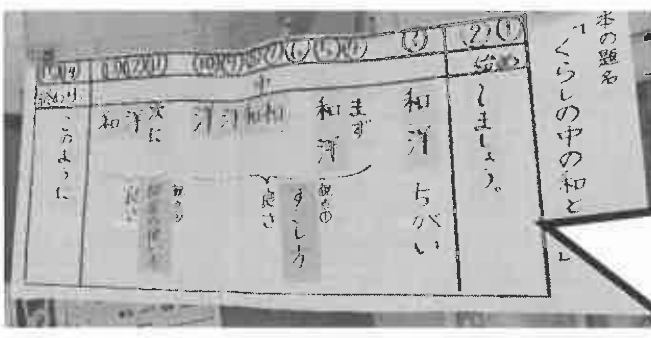
ふりかえり  
 まとめたこと、分かったこと、できること、思ったこと、気づき、感想、質問、答え、など

3			2			1	次
1	1	1	0	9	8	7	6
5	4	3	2	1	1	時	
自分の選んだ本						くらしの中の和と洋	
ブックを読み合い、感想を交流しよう。			ブックの残りを書いて、完成させよう。			学習の計画を立てよう。	
ブックを作るために、「和と洋」の良さを引用・要約しよう。			ブックを作るために、必要な表現を考えよう。			今日のめあて	
ブックを作るために、和室と洋室の良さを引用・要約しよう。			ブックを作るために、「くらしの中の和と洋」に書かれている「和」と「洋」の良さを考えよう。				

和と洋ブックで身の回りの「和」と「洋」のちがいを良さを伝えよう

振り返りカードも用意し、授業ごとに振り返りを書かせる。

3 指導計画

次	時	主な学習活動	学習内容
1 (単元の見通しを持たせる)	1	<p>・教師の作成したモデル「和と洋ブック」を見て、学習課題をつかむ。</p> <div data-bbox="207 324 1380 436" style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>学習課題</b> 和と洋ブックで身の回りの「和」と「洋」の良さを伝えよう</p> </div> <div data-bbox="295 459 813 851" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="901 504 1340 716" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>教師の作成したブック いつでも振り返られるよう、教室に掲示しておく。</p> </div> <p>・「和」と「洋」という言葉を辞書で調べ、どのような和と洋があるのか考える。</p> <div data-bbox="542 918 1340 1120" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>「和」と「洋」と言ってもすぐに思い浮かばない児童もいる。そこで、国語辞典で「和」と「洋」の意味をそれぞれ調べ、和と洋がつく言葉を挙げ、グループ分けをしていく。</p> </div> <div data-bbox="375 1131 821 1467" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="965 1142 1332 1467" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>並行読書の本を読むことを伝える。並行読書の本を選別しているため、冊数が少ない。そのため、自分の必要な資料に名前の書いた付箋を貼らせていく。</p> </div>	<p>○単元の学習の進め方</p>
	2 3	<p>・「くらしの中の和と洋」を読む。</p> <p>・ブックを書くために、和室・洋室のそれぞれの良さを読み取る。</p>	<p>○要点ごとに整理した読み取り方</p> <div data-bbox="295 1624 949 1960" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="965 1579 1332 2016" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>和室・洋室のテーマであることを読み取り、それぞれの良さがどこに書かれているかを考える。このときに、始め・中・終わりに分けられていること、引用したい部分は中に書かれていることを考えさせる。</p> </div>

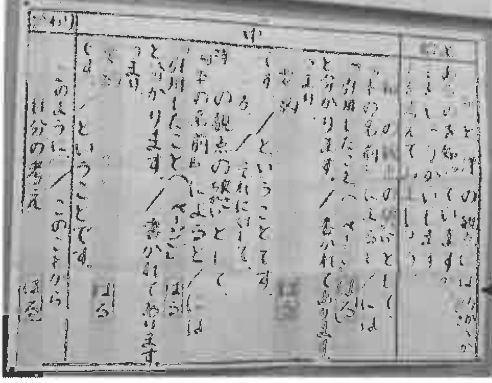
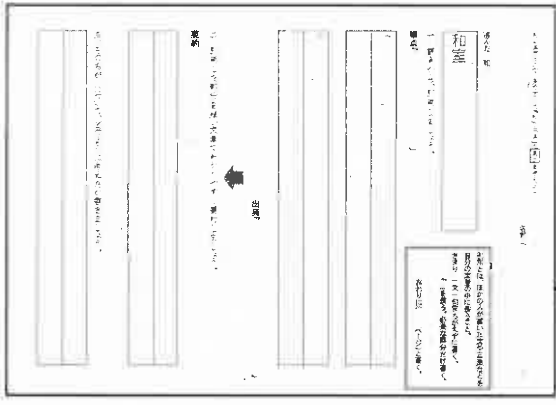

並行読書を進める



並行読書を進める

第5・6時の学習内容の活用

第7時の学習内容の活用

<p>4</p>	<p>・ブックを書くために必要な文章構成や表現を考える。</p> 	<p>○文章を書くのに必要な文章構成や表現の読み取り方</p> <p>児童が考えた引用・要約を用いた文章の型を作る。 第7、8・9時に用いるため、第4時後に掲示しておく。</p>
<p>5 ・ 6</p>	<p>・「和室」と「洋室」の良さを引用・要約する。</p> 	<p>○引用・要約の仕方 ○自分の思いや考えの書き方</p> <p>児童のワークシート書いているところが分かりやすいよう、「和」と「洋」でワークシートの色が分かっている。</p>
<p>7</p>	<p>・和室と洋室の良さについて、ブックを書く。</p>	<p>○引用・要約を用いた文章の書き方</p>
<p>3 (自分の選んだテーマの本でブックを作り、交流する)</p>	<p>8 ・自分の選んだテーマごとにグループに分かれ、そのテーマごとにどちらの方に良さを感じるか話し合う。 9 自分の選んだ「和」と「洋」の良さを引用・要約する。</p> <div data-bbox="279 1344 933 1601" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テーマ例 ご飯・パン うどん(そば)・スパゲッティ はし・フォーク 和菓子・洋菓子 和服・洋服 ふろしき・かばん げた・くつ 手ぬぐい・タオル ふとん・ベッド ちゃぶ台・テーブル など</p> </div> <p>10 ・引用・要約以外の文章を書き、ブックを完成させる。</p>  <p>11 ・ブックを読み合い、感想を交流する。 ・単元の学習を振り返る。</p>	<p>○自分が必要な部分の引用の仕方</p> <p>テーマは教師がある程度選別し、グループ分けをしておく。グループ毎だと、同じ資料から分かることを話し合ったり、アドバイスしあったりすることができる。</p> <p>○文章を書くのに必要な表現の書き方</p> <p>○交流の仕方</p>

# 日本、みりよく再発見！「和の文化」説明会を開こう 5年生「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」

## 1 単元の目標

- (1) 和の文化について説明した文章を読んだり、説明会をしたりしようとしている。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明することができる。  
(話すこと・聞くこと)
- (3) 複数の本や資料を、目的を意識して読むことができる。  
(読むこと)
- (4) 文章のいろいろな構成について理解している。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 2 教師の事前準備

- ・説明会をどのように開くか、具体的に決める。(いつ・どこで・何人で・誰に)
- ・発表原稿のモデルの作成。
- ・並行読書の選定(今回の単元の学習テーマと合致したもの)

<今回使用した並行読書の本>

「和菓子の絵事典」(PHP 研究所) 「ポプラディア『伝統工芸』」(ポプラ社)  
 「和菓子のほん」(福音館書店) 「調べてみよう！日本の職人伝統の技(全7巻)」(学研教育出版)  
 「和の暮らし大事典」(学習研究社) 「子どものためのニッポン手仕事図鑑」(オークラ出版)  
 「伝統工芸ってなに？」(芸艸堂) 「日本の伝統工芸」(河出書房新社)  
 その他 国語辞典、インターネットで調べた資料も使用した。

- ・単元計画表(児童に学習の流れが分かるようにするため)

<単元計画表(児童用)>

日本、みりよく再発見！和の文化説明会を開こう					日付
5	4	3	2	1	
のみ 考取 明会 えを 持と うの 文化 に 対し 要旨 を 自分 誌	料明 の明 工す 書天 原稿 見稿 つけ 書く うの に、 資、 説	ト説 明す 原稿 を 書く ための ヒ ン	ト説 明す 原稿 を 書く ための ヒ ン	持学 習の ゴー ルを 知り 、見 通し を	課 題
					ふりかえり

ワークシート用(左)  
掲示用(右)

日本、みりよく再発見！和の文化説明会を開こう						日付
6	5	4	3	2	1	
を 集め よう。 ①	の 説 明 会 を 開 く た め に 、 要 旨 を 読 み 取 り 、 和	見 説 明 す 原 稿 を 書 く た め に 、 説 明 の 工 夫 を	う 説 明 す 原 稿 を 書 く た め の ヒ ン ト を 探 そ (構 成)	う 説 明 す 原 稿 を 書 く た め の ヒ ン ト を 探 そ (内 容)	学 習 の ゴー ルを 知り 、 見 通 し を 持 と う。	課 題



3 指導計画

次	時	主な学習活動	学習内容
1	1	・教師の発表モデルを見て、学習課題をつかむ。	○単元の学習の進め方
	<p><b>学習課題</b> 日本、みりよく再発見！「和の文化」説明会を開こう</p> <p>・教師の範読を聞き、感想を書く。</p> <p>・4年生のときに学習したことや身の回りで知っている和の文化を共有する。</p>		
2	2	・発表原稿を書くために、「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」を読み、説明の観点を確かめる。	
	3	・発表原稿を書くために、「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」を読み、文章の構成を確かめる。	○序論・本論・結論の読み取り方
	4	・発表原稿を書くために、「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」を読み、表現の工夫と資料の効果を確認する。	○説明を分かりやすくするための資料の使い方

(単元の見直しを持たせる)

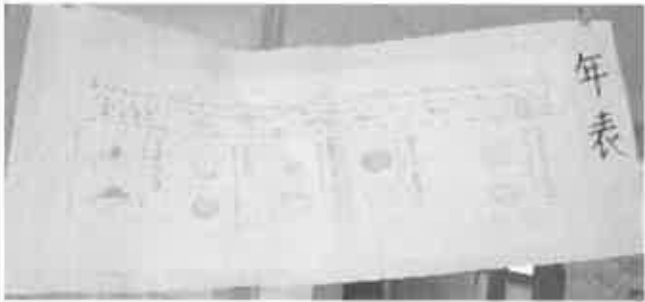
並行読書を進める



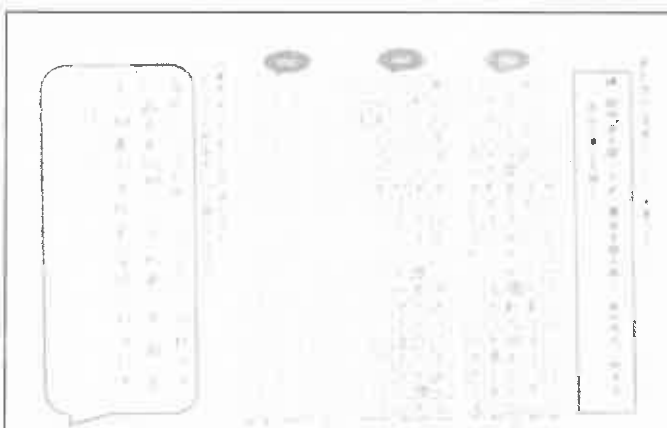

和の文化というと？  
どんなイメージを持っているか、何について調べたいか、興味関心を上げられるように掲示する。

**説明会で使えるものは、何だろう？**

- ・書いてある内容やテーマをまねる。
- ・説明するための文章の構成を参考にする。
- ・伝えたいことを観点にまとめる。



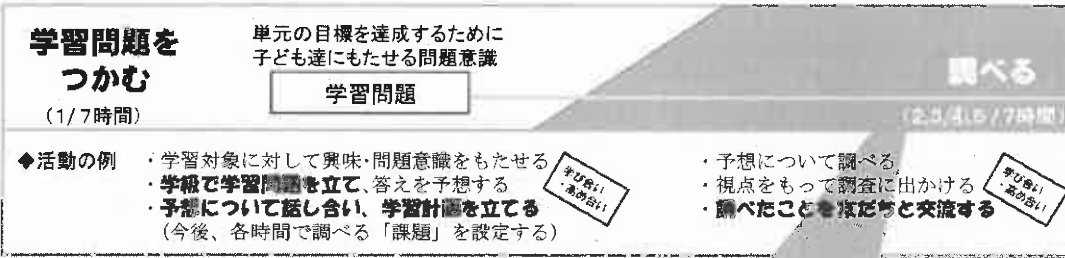
写真・図・年表の意図や効果を確認する。

	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表原稿を書くために、「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」の要旨を読み取り、「和の文化」について、自分の考えを持つ。</li> </ul> 	<p>○要旨に対する自分の考えの書き方</p> <p>＜児童のワークシート＞ 説明会を開くために、筆者の一番伝えたいことを理解し、「和の文化」に対する自分の考えを持てるようにする。</p>	<p>並行読書を進める</p>
	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表する「和の文化」を決めて、本や資料で調べ、情報を書き出す。</li> </ul>	<p>○目的に応じた文章の読み方</p>	<p>第2・3時の学習内容の活用</p>
	<p>7</p> <p><b>「和の文化」の例</b> (◎児童が選んだもの)</p> <p>◎せんすとうちわ ◎かさ ◎漆器 ◎和紙 ◎和楽器 ◎和菓子 ◎和食 ◎和の遊び道具 ◎和ろうそく ○歌舞伎 ○能 ○落語 ○狂言 ○相撲 ○和服</p> <p>☆本文の3つの観点を参考にして、調べたりまとめたりする。要約・引用してメモする。</p>	<p>＜説明会の形式＞ 9グループ(3~4人) 説明3分 質問か感想1分 1グループずつ、クラスの前に出て発表する。</p>	<p>第5時の学習内容の活用</p>
<p>3</p> <p>(自分の選んだ「和の文化」で説明会を開く)</p>	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を整理して、説明する観点を考える。</li> </ul>	<p>○観点の見つけ方</p>	<p>第6・7時の学習内容の活用</p>
	<p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成を考え、発表原稿を作成する。</li> </ul>	<p>資料は相手意識を持って準備できるようにする。(写真・図・年表・実物など)</p>	
	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を選び、表現の工夫を考える。</li> </ul>	<p>○説明会での話し方</p>	
	<p>11</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明する練習をする。</li> </ul>	<p>○説明会での聞き方</p>	
	<p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会を開く。</li> </ul> 	<p>＜説明会の様子＞ 漆器の作り方について説明している。 友達にわかりやすく伝えるため、漆器づくりの道具を絵に描いて説明した。</p>	
	<p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りをする。</li> </ul>		

# 社会科授業づくり ～単元を中心「調べる」場面では～

社会科は1時間の授業のみを見て考えるのではなく、単元全体を通して授業を考えます。下に単元の基本的な流れを示します。

【社会科における単元の流れ】（本事例の場合7時間扱い）



## 【学び合い・高め合う社会科授業のために】

### ★「調べる活動」とは？★

- ▶毎時間学習問題を意識し、その解決を図るために調査・体験などをすることが「調べる」活動です。  
(資料を読み取り、考えることも含まれます)
- ▶調べる「スキル」は年間を通して活動の中で身に付けさせましょう。  
具体的には
  - ・地図情報から土地の様子を読み取る
  - ・写真からその特徴を読み取る
  - ・統計資料から変化や推移を読み取る
  - ・年表から各出来事間のつながりを読み取る
 などが、該当します。

### ★調べる活動のポイント★

- ①すぐ「では調べましょう」と始めるのではなく、予想を必ず入れて調べる活動に入りましょう。
- ②調べる課題や予想をもとに、調べる視点を1,2個程度に設定してから調べさせましょう。
- ③調べるための道具(教科書・地図帳・資料集・辞書・参考書…)を用意させ、子ども達に自由に使わせましょう。
- ④調べたことの整理の仕方を工夫しましょう。
  - ・調べたことを関連付けたり、他と比較したりして整理させます。
  - グルーピングする、つながりを線で結ぶ、比較するなど
  - ・ノートの使い方を指導したり、ワークシートを活用したりして整理させましょう。
  - ・文章の他に図や表、グラフに表現して整理させるといった手法も効果的です。

**調べる力を身に付けておくと、別の単元・他の教科でも生きて働く力がはまります！**

## <モデル授業で使った資料>

本時の調べる課題と学習問題とのつなぎが明確化する



ポイント  
① 統計グラフと写真も関連付けて考える

【スキルを身に付けるための工夫】



記事資料の裏面に、この資料が与える影響も記録

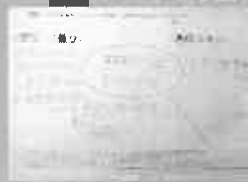
ポイント  
② 教師の用意した資料を使って調べる



③ 辞書なども用いて自由に調べる



④ 整理して書けるワークシートを準備



社会科は教科書を教える講義式の授業ではありません。ちょっとした工夫で社会科はこんなにも楽しくなります。教科書の中から「どこを切り取り、関連付けていくか」が、教師としての腕の見せ所になります。

ぜひ、子どもたちが楽しさを味わえる授業をつくっていきましょう！

## まとめる (学習問題の)

### ・生かす

(6,7/7時間)

結論

新しい課題

予想が正しかったか  
話し合い、検証する

学び合い  
高め合い

- ・学習問題の結論を話し合う
- ・自分の考えをまとめ、成果物に表現する
- ・問題を見だし、正しく選択・判断する

学び合い  
高め合い

### <モデル授業での板書例>

調べる視点

本時の調べる課題

第6学年

新しい日本、平和な日本へ 東京書籍(上)p.148



学習問題は毎時間提示する

調べたことを関連付ける 例:ダム・三種の神器・新幹線→電気!

### <モデル授業 本時の流れ>

本時の「まとめ」

#### この単元で追究している学習問題

「戦後日本は、どのようにして、今の豊かで便利な日本に変えていったのか。また、外国との信頼(平和)をどのようにとりもどしたのだろうか。」

導入

展開

まとめ



本時の課題を確認し、課題に対する予想を話し合う。



資料について個人・グループで調べ、課題について話し合う。



グループの発表を調べる視点をもとに分類・整理し、学級で共有する。

#### 【本時の調べる課題】

アジア初の東京オリンピックの開催は、国民の生活をどのように変えたのか。

→次は「まとめる・生かす」活動へ

## 第6学年 社会科学習指導案

### 1 小単元名 「新しい日本、平和な日本へ」

#### 2 小単元について

##### (1) 児童の実態について

<略>

##### (2) 小単元について

本小単元は、小学校学習指導要領第6学年の内容(1)ケを受けて設定したものである。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことがわかること。

本単元は、戦後焼け野原になった日本が、戦後どのようにして民主的で平和主義的な国家として発展してきたかを学習する。日本国憲法が制定され、男女平等の政策や教育制度を実現していったこと、世界の多くの国に平和国家になったと認められサンフランシスコ条約を調印し、国際連合への加盟を実現させたことを調べ、年表にまとめながら理解させていく。また、国民の不断の努力で産業を発展させ国民生活を向上させてきたことを、東京オリンピックを通して具体的に理解させていきたい。そして、未来も平和で豊かな日本であるために、様々な問題は話し合いで解決していくことが大切であることを気づかせていきたい。

##### (3) 指導観

<略> 指導計画参照

### 3 小単元の目標と評価規準

#### (1) 小単元の目標

- ・日本国憲法の制定、オリンピックの開催など我が国の戦後の歩みを調べることを通して、戦後我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割をはたしてきたことが分かるとともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えようとする。
- ・我が国の戦後の歩みから学習課題を見出し、地図や年表、家族の話、図書館等、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや、平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていく大切さについて、思考・判断したことを適切に表現する。

(2) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会事象についての 知識・理解
<p>①我が国の戦後の歩みに関心をもち、進んで調べようとしている。</p> <p>②平和で民主的な国家の一員として、日本の課題やよりよい発展について考えようとしている。</p>	<p>①我が国の戦後の歩みについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。</p> <p>②戦後改革や日本国憲法の制定、国際社会への復帰、東京オリンピック、産業の発展などについて調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、戦後、我が国が民主的な国家として出発したことや国民の不断の努力、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことについて考え、発言や記述などで適切に表現している。</p>	<p>①地図や年表、家族の話、図書館等、その他の資料を活用して、戦後改革や日本国憲法の制定、国際社会への復帰、東京オリンピック、産業の発展などについて必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>②調べたことを年表や作品、ノートなどにまとめている。</p>	<p>①戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かっている。</p> <p>②自分たちの生活の歴史的背景を理解している。</p>

4 小単元の指導計画 (7時間扱い)

	学習活動○ 学習内容・	指導上の留意点* 資料・
学習問題をつかむ	<p>①戦後すぐの東京と東京オリンピックの映像や写真を見比べて気づいてことを話し合い、学習問題を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>学習問題</b> 戦後日本は、どのようにして、今の豊かで便利な日本に変えていったのか。また、外国との信頼(平和)をどのようにとりもどしたのだろうか。</p> </div>	<p>* 戦後すぐの様子を表にまとめ、単元を通して比較させ学習を明確にする。</p>
調べる	<p>○年表や今までの学習をもとに予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法を作った。 →どんな憲法を？</li> <li>・世界の信用を取り戻すように努めた。 →どのように？</li> <li>・産業を発展させ、生活を豊かにした。 →どのように？</li> </ul> <p>キーワード ⇨ 「便利」で「豊か」 「信頼(平和)」</p> <p>②戦後改革や日本国憲法について調べる。 ⇨ <b>豊か</b> <b>信頼(平和)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民主的な国家として作り…男女平等・女性選挙権 義務教育633制</li> <li>・日本国憲法…平和国家・民主主義</li> </ul> <p>③国際社会に復帰するまでの日本の努力を調べ、年表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のできごと…東西の対立・朝鮮戦争 ⇨ <b>信頼(平和)</b>・<b>豊か</b></li> <li>・サンフランシスコ平和条約の調印</li> <li>・国際連合への加盟</li> </ul>	<p>* 日本が、現在の国になるためには、どんなことをしたらよいかを話し合わせ、学習計画とキーワードを考えさせる。</p> <p>* 大日本国憲法やその当時の政策と比較しながら予想させてから、調べさせる。</p> <p>* 金の卵・出稼ぎなど、多くの人々が身を粉にして復興させる中で、どのような世界との関係を願ったか</p>

ま と め る ・ 生 か す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興を願う国民の努力</li> <li>・東京オリンピックが開催へ ⇒予想</li> </ul> <p>④東京オリンピックの開催と、それに関連する出来事、当時の国民の努力による産業の発展による生活の向上について調べまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピックに向けてのインフラの整備</li> <li>・生活の向上 ⇨ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">便利</span>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">豊か</span>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">信頼(平和)</span></li> </ul> <p>⑤国民総生産額第2位になった日本の様々な取り組みとその経済成長で起きた環境問題を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国での産業発展のための整備 ⇨ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">豊か</span>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問題</span></li> <li>・環境問題…公害</li> </ul> <p>⑥現代の日本が抱える問題や果たすべき役割について調べ、未来に向けて考えたことを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>戦後、日本は民主的な国家を作り、人々の努力によって生活を向上させ、国際社会と協力してきた。これからも、話し合うという方法で様々な問題を解決し、平和な未来を作っていきたい。</p> </div> <p>⑦歴史学習を通して分かったことや感じたことを伝え合い、歴史を学ぶ意味や未来を創る一人として考えを深め、意見文を書く。</p>	<p>を明確にさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピックの映像 (「3丁目の夕日64」)</li> </ul> <p>*①手持ちの資料から調べること、②資料を関連させること③深い話し合いをさせるために机間指導を細目にする。</p> <p>*経済が成長することは、問題も引きを起すこと、その解決に取り組んだ人々がいたことを知らせたい。また、現在も多くの国内外の問題があるが、話し合いでの解決が大切であることを気づかせ、まとめさせたい。</p>
--------------------------------------	---	---

5 本時の学習活動 (4/7) 時

(1) 目標

- 東京オリンピック開催のころ建設されたものや開催された内容を、資料を活用して調べる。  
(観察・資料活用の技能)
- それらが、国民生活をどのように向上させたかを話し合いまとめる。  
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 展開

学習活動 (分)	学習内容・主な発問等「 」	評価☆ 支援の工夫○	資料
1 前時の学習や本時の課題を確認し予想する。 (5分)	<p><b>学習問題</b> 戦後日本は、どのようにして、今の豊かで便利な日本に変えていったのか。また、外国との信頼(平和)をどのようにとりもどしたのだろうか。</p> <p>・アジア初のオリンピック 93 か国 ・戦後 19 年で開催 (1964 年)</p>		オリンピックの写真・参加国地図
<b>課題</b> アジア初の東京オリンピックの開催は、国民の生活をどのように変えたのか。			
2 東京オリンピックの頃に作られたものを調べる。 <b>調べる</b> また、国民生活の変化を、予想をもとに話し合う。 <b>分類・整理</b> (20分)	<p>「何を建設する必要があるだろう。」 「開催したことは他にもあるだろうか。」</p> <p>「作られたものや開催されたことは何かを調べよう。」「それは、生活をどう変えたか話し合おう。」</p> <p>「<b>便利</b>で<b>豊か</b>」「<b>信頼</b>」</p> <p>・東京オリンピック…<b>信</b> 93 か国参加 ・ダム(黒部)…<b>便</b> 電気(工場・家) ・東京タワー…<b>便</b> テレビが見られる ・高速道路…<b>便</b> 物や人を運ぶ ・東海道新幹線…<b>便</b> 時間が短縮 ・電化製品の普及(3種の神器) (3C) …<b>便・豊</b></p> <p>・万国博覧会…<b>信</b> 77 か国の参加 「他にもあるかな?」 ・ホテル・下水道・地下鉄 等 <b>豊 便 便</b></p>	<p>○「豊かで便利・信頼」と戦後の様子から考えさせる。</p> <p>○グループに写真等2枚を配り、教科書や資料集を活用して調べさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①何年? ②これは何? (名前・説明) ③どう変わった?</p> </div> <p>○写真資料と表・地図などを関連させながら、生活の変化を考えさせる。 ☆技能&gt;</p> <p>3 観点に沿って協力して調べることができる。 評価方法…グループ観察</p>	戦後の様子 (表)  写真等  観点  説明資料 地図 グラフ  体験の話



<p>3 国民の生活の向上をまとめる。課題のまとめ (19分)</p>	<p>「調べたことを報告し合い、まとめていこう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かで便利な生活を作り出した。</li> <li>・日本人としての自信がもどる。</li> <li>・世界の人々の信頼を取り戻した。</li> <li>・ノートにまとめや考えを書く。</li> </ul>	<p>＜☆思考・判断・表現＞</p> <p>調べたことを分かり易く伝え、3観点で話し合うことができる。</p> <p>評価方法…全体観察</p> <p>○発表させ、まとめる。</p>	<p>短冊</p>
<p>東京オリンピックに向けて人々が努力したことにより、生活が豊かで便利になり、自信を取り戻し、世界に信頼される国になった。</p>			
<p>4 次時の予告をする。 (1分)</p>	<p>「実は、1968年には、国民総生産が、世界第2位になった。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の産業の発展の様子</li> <li>・その中で生まれた課題</li> </ul>	<p>○戦後の復興を成し遂げたことを表でも確認する。</p>	<p>戦後の様子 (表)</p>



アジア初の東京オリンピックの開催は、国民生活をどのように変えたのか。

名前( )

〈便利〉 〈豊か〉

〈信頼(平和)〉

東京オリンピック

まとめ

---

---

---

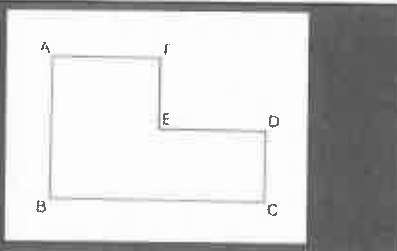
# モデル授業プラン～4年生面積のはかり方と表し方 5/11 時～

**本時の目標** : 既習の学習を活用して複合図形の面積の求め方を考え、面積を求めることができる。

**ポイント** : 図形をどのように切ったり合わせたりすれば、今まで学習した長方形や正方形をもとにして考えられるかについて焦点化して話し合います。

## 1. 問題把握

問題 右のような形の面積を求めましょう。



T: 今まで学習してきた形とちょっと違いますね。この形は何と呼んだらいいですか。

C: 階段のかたち? いすの形? L形?

※形の呼び方を話し合い、特徴に気付くようにします。

T: どのようにしたら面積が出せそうですか。

C: 長方形や正方形の面積だったら、公式を使えるけど。

L字型の図形の特徴を話し合いながら、「長方形に分ければ解決できそうだ」ということに気付かせていきます。

## 2. 問題設定

T: 長方形・正方形ならすぐに面積を求めることができるんだね。

T: 今日の課題はみんなで考えた形の呼び方にしましょう。

かだい L字型の面積の求め方を考えよう。

既習の正方形・長方形の面積の公式を「算数コーナー」に掲示しておくことで、子どもたちの考えの助けになります。

## 3. 自力解決

見通しは個人で立てられるように支援します。

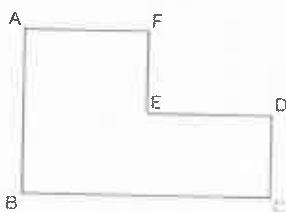
子どもたちのアイデアで「階段の形」「いすの形」など課題に使う言葉を変えます。



まずは、1人1人が解決のための見通しを立てます。「〇〇作戦できそうです。」などと発表をさせずに、自分の力で見通せるようにすることが大切です。

見通しが立ったら自分の考えた方法で解決します。

T: 自分の考えたやり方で面積を求めてみましょう。1つ考えられた人は違うやり方でも考えてみましょう。

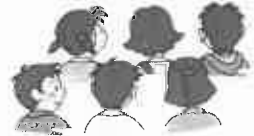


この紙はたくさん置いておくので、他の考え方を説明するときには、自由に持っていきましょう。式や線などを書き込んで、自分の考えがわかるようにしましょう。



自力解決の時間には全員が解決できるように支援します。1人では解決が難しい児童には、小集団指導が有効です。見通しが立てられない児童を集めて指導します。

[小集団指導の例]



T: 今日の問題で、今までとちがう所はどこでしたか。

C: 長方形や正方形ではありません。

T: そうですね。長方形や正方形だと面積は求められますね。どうにかして長方形に直せませんか。

T: 途中で、答えが見つけれたら自分の席にもどってノートに書きましょう。

～いっしょに長方形2つにわけて考える解決方法をやってみます。～

T: どこで切ると、長方形になりますか。

※小集団指導では、途中まで聞いて自力で解決できそうな児童は、自席に戻るよう指示しておきます。不安な子については、答えを確認するところまで一緒にやってみるようにします。

発表の際には、友達のを説明したり式を読んで切り方を考えたりすることも、理解を深めるために効果的です。

4. 話し合い

T: それぞれの考え方を説明しましょう。

発表のさせ方例 (Aについて) …式のかき方についても指導していきましょう。

C: わたしはたてに切って考えました。こっちの長方形が  $4 \times 3$  で  $12 \text{ cm}^2$  です。

(T:  $4 \times 3$  がわかるよう、書き込んでいきます。)

C: こっちの長方形が  $2 \times 3$  で  $6 \text{ cm}^2$  です。(T:  $2 \times 3$  がわかるよう、書き込んでいきます。)  
合わせて、 $18 \text{ cm}^2$  です。

T: 1つの式に表すことができますか。

C:  $4 \times 3 + 2 \times 3 = 18$  です。

<p><b>A たてに切って考える。</b></p> <p><math>4 \times 3 + 2 \times 3 = 18</math> 答え <math>18 \text{ cm}^2</math></p>	<p><b>B 横に切って考える。</b></p> <p><math>2 \times 3 + 2 \times 6 = 18</math> 答え <math>18 \text{ cm}^2</math></p>	<p><b>C 大きな長方形から小さな長方形を引く。</b></p> <p><math>4 \times 6 - 2 \times 3 = 18</math> 答え <math>18 \text{ cm}^2</math></p>
---	--	---

T: 同じ考えや似ている考えはどれでしょう。

C: どれも答えが一緒です。どれも分けています。

C: AとBは似ています。2つの長方形に分けて、後でたしています。

T: ではCはどうですか。

C: Cはひき算を使っています。でも、長方形をもとにしているのは同じです。

T: なるほど。それぞれ、どうしてここに線を引いたのですか。斜めではだめなの？

C: 斜めだと、長方形にならないから面積を求められないです。

上のよう、まとめにつながるような大事な点や考え方を書き込んでいくと、子どもたちに

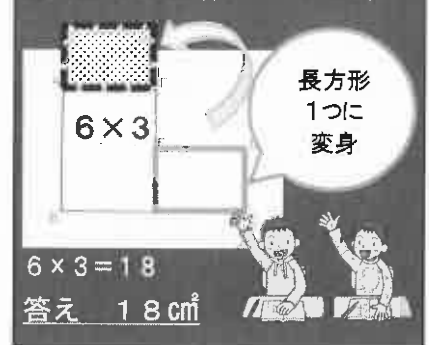
話し合いの場面では発表をすることが目的ではなく、考え方の共通点や系統性を見つけられるようにします。

要点が見やすくなります。

話し合いのしかたには共通点をもとにまとめる方法（統合）以外にも、よりよい考えを選ぶ方法（序列）、それぞれのよさを認め合う方法（並列）などがあります。その日の問題や課題によって話し合いの方向性を決め、計画的に話し合えるようにします。

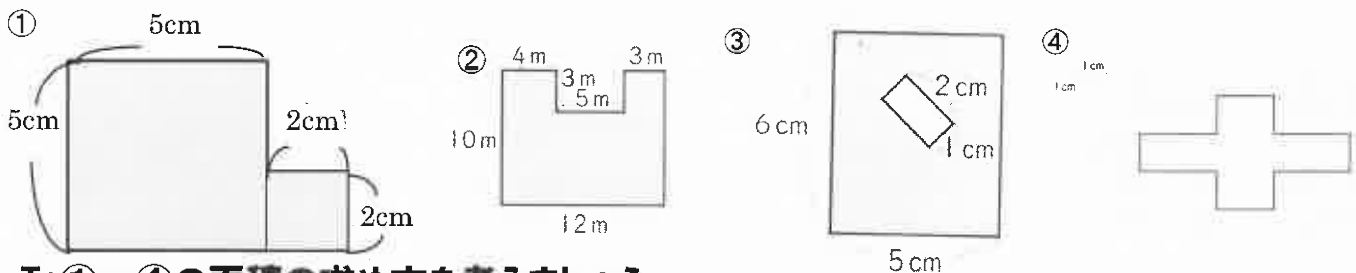
上の A、B、C の他にも右のような解法が考えられます。クラスの実態に合わせて、練り上げの際に取り入れたり、まとめの前後に図や式を見せ考えさせたりします。

右の長方形を切り取って上につける。



## 5. 適用問題

適用問題は本時で獲得した知識や技能を活用して解決できる問題が望ましいです。本時の場合、十字形、長方形の中をくりぬいた形などを提示し、求積までいかななくても、どのように切ったり分けたりすればよいか考えることに焦点化します。



T: ①～④の面積の求め方を考えましょう。

どの方法を使うと求めやすいかな。

C: ①はいろいろな切り方があります。さっきの A、B、C のどれも使えます。

C: でも、たてに切った方が、正方形が2つだから簡単に計算できそう。

$5 \times 5 + 2 \times 2$ です。

C: ②や③は外側の長方形から中をひくのがいいです。

C: ④は切ってたしてもいいけどまわりに線を引いて長方形にすると、 $2 \times 4$ の長方形を4つ引けばいいね。

## 6. まとめ

T: 今日のまとめを書きましょう。

まとめ L字型の面積を求めるには、長方形や正方形をもとにして考えれば求めることができる。

まとめは、児童が自分の言葉で書けるようにします。課題と正対していることが大切です。今まで習った形を使えばできることに一人一人が気付いて欲しいですね。

自分の言葉でまとめが書ける段階になっていない場合は、書き始めを一緒に書き、残りの文を子どもたちに考えさせる方法もあります。本時では、「L字型の面積を求めるには、」まで板書し、続きを一人一人がノートにまとめます。



## 7. 振り返り

振り返りとして学習感想を書き、その日に学んだことや気づきを書けるようにします。既習との関連や、次時へのつながりを意識した学習感想を書くように支援します。

[学習感想例]

- ・変わった形も、正方形や長方形をもとにして考えれば面積を出せそうだ。
- ・たし算で求めるときとひき算でも求めるときがあって、その図形によってやりやすい方法がある。

## 第6学年〇組 算数科学習指導案

### 1 題材名 比と比の値

### 2 題材について

#### (1) 題材観

本単元は、二つの数量の割合を表す方法として、比について理解し、生活や学習で活用する能力を伸ばすことを主なねらいとしている。学習指導要領では、下記の内容にあたる。

第6学年 D 数量関係 (1)「比について理解できるようにする」
----------------------------------

2つの数量の大きさを比較してその割合を表す場合に、どちらか一方を基準量とすることなく、簡単な整数の組を用いて表す方法が比である。児童は、第5学年までに、倍に関する指導、分数の指導、比例関係に関する指導の中で、比の素地となる見方を学習してきた。これらの表し方は、A、Bのうち一方を基準として、AはBの「〇倍」や「 $\frac{1}{n}$ 」というように、1つの数による表し方である。第6学年では、これらの基礎の上に、 $A:B$ という比の表し方を指導し、比について理解できるようにする。

本単元では、具体的な場面を示して、 $A:B$ という比の表し方を知らせ、 $A:B$ を $A:B$ の比の値ということや、比の相等とそれらの意味について理解させる。

比を用いる場面は、日常生活に多くあることから、日常生活の中から比が用いられる事象を探したり、それを活用して物事を処理したりする活動を行うなど、比を進んで生活に生かす態度を伸ばしていく。また、比は、比例、反比例や拡大図・縮図などと深い関係があるので、相互に理解を深めていくことが大切である。

#### (2) 児童の実態 (略)

#### (3) 指導観

本単元の導入では、初めに「割合」についてとらえさせ、「比」と既習の割合の学習を関連付ける。そこで、2つの数量の割合をその量の数値をそのまま用いて表せるという「比」で表すことのよさを味わわせたい。また、等しい比の学習では、伴って変わる2つの数量の関係をとらえていく。倍数や公倍数、小さな比にするときは約分の学習が生かすことができることに気付かせる。このように、既習の学習と関連付けながら、比の考えのよさを味わえるようにする。

一方で既習との関連を図かろうとしても、指導の際に難しいと感じる点がある。

まず、比が日常生活のいろいろな場面で用いられていることに実感できる題材が教科書の中には多くはないことである。教科書では、導入時から、ウスターソースとケチャップを題材として数時間扱うことになっている。「比の利用」の場面で扱われる問題に関しても、ミルクティー等の題材であるが、これらの場面から、日常生活のいろいろな場面で比が扱われていることを深く実感するのは難しい。さらにそれらの液(体)量では、割合が同じだと、同じ味になるという考えは押さえられても、本当に同じ味になっているかは、味覚に頼るしかない。

次に、「比の値」が児童に必要感を与えられていないと考える。教科書では、突然「比べられる量」「もとにする量」という言葉が出てくる。後項を基準量としたときの前項の割合が「比の値」であることを知らせて、既習の「割合」と「比」の統合を図るものであるが、『比の値が等しいとき、比は等しい』ということだけの理解に偏る難しさがある。

これらの点から本時では、以下のように指導を展開する。

①図形を題材にする。

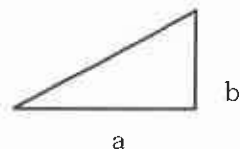
具体的には、児童が幾度か見ている国旗を題材に扱う。辺の比に注目させることで、視覚で同じ形であるということを検証できる。また、図形を扱うことで、本単元以降の「拡大図と縮図」の理解にもつながるよさがある。

②比の値と中学校の系統性を踏まえて比例定数の考えに触れる。

本単元は学習内容を入れ替えて、「比例と反比例」の後に実施する。

「比例と反比例」の単元では、『決まった数』という言葉で比例定数を押さえる。また、中学校での比例では、 $y = ax$  という式で表される

$x$  と  $y$  の関係を比例といい、 $a$  (一定) は比例定数と指導する。上の図である直角三角形の左端をグラフの原点とすると、斜辺は、 $y = ax$  で表される。この式を  $x$  で割ると、 $y/x = a$  になる。よって、 $y : x$  の比の値は比例定数であり、直線の傾きを表していることになる。



そこで、本単元では、児童が同じ形の国旗を作成する。そして、それらの作成した紙を重ねると、対角線が一直線上になることで、傾きが同じであることに着目させたい。なぜ直線上に重なるのか問うても、比例定数であることを本単元では追及しないが、児童自ら「比例と反比例」で学習したことと関係性があることに気付いてほしい。特に、本単元で扱う国旗には、色々な発見がある。例えば、世界の国旗に目を向けて見ると、国旗の縦と横の比がそれぞれの国によって違うことや、日本の国旗には、縦と横の辺の長さの比が 2 : 3 であり、日の丸の円の直径も縦の長さと同様の直径の比が 5 : 3 と決まっている。このように、児童の身近にも比が使われている驚きに、算数を通じて触れさせたい。

3 題材の目標

2つの数量の割合を表す方法として、比について理解し、生活や学習で活用する能力を伸ばす。

関比のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

考比を既習の割合と関連づけて統合的にとらえ、割合の適用場面で考え方を工夫することができる。

技2つの数量の関係を調べ、比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。

知比の意味や表し方、比の相等の意味を理解する。

4 単元の指導計画・評価規準 (9時間扱い 本時1/9)

第1時 比の意味と表し方について理解する。

第2時 比の値や等しい比の意味について理解する。

第3時 等しい比どうしの関係を調べることを通して、等しい比のつくり方と比の性質について理解する。

第4時 比の性質や比の値を用いて、比を簡単にすることができる。

第5時 小数や分数で表された比を簡単にすることができる。

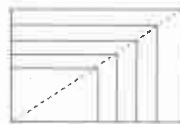
第6時 比と前項(後項)の値から後項(前項)の値を求めることができる。

第7時 比と前項(後項)の値から後項(前項)の値を求めることができる。

第8時 全体の量を比例分配することができる。

第9時 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

第3時  
[作成] 等しい比で国旗をつくってみよう!  
☆作成した紙を重ねることで、相似になっていることを知る。



5 本時の学習指導

(1) 目標

考長方形が同じ形かどうかの判別に、2つの数量の関係から割合の考えを活用している。

技2つの数量の割合を比を用いて表すことができる。

(2) 学力向上研究との関わり

算数科の目標には、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能

を身に付け、(中略)進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」とある。この目標に示されているように、算数の授業では、児童に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることと、身に付けた知識及び技能を活用していくことが大切である。次期学習指導要領でも、知識・技能について、一部詳しく明記されているが、「基礎的・基本的な知識・技能」や「活用する力」を養うことの主旨は変わっていない。

このような中、全国学力・学習状況調査のB問題の正答率の低さが大きな課題になっている。「できるか・できないか」ははっきり判断できるA問題とは違って、B問題は、生活場面の問題から算数を使って解決することを求めようとするものである。よって、B問題の正答率が低いということは、基礎的・基本的な知識や技能があっても、それを活用する力ができていないのである。多くの資料の中から必要な情報を選び、既習を生かして問題を解く等の機会を与えたり、数学的な思考力を身につけさせたりすることが普通の授業の中で大事になると考える。

そこで、本時では、算数の学力向上の観点から以下の手立てを講じる。

① 必要な情報を適切に選択したり判断したりする問題を提示する。

教科書の問題は、問題文の中に解決に必要な条件が、必要かつ十分に与えられていることが多いため、与えられた数値だけで問題が解決できてしまい、考えようとする力が育たない。そこで、本時では、2つの図形が同じ形であるかどうか調べるために、何が分かれば解くことができるかを考えさせる。また、課題解決の際、自分の考えが正しいという根拠をもつためには、他の図形の縦と横の長さも必要になっていく。全部で6つの図形の縦と横の長さ(数値)の中から、必要な情報を取捨選択し、適切に処理できるような力を養う一助とする。




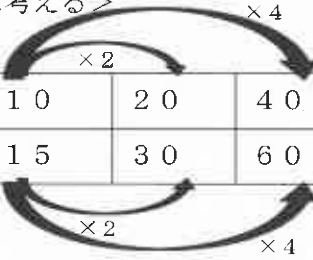
② 既習事項に気付かせることで、知識をより深めさせる。

本時の課題を解決するためには、長方形の縦と横の長さに着目し、対応する辺の割合が同じことに気付く必要がある。第5学年の混み具合で学習した割合の考え方と大きく関わっている。また、児童は本単元の前に比例を学習してきている。同じ形に比例関係が見えれば、割合が同じであることが分かる。その点で、本時の学習は、学年や単元を越えた系統性のある学習内容である。本単元に入って、単に比の意味や知識を教えるだけでは学習内容の理解が深まらなないと考える。児童が初めて知る「比」という考えは、今までに習った既習事項とつながっていることを気付かせることで、より理解を深めさせたい。

③ 複数の考え方から共通性に着目し、統合的に考察させる。

本時の練り上げ場面では、課題である「同じ形のきまりを見つける」ために、表と式の考え方が出る。別個に考えられたものであり、一見、共通性が見出せない表と式であるが、「横=たて×1.5」という式が比例の表のどこに見えるかを考えさせる。表と式を関連させることで、児童が本質的に何か共通なものを見出して、統合を図ろうとする考え方や態度を高めたい。



学習活動	予想される反応（・）留意点（○）	評価（◎、○）支援（→）								
<p>1 問題について知る。</p>	<p>○アの長方形を提示する。</p>  <p>(縦：横=40 cm : 60 cm)</p> <p>○イの形がアと同じ形と理解した上で、ウ～オの長方形は、アと同じ形かどうかを考えて分けていく。</p> <p>＜同じ形＞    &lt;ちがう形&gt;</p>  <p>(20 cm : 30 cm) (10 cm : 15 cm) (10 cm : 30 cm) (10 cm : 20 cm)</p> <p>「この形はどちらに分けられるかな？」</p>  <p>(30 cm : 50 cm)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少し横の長さが長いかも。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題    アとカは同じ形かどうか調べよう。</p> </div>	<p>→辺の長さに着目するために、提示していく紙は全て長方形である（直角であり、角度は同じである）ことを伝える。</p> <p>→最初のイの形を同じ形と教師が分けることで「同じ形」とは合同ではないことを確認していく。また、提示していく際に、同じ形のグループは、縦も伸縮すれば、横も伸縮することを押さえる。</p> <p>→違う形という考えが多かったら、アの紙にカの紙を重ねて、調べたくなるような気持を促し、問題につなげる。</p>								
<p>2 課題をつかむ。</p>	<p>○何が分かれば、調べることができるか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見た目では分からないから、辺の長さが知りたい。</li> <li>・アとイだけの辺の長さではなく、同じ形の長方形の縦と横の長さも知りたい。</li> </ul> <p>○児童が知りたい長方形の辺の長さを確認し、提示している長方形の縦と横の辺の長さを伝える。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題    同じ形になるきまりを見つけよう。</p> </div>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>【学力向上の手立て①】 必要な情報を適切に選択したり判断したりする問題を提示する。</p> </div>								
<p>3 自力解決する。</p>	<p>＜表：比例関係をもとに考える＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">たて (cm)</td> <td style="padding: 5px;">10</td> <td style="padding: 5px;">20</td> <td style="padding: 5px;">40</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">横 (cm)</td> <td style="padding: 5px;">15</td> <td style="padding: 5px;">30</td> <td style="padding: 5px;">60</td> </tr> </table>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ形は、比例の関係になっている。</li> </ul>	たて (cm)	10	20	40	横 (cm)	15	30	60	<p><u>考</u>長方形が同じ形かどうかの判別に、2つの数量の関係から割合の考えを活用している。</p> <p>◎既習で学んだ表や式を用いて、比例の関係になっていることに気付き、そのことをノートに表現することができる。</p>
たて (cm)	10	20	40							
横 (cm)	15	30	60							

<式：たてと横の割合を考える>

ア… $60 \div 40 = 1.5$

イ… $60 \div 40 = 1.5$

エ… $15 \div 10 = 1.5$

同じ1.5倍

・横÷たて=1.5

横=たて×1.5

・同じ形は、縦の1.5倍が横の長さになっている。

○表と式の考えを統合する。

「表の中に式の考え方が見えるかな」

たて (cm)	10	20	40
横 (cm)	15	30	60

×1.5

・表を縦に見ると、横=たて×1.5の式が表の中に見える。

「みんなが見つけたこのきまりをもとに考えると、カの形は、アと同じ形といえますか。」

・いえなし。同じ形ではない。

○ひき算の考えは同じ形にならないという根拠を考える。

・ウの長さを見ると、ひき算の考えではない。

○同じ形になるきまりは、差が同じではないことを共有する。

・同じ形は縦と横の長さが同じ割合(倍)になっている。

たてと横の長さの割合が同じだと同じ形といえる。

○児童の言葉でまとめるようにする。

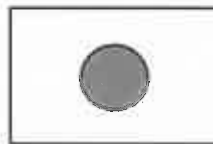
縦と横の割合の表し方を「:」を使って、次のように表すことができます。アの図形では10:15と表します。(読み方は「十対十五」)このように、表された割合を『比』といいます。

適用問題 その他の紙の大きさも比で表そう。

エ 10:15    イ 20:30    ア 40:60

○アの紙をひっくり返して、本時で扱っていた比は、日本国旗と同じ形だったことを伝える。

○学校で使われている大きな国旗を見せ、たての長さが120cmという情報から横の長さを考えさせる。



・縦と横の長さの割合が同じとき、同じ形であるということが分かった。それを比で表せることも分かった。学校で普段見ている国旗も、今日考えていた形と同じ形ということが分かった。他にも同じ形の紙をたくさん作れそうだ。

○表か式、どちらかの考えをノートに表現することができる。

【学力向上の手立て②】

単元の系統性が見える授業展開を行うことで、既習事項を活用し、より知識を深めさせる。

【学力向上の手立て③】

複数の考え方から共通性に着目し、統合的に考察させる。

→ちがう形だと考える理由についても検討する。

技 2つの数量の割合を比を用いて表すことができる。

○イとア、2つの長方形の割合を比で表すことができる。

○イかアのどちらか一方の長方形の割合を比で表すことができる。

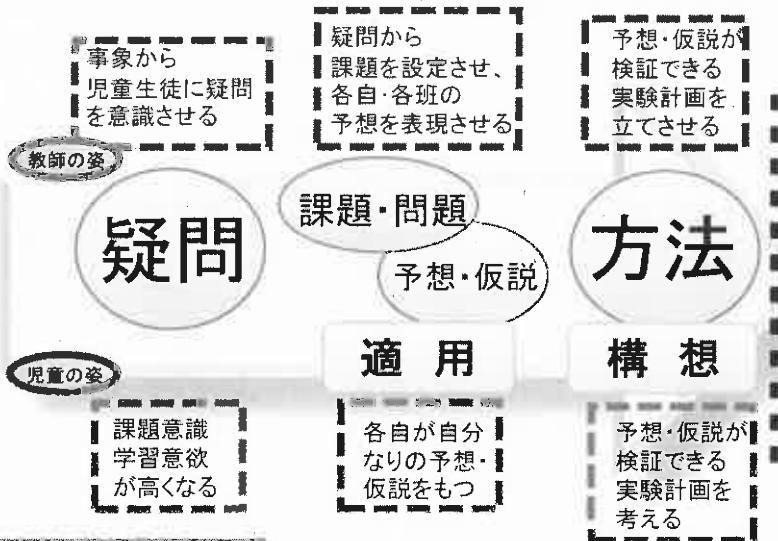
→それぞれの比を縦に表記することで比例の関係に気付かせる。

	たて	横
エ	10	15
イ	20	30
ア	40	60
国旗	120	□

複数時間で問題解決を展開し  
思考・判断・表現力を育成する授業プラン

学習指導のPoint

主体的、対話的で深い学びの視点からの  
授業改善に向け、『どうしたらよいか??』



これから求められる力

適用	日常生活での知識や既習事項を課題や仮説の設定に役立てたり、学んだ知識を実際の生活などに役立てたりすることができるかどうか。
構想	問題点や疑問点を的確に把握し、それらを解決するための方向性や具体的な実験や観察の方法を考え、組み立てることができるかどうか。
分析・解釈	様々な情報および観察、実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し、説明することができるかどうか。
検討・改善	自分の解釈や考えの根拠を示したり主張したりし、さらに他者の考えを取り入れることにより、多様な観点から自分の考えの妥当性や信頼性を吟味できるかどうか。

教師が問題を設定し、実験方法を  
 指示するなど、教師主導の授業に  
 よってないか？



全過程で児童が考える場  
 面をつくりだす。

※結果：観察や実験から得られたデータ(事実)  
 ※考察：事実を客観的にとらえ、合理的に判断し結論に導くプロセス  
 ※結論：考察から導かれた科学的な法則や仕組み(一般化)



手立て

問題解決の意欲を  
 高めるために

- 自由に教材にふれる時間をつくる、○知ってるつもりをつく(なにも見ずに昆虫の絵が描けるか)、○競争をする(電磁石單元など)

全員が仮説を  
 もつために

- 教師の選別を留意し、選ぶ ○児童の考えたものから自分の考えに合うものを選ぶ (どうしても自分で考えられない児童の場合)

実験方法を  
 考えるために

- 使用する器具を教師が制限、説明する、○チェックリストなどをつくり、考察した方法が有効な複数の目で吟味する。

対話的に考え  
 を深めるため  
 に

- 比較により、考えを「共通点」と「相違点」に整理する。それぞれについて根拠(実験から得られたデータなど)を使って、その妥当性を複数で吟味し、結論を出す。

## 第5学年1組 理科学習指導案

平成29年11月28日(火)第5校時

活動場所 体育館

児童数 男子14名 女子17名 計31名

1 単元名 流れる水のはたらき

2 単元について

(1) 教材観

本内容は、小学校学習指導要領解説第5学年にある以下の内容を理解するために設定される。

### B-(3) 流水の働き

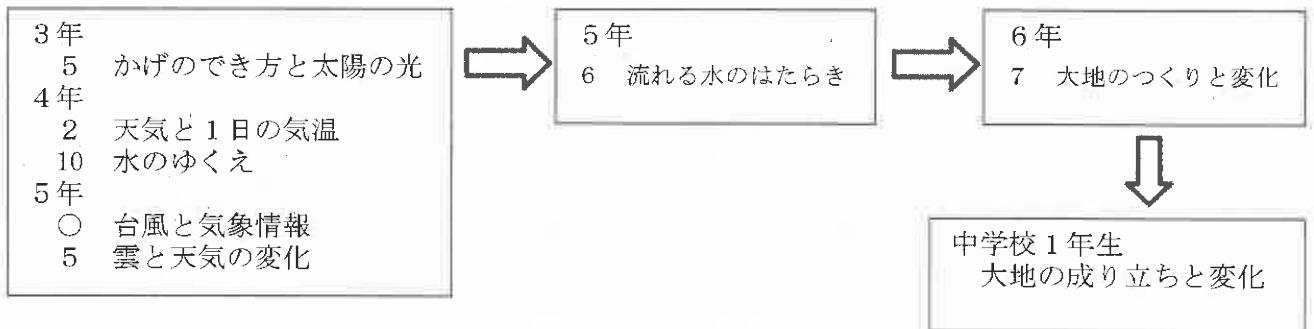
流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

(ア) 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。

(イ) 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。

本単元では、導入で増水による災害の写真や決壊した川の写真などから、流れる水のはたらきについて推論する。その後、流水実験を行い、流れる水のはたらきを調べ、そこで見つけたきまりをもとに、川の水の流れと川原、川岸の様子などを関連付けて調べ、流れる水には土地を変化させるはたらきがあることを学習する。また、降雨量等によって流れる水のはたらきが変化することを、自然災害に着目しながら調べ、流れる水が土地を大きく変化させる場合があることをとらえさせるようにする。これらの活動を通して、流れる水のはたらきと土地の変化との関係についての見方や考え方を養うとともに、流れる水の力の大きさを感じ取らせたい。

【学習の系統性】



(2) 児童観

本学級の児童は理科の授業が好きで意欲的に活動する児童が多い。事前に行ったアンケート調査では、“理科の授業の内容はよく分かる”…82%、“理科の勉強は好き”…74%、“理科の勉強は大切だと思う”…76%という結果から、理科の学習に前向きに取り組もうとする児童が多いことがわかる。特に実験・観察を行うことが好きである。しかし、実験で得られた結果をもとに、わかったことを整理し考察することを苦手とする児童も多い。また、アンケート項目の中で、“理科の勉強をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ”については61%である。学習したことが、身近な自然現象や日常の生活との関わりについて、結びつけて考えられていないことも課題としてあげられる。

### (3) 指導観

児童はこれまでに、台風による降雨と災害、雲と天気の変化について学習している。本単元では、実験や野外観察、写真、映像資料などを通して、流れる水のはたらきによる土地の変化や、それに伴う自然災害についてとらえることができるようにしていきたい。

単元導入では、川の航空写真や、大雨の前、最中、後の川のような写真を見て話し合い、流れる水のはたらきについての問題意識をもてるようにしたい。その後、流水実験を行い、流れる水のはたらきをとらえ、それを実際の川にあてはめてみる活動をしていく。また、川の上流から下流までの土地のようすや石の形の特徴をとらえるとともに、くらしと災害の視点で、学習から得られたことから、災害を防ぐくふうのあり方について考えていけるようにしたい。

また、予想する場面では根拠を示し、考察での話し合い活動を通して、論理的思考力の育成を図り、単元の最後には、生活に結びつけ、流れる水のはたらきによる土地の変化や、それに伴う自然災害について関心が高まるようにしたい。

### 3 単元の目標

川や地面を流れる水の様子を観察して、流れる水には地面を削ったり、石や土を運んだり積もらせたりするはたらきがあることや、川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形が違うことをとらえるようにする。また、大雨などで水の速さや量が増えると、災害が起こることがあることもとらえるようにする。

### 4 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象への 知識・理解
関・意① 地面を流れる水や川の流れのようすなどに興味をもち、自ら流れる水と土地の変化の関係を調べようとしている。	思・表① 流れる水にはどのようなはたらきがあるか、予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。	技能① 流れる水の速さや量の変化による土地の変化の違いを調べる工夫をし、モデル実験の装置を操作し、計画的に実験をしている。	知・理① 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりするはたらきがあることを理解している。
関・意② 増水で土地が変化することなどから自然の力の大きさを感じ、川や土地のようすを調べようとしている。	思・表② 流れる水と地面の変化を関係付けて、地面を削ったり、土を運んだり積もらせたりするはたらきを見だし、考察し、自分の考えを表現している。	技能② 流れる水のはたらきと災害との関係を調べ、わかりやすくまとめている。	知・理② 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。
	思・表③ 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを表現している。		知・理③ 雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地のようすが大きく変化する場面があることを理解している。

5 指導計画

次	時	学習活動	評価の観点・方法
単元導入	1	川の曲がったところや、普段のときと大雨のとき、大雨の後の川の写真を比べて、気づいたことを話し合おう。	【関・意】地面を流れる水や川の流れのようすなどに興味をもち、自ら流れる水と土地の変化の関係を調べようとしている。 (行動観察・発言)
第1次	2	流れる水には、どんなはたらきがあるのだろうか。流れる水の量が増えると、はたらきはどうかになるだろうか。	【思・表】流れる水にはどのようなはたらきがあるか、予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。 (行動観察・発言・記録分析)
	3	実験1 流れる水と地面のようす	【技能】流れる水の速さや量の変化による土地の変化の違いを調べる工夫をし、モデル実験の装置を操作し、計画的に実験をしている。 (行動観察・記録分析)
	4	流れる水には「浸食・運搬・堆積」のはたらきがある。	【思・表】流れる水と地面の変化を関係付けて、地面を削ったり、土を運んだり積もらせたりするはたらきを見だし、考察し、自分の考えを表現している。 (発言・記録分析)
第2次  (本時 8/12)	5	わたしたちの地域の川のようすは、どうなっているのだろうか。	【知・理】流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりするはたらきがあることを理解している。 (記録分析・ペーパーテスト)
	6	実際の川や川原・川岸も、実験1で調べたように、流れる水のはたらきによって、できたようだ。 川原の石の大きさや形は、どこでも変わらないのだろうか。	【思・表】流れる水と地面の変化を関係付けて、地面を削ったり、土を運んだり積もらせたりするはたらきを見だし、考察し、自分の考えを表現している。 (発言・記録分析)
	7	観察1 川原や川岸のようす	【関・意】川の流れのようすに興味をもち、自ら流れる水と川原の石の大きさや形の関係を進んで調べようとしている。 (行動観察・発言)
	8	観察2 川原の石のようす	【知・理】根拠をもとに石の形の変化を考察し、理由を説明できる。 (発言・記録分析)

第3次	9	<p>川原の石は、上流では大きくごつごつしていて、下流にいくほど、小さく丸い石が見られる。</p> <p>川は、どんなときに、周りのようすを変えるのだろうか。</p> <p>資料調べ2 川の流れと災害</p> <p>災害を防ぐために、川岸に堤防をつくったり、遊水池をつくったりと、川の水が急に増えないように工夫されていた。</p>	<p>【知・理】川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 (記録分析・ペーパーテスト)</p>
第4次	10	<p>わたしたちが川とともにくらすためのくふうは、ほかにどんなものがあるだろう。</p> <p>川とともにくらすために、様々な工夫が昔からされている。</p>	<p>【技能】流れる水のはたらきと災害との関係を調べ、わかりやすくまとめている。 (行動観察・記録分析)</p>
まとめ ～ ひろげよう	11 ・ ゆ	<p>まとめよう／たしかめよう／力だめし ひろげよう</p>	<p>【関・意】増水で土地が変化することなどから自然の力の大きさを感じ、川や土地のようすを調べようとしている。(行動観察・発言)</p>

## 6 本授業での提案

### ①実物の準備と提示

写真や映像だけでなく、実際に手に触れることで、大きさや形などを実感しながら観察できるように準備をする。

### ②場の工夫による思考・イメージの補助

地図などを利用し、位置関係が分かりやすいように、観察対象物を配置する。

### ③「比較」を用いた児童の気付きと思考の促進・集団での議論の整理

「同じこと」と「異なること」に意識的に着目させ、児童の思考を助け、気付きを促す。集団での話し合いの際も、メンバーの気付きや考えの共通点と差異点に注目させることにより、議論の道筋をつくり、学びを深める。

### ④「事実(根拠)」に基づく話し合いの深化

集団での議論の際に、観察から得られた「事実」に基づいて各人やグループの主張の妥当性を吟味し、対話的で深い学びを実現する。

### ⑤視覚による思考の補助

色分けした付箋やホワイトボードの活用により、児童の思考を補助するとともに、時間の短縮を図る。



7 本時の学習

(1) 本時の目標

【関心・意欲・態度】

- ・川の流れのようすに興味をもち、自ら流れる水と川原の石の大きさや形の関係を進んで調べようとしている。

【科学的な思考・表現】

- ・川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを説明できる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の働きかけと 予想される児童の反応	評価及び指導上の留意点 【評価方法等】
導入	<p>問題を確認する。</p> <p>問題について予想する。</p>	<p>川原の石の大きさや形は、どこでも変わらないのだろうか。</p> <p>本時はここから</p>	
展開	<p>1 川原の石を観察する。</p> <p>2 観察結果を、整理する。</p>	<p>○荒川の上流から、下流に向かって3カ所の川原の石を観察しよう。</p> <p>○観察してわかったことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上流から下流になるにつれて、石の大きさが小さくなっている。</li> <li>・上流では大きい石がみられるが、だんだん丸くなっている。</li> <li>・いろいろな種類の石がどこでも見られる。</li> <li>・同じ色の石が、大きさや形を変えて見られた。</li> </ul>	<p>〈関心・意欲・態度〉 川の流れのようすに興味をもち、自ら流れる水と川原の石の大きさや形の関係を進んで調べようとしている。 (行動観察・ノート)</p> <p>《C評価の児童への手立て》 実際に、3か所の石を順番に並べて、大きさ・形について比較させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べてわかったことを、付箋に記録させる。</li> <li>・各自、記録したことを班で発表し合う。(ホワイトボードに付箋を貼るときに、同じ考えのものはまとめさせる。)</li> <li>・班で話し合っ、結論をまとめる。(付箋にある言葉から、わかったことを文章でまとめさせる。)</li> <li>・児童から出てきた言葉で、まとめるようにする。</li> </ul>

まとめ

3 わかったことを話し合っ  
て、まとめる。

- 班で話し合った結論を発表しよう。
- ・上流の石が大きくて、ごつごつした石が多く、下流にいくにつれて、小さく丸くなっている。
- ・種類については、どこでも変わらない。

〈科学的な思考・表現〉  
川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを表現している（発言・記録分析）

川原の石は、上流では大きくごつごつしていて、下流にいくにつれて、小さく丸くなる。

4 結果から分  
かったことを、  
深める。

- 川の上流から下流になるにつれ、石が小さく丸くなるのはなぜだろう。
- ・同じ種類の石が上流から下流でも見られるので、石は上流から流されてきたのではないか。
- ・流されてくる間に小さく丸くなったのでは。
- ・流されてくる間に、ぶつかって割れたのでは。
- ・こすれて角が削れたのでは。

- ・流れる水のはたらき（浸食・運搬・堆積）の既習事項を確認する。
- ・同じ種類の石は、どこでも見られたことを確認し、上流から下流へとどのように変化したか、実際の石を並べて比べてみる。

- 石の代わりに、吸水スポンジを水の中でこすり合わせて、変化を見てみよう。
- ・角がけずれて丸くなった。
- ・けずれた部分が、細かい粒になっている。
- ・本当の石についても、同じことが起きているのだろうか。

- ・吸水スポンジをつかったモデル実験を見せることで、石がぶつかり合い、こすれることで角が削れることを実感させる。
- ・川原の石は吸水スポンジよりも重く硬いので、長い距離を運ばれてくる間に丸くなったことや水の力の大きさなどを考えさせる。

- 上流で大きかった石が、下流に流される間に、石と石がぶつかりあったり、こすれあったりして、石は丸く小さくなる。

- ・石が小さく丸くなる理由については、補足説明をする。

### 8 板書計画

<b>問題</b>	川原の石の大きさや形は、どこでも変わらないのだろうか。	<b>結果</b>	<b>考察</b>	
<b>予想</b>				
<b>方法</b>		<b>まとめ</b>		川原の石は、上流では大きくごつごつしていて、下流にいくにつれて、小さく丸くなる。

〈学力向上研究委員会中学校国語部会の取組〉授業実践【中学校3年「月の起源を探る」】

思考力・判断力・表現力の育成のためのポイント

- ◎問題提起やそれに対する仮説や検証の内容について自分の意見をもつ。
- ◎仮説や検証の内容を捉えるためにグループでプレゼンテーションを行う。

導入

めあて 説明の順序や図の使い方を意識し、わかりやすく説明しよう。



- ・初発の感想から、「古典的仮説」と「巨大衝突説」の二つにグループを分ける。
- ・専門的な知識がない小学生でもわかる説明の工夫をする。

古典的仮説

古典的仮説と巨大衝突説のどちらのプレゼンテーションをするか自分で決めることによって、意欲の向上につながる

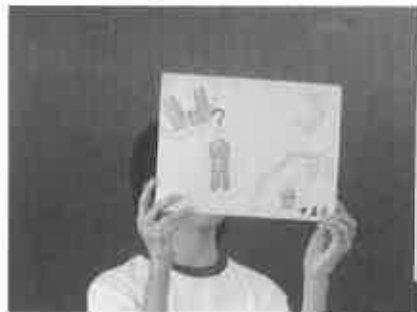
分裂説…形成されたばかりの地球が高速で回転し、一部がちぎれた。

共成長説…地球と月が初めから惑星と衛星として形成された。

捕獲説…別の場所で形成された月が、地球の近くを通った時、重力の作用で捕獲された。

展開①

発表



巨大衝突説

- ① 地球の10分の1の大きさの天体が地球に衝突。
- ② 地球の周りに気化した、または溶けた岩石成分が飛び散る。
- ③ 冷えて粒子となった岩石成分が地球の周りに円盤状に広がる。
- ④ 岩石の粒子が衝突と合体を繰り返し、月ができる。

筆者の表現の工夫

説明の順序、図表や語句の使い方、小見出しの付け方などさまざまな工夫が凝らされている。

学び合い・高め合いのためのポイント

- ◎小グループでプレゼンテーションの内容を話し合う過程で、専門的な内容の文章に対する理解を深める。(専門的な用語をわかりやすく言い換える工夫など)
- ◎わかりやすい説明の工夫を考え、筆者の表現の工夫に対する気づきを得る。

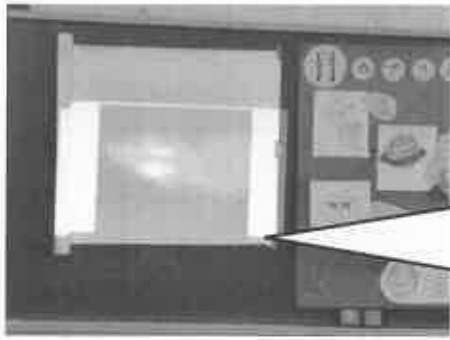


わかりやすい発表のための工夫

説明の順序、図表や語句の使い方、小見出しの付け方などを工夫して発表する。

## 目標②

## 映像資料の提示 (デジタル教科書使用)



### シミュレーションを基にした月の起源の映像

- ① 地球に原始惑星が衝突する。
- ② 衝突の瞬間。
- ③ 地球の周りに岩石成分がまき散らされる。
- ④ 地球の周りに冷えて粒子となった岩石成分が円盤状に広がる。
- ⑤ 岩石の粒子が、互いに衝突、合体することで月ができる。

### デジタル教科書を使った映像資料

- ◎コンピュータシミュレーションによって、巨大衝突説の検証の映像を見ることができる。
- ◎自分たちがそれぞれの仮説についてプレゼンテーションした後にコンピュータシミュレーションによる映像を見ることで、より理解が深まる。

## 終末

## 話し合い 振り返り

- T どういう発表がわかりやすかったでしょうか。
- S 1 絵や図を使って発表するのが、わかりやすいです。
- S 2 ボールを使って月と地球を表しているのがわかりやすかった。
- T 自分たちの班では何を意識して説明しましたか。
- S 3 難しい言葉を簡単にすること。どうすれば伝わるかを考えた。辞書でたくさん言葉を調べた。

### 学び合い・高め合いのためのポイント

- ◎プレゼンテーション、発表の後にはどんな工夫が効果的であったか意見を交換することで、学びが深まり、次回への意欲につながる。

## 事後の指導

### 筆者の表現(構成)の工夫を考える

- 「はじめに」 …問題提起
- 「不思議な衛生・月」 …月の概略を説明
- 「親子か兄弟か、それとも他人か」 …三つの古典的仮説を説明し、それが現在は否定されていることの説明
- 「衝突から月へ」「月を作る実験」 …「巨大衝突説」を紹介し、それが現在有力であること
- 「新たな研究へ」 …「巨大衝突説」が「最も有力な仮説」であり「研究は今日も続いている」こと

### 自分の考えをもつ

「研究は今日も続いている。」や「新たな研究の成果を受け、これから改定されるかもしれないし、あるいは否定されることもあるかもしれない。」という言葉は、筆者の研究に対する姿勢の一端を示しているが、筆者の粘り強い研究の姿勢から学べることは何か。

現在の仮説も新たな研究データの登場によって否定される可能性があることを示す。

一貫した科学的なもの見方の表れ

### 【授業後の研究協議から】

- ・発表に至るまでの話し合いがよくできたことにより、今日の発表があると感じられる。
- ・説明の順序の違いなどについて教師が確認したり、意図的に質問を投げかけたりして、意識させてもよかった。
- ・デジタル教科書を効果的に使うと、生徒の興味・関心が高まる。本時でも有効に使っていた。
- ・国語の授業では「言葉」で説明するところにこだわりたい。映像や資料は、あくまでも補助的な役割として用いる。
- ・話し合いにより、自分の考えが変化したり深まったりすることが「学び合い・高め合い」につながる。

# 第3学年2組 国語科学習指導案

平成29年7月11日(火)

生徒数 男子15名 女子18名 計33名

川越市立霞ヶ関中学校 小川 綾

## 1 単元名・教材名 「月の起源を探る」

## 2 生徒の実態と本単元の意図

### (1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【読むこと】	学習内容	単元・教材名 (実施時期)	学習活動と関連する他領域 の指導
・文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。  【3年イ】	・内容理解	「多様な視点から」 ・生物が記録する科学  (2年・6月)	【伝国】 ○「握手」 ・筆者が説明に用いている語句に注意して読み、語彙を増やす。

### (2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は学びへの意欲が高く、楽しみながら学ぶ姿勢が多々見られる。しかし、理解力の低い生徒もおり、わかったつもりになってしまう傾向もある。また、物語や古典作品の読解は意欲的に取り組み、理解しようと努力できるが、説明的文章に関しては苦手意識があるため、丁寧に授業を行う必要がある。

本年度の川越市学力向上研究委員会授業研究部中学校国語部会では川越市学力向上プランの研究の視点に則り、学び合い・高め合いのあるモデル授業実践を実施することとした。

国語科における思考力・判断力・表現力の育成には、以下のような流れを踏まえた授業作りを実践することであると考える。まず、それらの力を育成するための基盤として、国語科の本質である言語の教育としての立場を踏まえ、文章やスピーチなどの文字言語・音声言語を正確に読み取る読解(理解)力が身につけていること、そして、理解したものを目的に応じて、的確に書いたり発表したりできることと考える。さらに、学び合い・高め合いのある授業実践を目指すためには、学習活動を工夫することとした。よって、本校における授業実践では、教材の正確な読み取りを基本にし、学習課題の質を高め、それぞれの課題を正確に解決できる力を養うことを目指した。

## 3 単元の目標

- (1) 月の成り立ちや、科学的なものの見方や考え方に興味をもって読もうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 説明の順序や図の使い方に着目して、内容を捉えることができる。  
(読むこと)
- (3) 筆者が説明に用いている語句に注意して読むことを通して、語彙を増やし、語感を磨くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### 4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
評価規準 単元の	・月について、思い浮かぶことや知りたいことを書き出している。	・説明の順序や、図と本文の対応を確かめながら読み、文章の内容を捉えている。 ・問題提起やそれに対する仮説や検証の内容を的確に捉え、筆者の考え方について自分の考えを述べている。	・接続語に着目し、効果的に用いると順序立てて説明できることを確かめている。
した評価規準 学習活動に即	① 初発の感想を個人でまとめている。	① 筆者の説明の工夫を文章にまとめている。 ② 三つの古典的仮説、巨大衝突説の要点をまとめ、筆者の科学的な考え方について発表している。	① グループで、筆者の表現の工夫を発表に生かしている。

#### 5 指導と評価の計画（全5時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○学習のめあてをつかむ。 ○文章の構成を捉える。 ○初発の感想を書く。	○学習計画 ○文章の特徴 ・筆者の説明の工夫 ・小見出し ・図 ○プレゼンテーションの方法	ア① ・机間指導による観察 ・発表・態度の確認
2	○プレゼンテーションに向けて準備をする ○2つの小見出しに分かれてわかりやすく説明をする。(パネル等を使用) ○発表練習を行う。	○プレゼンテーションの方法と資料準備 ・図書室 ・拡大図の用意 ○内容理解 ・古典的仮説 ・巨大衝突説 ○発表の工夫 ・資料の活用 ・パネル活用 ・声の大きさ ・発表態度	エ①② ・机間指導による観察 ・グループ学習の態度の確認 オ① ・机間指導による観察 ・グループ学習の態度の確認
3			
4 (本時)	○プレゼンテーションを行う。	○内容理解 ・発表の工夫 ・聞く姿勢	エ② ・発表・態度の確認 ・評価シートの記入
5	○内容をまとめる。	○内容理解 ・発表を受けて、月の起源とは何かをワークシートに記入	エ① ・机間指導による観察 ・ワークシートの記入

#### 6 本時の学習指導（3/5）

##### (1) 目標

- ・科学的なものの見方に興味をもって読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・説明の順序や図の使い方に着目し、内容を捉えることができる。 (読むこと)

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>2 発表を行う。</p>	<p>・説明の順序や図の使い方を意識し、わかりやすく説明しよう。</p> <p>・自分の発表と他の発表を比較しながら聞こう。</p> <p>○活動の形態</p> <p>・3～4人のグループ</p>	<p>・本時の学習のめあてを示す。</p>
<p>〈発表について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想から興味のあるもの同士で同じグループとする。</li> <li>・グループは「古典的仮説」と「巨大衝突説」の2種類のグループに分けている。</li> <li>・月の起源について、専門的な知識がない小学生でもわかるように説明することをテーマとし、教科書の内容を、図などを用いてよりわかりやすい言葉で説明させる。</li> </ul>		
<p>〈古典的仮説〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分裂説・・・形成されたばかりの地球が高速で回転し、一部がちぎれた。</li> <li>・共成長説・・・地球と月が初めから惑星と衛星として形成された。</li> <li>・捕獲説・・・別の場所で形成された月が、地球の近くを通ったとき、重力の作用で捕獲された。</li> </ul> <p>*どれも現実的な説ではない。</p> <p>〈巨大衝突説〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地球の10分の1の天体が地球に衝突。</li> <li>② 地球の周りに気化した、または溶けた岩石成分が飛び散る。</li> <li>③ 冷えて粒子となった岩石成分が地球の周りに円盤状に広がる。</li> <li>④ 岩石の粒子が衝突と合体を繰り返し、月ができる。</li> </ol>		
<p>○発表の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図の使用</li> <li>・演技</li> <li>・パネルの活用</li> <li>・声の大きさ</li> <li>・発表態度</li> <li>・発表の姿勢</li> </ul> <p>○聞く時のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの発表とは違う工夫を見つける。</li> </ul>		
<p>3 まとめを行う。</p>	<p>○本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説得力のある説明の仕方とは一視覚に訴えるもの</li> <li>・易しい言葉に言い換えているもの</li> <li>・自分の発表と他の発表の比較</li> </ul>	<p>評価場面</p> <p>〈具体の評価規準〉</p> <p>エの②</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表態度の確認</li> <li>・評価シートの記入</li> </ul> <p>〈手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の工夫、聞く姿勢・聞く時のポイントについて指導する。</li> </ul>

目標

月の起源を探る

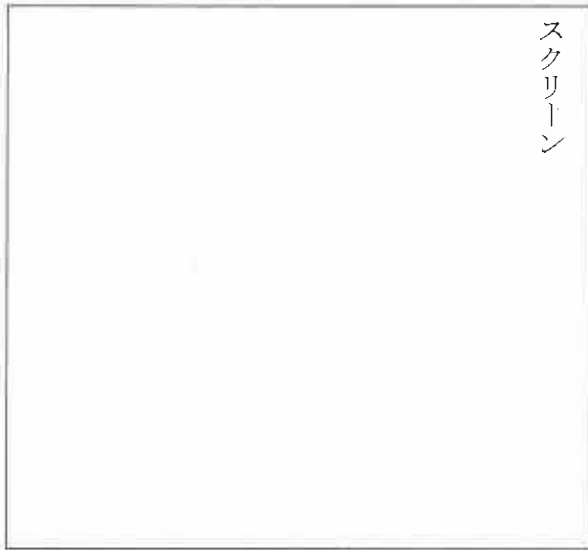
● 説明の順序や図の使い方を意識し、わかりやすく説明しよう。

● 自分の発表と他の発表を比較しながら聞こう。

○ 発表の時の注意

- ・ 声は大きく。姿勢よく。
- ・ 聞くときは工夫を見つけながら聞く。

スクリーン



○ まとめ

- ・ 説明は図があるとわかりやすい。
- ・ 難しい言葉は言い換えることで伝わりやすくなる。
- ・ 違う段落も含めて説明するとよりわかりやすい。



# 中学校社会科モデル授業プラン

単元や1単位時間の学習課題を工夫し

## 単元の計画

### 単元の目標を 明確化

- ・習得させる概念は何か確認する
- ・学習指導要領解説を参照する
- ・教材研究は単元ごとに行う

### 単元を貫く課題を 設定する

- ・学習の動機付けを図る
- ・生徒が見通しをもてるようにする
- ・本単元の継続性を図る
- ・単元を貫く課題に戻ること、どの時間でも説明できるようにする

## 1単位時間の計画

### 課題提示

### 個人の活動

生徒の  
学習活動

- ・社会的事象等を知る
- ・気づきや疑問を出し合う
- ・課題意識をもつ
- ・学習課題を設定する

- ・予想や仮説を立てる
- ・調査方法、追究方法を吟味する
- ・学習計画を立てる

## (例) 対話的な学びを取り入れた授業の流れ

展  
開  
例

### 課題の提示

- 【本時の課題】  
「契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう」  
・テレビCMやチラシ等を提示する

### 活動 ①

- 広告にはどのような工夫がされているか考える (個人⇒グループ)
- ・グループ内での発表後、広告についての決まりや法則を紹介し、広告の影響を受けていることに触れる

# 生徒に見通しをもたせる授業プラン

## 課題解決に迫るために 有効な活動を考える

- ・単元に「対話的な学び」を位置づける
- ・友達の見意見を聞いて気付きが生まれるようにする
- ・多面的・多角的な見方ができるようにする
- ・生徒の予想が覆るようにする

### (対話的な学びの例)

- ・グループでの話し合い
- ・知識構成型ジグソー法
- ・ワールドカフェ 等

## 1単位時間の 計画を立てる

(下図参照)

グループの  
話し合い

各班の発表

個人の考察  
まとめ

- ・予想や仮説の検証をする
- ・社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する
- ・社会に見られる課題を把握して解決に向けて考察する

- ・課題を振り返って結論をまとめる
- ・新たな問いを見出したり追究したりする

### 授業の工夫

- ・身近なテレビコマーシャルや新聞広告を活用し、「自分事」として考えられるようにする。
- ・具体的な事例を話し合いのテーマとする。

### 活動 ②

- 一度結んでしまった売買契約を解消できるか考える  
(個人⇒グループ)
- ・「契約自由の原則」を確認し売り手よりも買い手の方が不利益になる事が多い事を確認する

### 個人の考察

- 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめる
- ・本時のキーワードを用いて自分の考えが書けるように指導する

### 本時のまとめ

- 【本時のまとめ】  
「よりよい契約とは、自分の判断で慎重に商品を検討し、自らの意思で責任を持って購入することである」
- ・問題提起し、次時の学習につなげる

## 第3学年 社会科学習指導案

### 1 単元名 契約と消費生活

### 2 単元について

学習指導要領公民的分野の内容「(2) 私たちの経済」の中項目ア「市場の働きと経済」を受けて、設定したものである。この中項目アでは、「経済活動の意義について消費生活を中心に学ばせながら、なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか、なぜ金融は必要なのか、どうしてそのような仕組みがあるのか」が主なねらいである。経済活動が一般に人々が求める財やサービスを生産し、これらを消費することで生活を成り立たせている人間の活動であり、経済活動の意義とは、人間の生活の維持・向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを、生徒の身近な経済生活である消費を中心に理解させることを意味している。本単元では、「経済はどのような役割を果たしているのか。」という単元を貫くテーマを設けて、契約の意味やよりよい契約の仕方について考えていくことをねらいとする。

### 3 生徒の実態 ～省略～

### 4 指導の手立て

生徒の実態を踏まえ、今後、さまざまな主体的・協働的な学習を取り入れ、言語活動の充実を図ることにより、さらに多面的・多角的に考え、判断する力や多様な表現力を高めていく必要がある。

そこで、本授業では、「契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう。」という学習課題を設定し、小グループでの活動を通して自分の意見を確立させていく。また、「追究する力」を育成するための学習過程のうち、「表現・発信」、「意見交換・討論」を中心的な授業の取組とした。机間指導の際には、社会を苦手とする生徒には個別指導を行うようにする。

### 5. 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

- ・経済はどのような役割を果たしているのかという学習課題について、身近な事例を通して、意欲的に追究しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・さまざまな経済的事象を異なる立場の視点を通して、多面的・多角的に捉え、適切に表現している。(思考・判断・表現)
- ・身近な事例の多様な資料から情報を収集し、学習課題の解決を図ろうとしている。(資料活用の技能)
- ・身近な事例を基に、市場経済の基本的な考え方を身に付け、経済の仕組みや働きを理解する。(知識・理解)

#### (2) 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
消費者問題や労働、金融、財政などと、自分の現在および将来の生活が密接に関わっていることに関心を持ち、調査や討論などに積極的に取り組んでいる。	さまざまな経済的事象や日本経済の諸課題について、消費者や生産者、労働者、政府、納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、考えたことを分かりやすく表現している。	経済に関する統計資料や新聞記事などをさまざまな方法で収集し、家計、企業、政府の経済活動や、日本経済の諸課題について読み取ったり、その結果を文章や図表などに適切にまとめたりしている。	身近な事例を基に、消費や労働、生産と金融の仕組みや働きについて理解するとともに、市場経済の基本的な考え方を身に付け、その考え方を活用して経済的事象を捉えている。

(3) 単元の指導計画 (5時間扱い 本時3/5)

時	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 (◇)
1	<p>○コンビニエンスストアの経営者になってみよう</p> <p>本時の学習課題：コンビニエンスストアの経営者になってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シュミレーションを通して学習への意欲を高め、経済に興味・関心をもつ。</li> <li>・経営者の視点から消費者の消費行動について考えることで、生活と経済との関係や、経済活動における限られた資源の選択について気付く。</li> </ul> <p>単元を貫く課題：経済はどのような役割を果たしているのか。</p>	<p>指導上の留意点・評価 (◇)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニエンスストアの立地について考えるシュミレーションを通して、経済に対する関心を高めている。</li> <li>◇コンビニエンスストアの立地について、経営者と消費者の立場から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>
2	<p>○私たちの消費生活</p> <p>本時の学習課題：私たちの消費生活は、どのように営まれているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の生産と消費を通して暮らしを豊かにする仕組みが経済であることを理解する。</li> <li>・将来の家計の支出を予測し、検討することで、収入と支出のバランスとより良い消費生活の在り方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の家計の支出の予測や改善について話し合う中で、消費生活を向上させようとする態度が見られる。</li> <li>◇消費者は限られた時間と収入を基に商品を選択していることや、家計における収入と支出、貯蓄の関係について理解し、その知識を身に付けている。(知・理)</li> </ul>
3 (本時)	<p>○契約と消費生活</p> <p>本時の学習課題：契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告が消費行動に与えている影響に着目し、消費者主権について関心をもつ。</li> <li>・身近な事例を通して、消費生活が契約によって成り立っていることに気づき、契約の際に注意すべきことについて考え、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広告が消費行動に与えている影響に着目するとともに、ハブニングカードから消費者主権について考えていく。</li> <li>◇消費生活が契約によって成り立っていることを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(思・判・表)</li> </ul>
4	<p>○消費者の権利を守るために</p> <p>本時の学習課題：消費者の権利を守るために、どのようなことが行われているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の権利とその保護について、具体的な被害例や対応策などを通して考え、考えたことを表現する。</li> <li>・身近な消費生活を通して、自立した消費者として権利とともに責任を負っていることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇消費者の権利とその保護の取り組みについて、多面的・多角的に考えている。(思・判・表)</li> <li>◇消費者の権利や消費者行政の役割について理解し、その知識を身に付けている。(知・理)</li> </ul>
5	<p>○消費生活を支える流通</p> <p>本時の学習課題：商品はどのような経路で消費者の手もとに届くのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな商品の流通経路に、消費者として関心をもつ。</li> <li>・流通の仕組みや役割、流通の合理化の取り組みについて調べ、理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な商品の流通経路について、積極的に調べている。</li> <li>◇流通の役割や流通の合理化の取り組みについて、生産者と消費者の立場から、多面的・多角的に考察している。(思・判・表)</li> </ul>

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・「広告」の工夫について多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。
- ・売買契約を解消できるかどうか多面的・多角的に考察し、その理由を自分の言葉で表現することができる

(2) 展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点（・） 評価（◇）	資料等
導入 5分	1 オンラインゲームのCMから、ゲームを購入する際の注意点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントで提示したオンラインゲームの問題点を確認する。</li> <li>・ゲームを購入することが「契約」であることを説明する。</li> <li>・ライフステージと契約の資料から、様々な「契約」について確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントのスライド</li> <li>・ライフステージの資料</li> </ul>
課題提示 追究40分	<p>2 本時の学習課題を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう。</p> <p>3 活動の仕組みと流れを確認する。</p> <p>4、活動</p> <p>①「契約」する際、商品を選択の参考となる「広告」にはどのような工夫がされているか考え発表する。 (個人→班)</p> <p>②教科書のA～Cのケースについて一度結んでしまった売買契約を解消できるかどうか考え、発表する。 (個人→班)</p> <p>5 学習活動について自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習に対する関心と見通しを持たせる。</li> <li>・「広告」を提示し、広告の工夫について気づいたことをまとめさせ、班でシェアし、発表させる。</li> <li>・発表後、広告についてのきまりや法則を紹介し、様々な場面で広告の影響を受けていることに触れる。</li> <li>◇「広告」の工夫について多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。 [思] (ワークシート、発表)</li> <li>・ハプニングカードの3つの契約事例から売買契約を解消できるかどうか考えさせ、その理由もまとめさせ、班でシェアし、発表させる。</li> <li>・発表後、「契約自由の原則」を確認する。その中で、売り手よりも買い手（消費者）の方が、不利益になることが多いことを確認する。</li> <li>・売買契約を解消できるかどうか多面的・多角的に考察し、その理由を自分の言葉で表現することができる。 [思] (ワークシート、発表)</li> <li>・本時の学習活動を振り返り、ワークシートにまとめさせる。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【不十分と判断される生徒への指導の手立て】 「慎重」、「責任」というキーワードを用いて自分の考えが書けるよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広告 (チラシ、ネット広告、TVCM)</li> <li>・ハプニングカード</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
まとめ 5分	6 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の解決として適切にまとめている生徒の考察を発表させる。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本時のまとめ：よりよい契約とは、自分の判断で慎重に商品を検討し、自らの意思で責任を持って購入することである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題提起し、次時の学習につなげる。</li> </ul>	

## 【板書案】

### 契約と消費生活

単元を貫くテーマ 経済はどのような役割を果たしているのか

#### 今日のテーマ

契約とそのルールを知り、  
よりよい契約の仕方を考えよう

#### 活動① 広告の工夫とは？

##### 広告A

- ・芸能人が出演している
- ・若者がターゲット

##### 広告B

- ・即日発送
- ・送料無料
- ・ポイント充実

##### 広告C

- ・安さを強調
- ・売りたい商品を目立つ場所に設置

#### まとめ

よりよい契約とは、自分の判断で慎重に商品を検討し、自らの意思で責任を持って購入することである。

#### 活動② 売買契約は解消できるか

##### ハプニングカード

A	ホワイトボード 各班の意見		
B			
C			

## 【ハプニングカード】

### カードA

私はA君から、「その物」を買った後、新品の同じ物が、近くの店で安く売られていることを発見した。そこで、私は、A君との契約を解消して、払ったお金を返してもらいたいと思っている。

私は、契約を解消して、お金を返してもらおうことが できるでしょうか。

### カードB

私はA君から、「ある物」を買った後、家に帰ると、お母さんが「A君から買ったある物と同じ物」を買ってくれていた。私としては、同じ物は必要ないのでA君との契約を解消して、A君に「ある物」を返して、支払ったお金を返してもらいたいと思っている。

私は、契約を解消して、お金を返してもらおうことが できるでしょうか。

### カードC

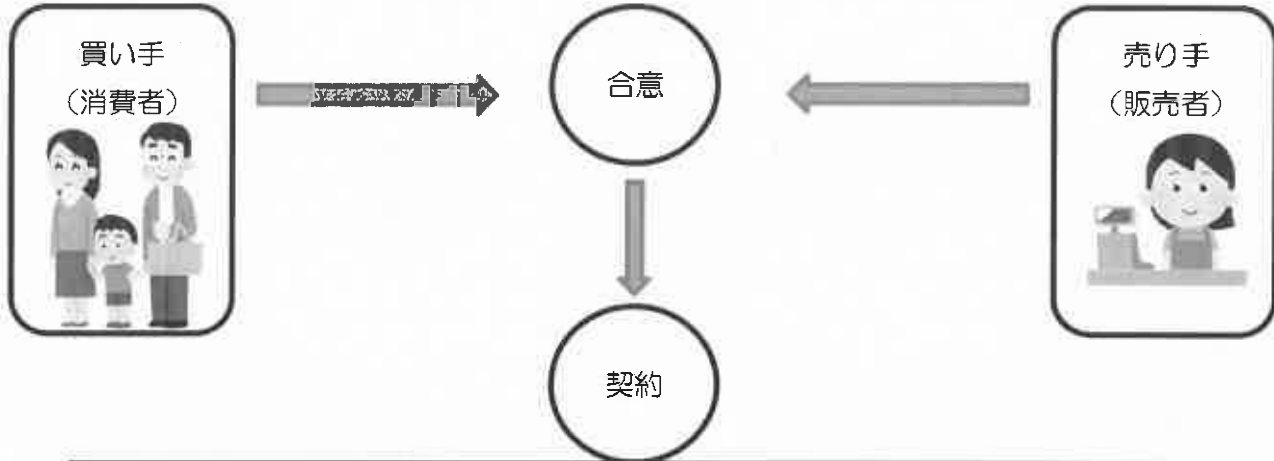
私はA君から、「〇〇は、有名なブランド〇〇製である」と説明をされてそれを買った。後日、それはニセモノであることが判明した。私は、ニセモノならいらないので、A君との契約を解消して、払ったお金を返してもらいたいと思っている。

私は、契約を解消して、お金を返してもらおうことが できるでしょうか。

契約と消費生活（教P122～123、資P92～93）

今日のテーマ \_\_\_\_\_

契約とは



契約自由の原則

だれと、どのような内容の契約を、どのような方法で結ぶのかは当事者の自由

Q 3種類の広告から、企業が工夫している点を考えて、まとめよう。

【個人でのまとめ】	広告の工夫・それによる消費者への影響など
広告1	
広告2	
広告3	

【班でのまとめ】	広告の工夫・それによる消費者への影響など
広告1	
広告2	
広告3	

商品購入後にハプニングがあったら契約は解消できるのか？  
以下の事例の場合を考えてみよう。

- A：同じ商品が他店で安く売っていた！
- B：ブランド品と言われて買ったら偽物だった
- C：家に帰ったら同じ商品があった

【個人の意見】

事例	契約解消できる？ (○・×)	そう判断した理由
A		
B		
C		

【班の意見】

事例	契約解消できる？ (○・×)	そう判断した理由
A		
B		
C		

【他の班の発表を聴いて】

他の班の意見まとめ・メモ
-----
-----
-----

今日の授業のまとめ

より良い契約とは
-----
-----



## 事前

### 教材と生徒の実態をとらえる

- 教材研究をする。
  - ・単元全体の内容、学年間のつながりを確認し、全体のイメージをつかむ。
  - ・授業のねらい、つけるべき力を事前に確認する。
  - ・各観点別評価規準（年間計画）を確認し、評価計画を立てる。
- 生徒の実態を把握する。
  - ・レディネステスト、各種学力調査等の結果を分析する。
  - ・予想される生徒の反応を想定する。
- 授業準備をする。
  - ・使用する教材（身の回りの素材、題材、資料等）・教具を検討、吟味する。
  - ・授業形態を確定する（一斉、グループ、少人数指導、TT学習）。
  - ・導入話題（動機付け）や問題提示の方法、ワークシート等を決定する。

## 導入

### 本時の学習内容や課題をつかめるようにする

- 問題提示をする。
  - ・興味・関心、意欲を高める提示（具体物の利用や実験等の活用）をする。
  - ・板書や模造紙（手書き）、拡大コピー、プロジェクター投影等で可視化する。
  - ・どんな問題場面（学習内容）なのか意味をとらえることができるようにする。
- 課題を設定できるようにする。
  - ・何について考えていくのか共有する。
  - ・指示を明確に発する。



## 展開①

### 見通しをもち、解決できるようにする

- 見通しをもち、自分（たち）の力で解決できるようにする。
  - ・既習事項を思い起こせるようにする。
  - ・表現方法を示唆する（図・表・グラフ・式・言葉等）。
  - ・口頭での説明だけでなく、理解を助ける教具等も必要に応じて用意する。
  - ・机間指導において、観察、助言する。
  - ・机間指導において、つまずきを見取り、支援する。（個別・全体指導・教え合い等）
  - ・考える時間を確保する。
  - ・考えたことを書き留める工夫を共有する。
  - ・終わった場合を想定して、事前に、継続して取り組むべきことを指示しておく。（難しい課題、結論が見えない課題 等）

## 展開②

### 話し合いを通して、課題解決に迫れるようにする

- 課題解決の方法を、伝え、深め、まとめられるようにする。
  - ・授業のねらいに即して、学習形態を指示する。(ペア・班・全体)
  - ・話し合う内容の確認をする。(学力差を超えて話し合える)
  - ・リーダーシップをとれる生徒を中心に話がしやすい雰囲気になるように助言する。
  - ・ねらいに迫るところでは、先生対生徒だけでなく、生徒同士の意見の交流を踏まえてみんなで議論が深まるような展開を心がける。
  - ・共に学ぶことに意味があるととらえ、教え合える雰囲気(役割分担等)を作る。

## 終末

### 課題をまとめ、授業を振り返るようにする

- 課題(の言葉)に応じたまとめをうながす。
  - ・自分の言葉でノートにまとめられるようにする。
  - ・ポイントやキーワードを必要に応じて板書する。  
※板書は、1単位時間の内容を振り返ることができるようにする。
- 評価問題に取り組むようにする。
  - ・全員が習得すべき内容を出題する。
  - ・時間に応じて問題数を調整する。
  - ・授業のねらいに応じて、説明等の記述問題も用意する。

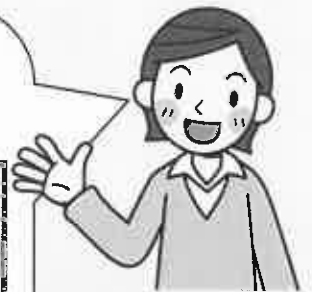
#### 【毎時間の授業の評価問題について】

評価の目的は、

- ①生徒が、自分の学習内容に関する定着度・理解度を理解し、その後の学習につなげるため。
- ②指導者が、生徒の学習内容に関する定着度・理解度を把握し、その後の指導内容・方法を見直すため。

と考えられるので、毎時間の授業の評価を必ず行っていくことが大切である。

ペーパーテストによる評価問題は、本時の指導目標に合ったもので、5分くらいで解答できる評価問題を作成するとよい。



解答をペアで確認するなど、生徒同士で評価し合い、即時フィードバックできるようにする方法も考えられる。

#### 【評価問題例】

あしたのために1 氏名( )  
次の減法の式を加法に直して計算しなさい。

$$\begin{array}{l} \textcircled{1} \quad (-5) - (+3) \quad \textcircled{2} \quad (+4) - (-2) \\ \quad \quad \quad = \quad + \quad \quad \quad = \quad + \\ \quad \quad \quad = \quad \quad \quad \quad \quad \quad = \quad \quad \quad \\ \textcircled{3} \quad (-2) - (-7) \\ \quad \quad \quad = \quad + \\ \quad \quad \quad = \end{array}$$

計算問題では、計算の途中の式もかかせる問題にする。『技能』だけでなく、『知識・理解』も評価できる。

あしたのために2 氏名( )

$\sqrt{2} + \sqrt{3} = \sqrt{2+3}$  のように計算してはいけません。その理由を説明しなさい。

「…求め方をかきなさい。」 「…理由を説明しなさい。」 「…〇〇とは別の考えで解きなさい。」 「…2通りの考え方で解きなさい。」 などと問うと、『数学的な見方・考え方』の評価ができる。

## 事後

### 生徒の反応を振り返るようにする

- 点検、指導を粘り強く続ける。※次時の導入内容を検討・修正する。
  - ・個人カード、評価カード等から分析する。
  - ・ノート、成果物等から分析し、生徒のつまずきを把握する。

# 数学科学習指導案

平成29年10月〇日(〇)〇校時  
活動場所 1年〇組教室

## 1. 題材名 方程式

## 2. 題材について

### (1) 教材観

方程式につながる学習内容として、小学校では、□や文字 $x$ などを使って数量の関係を式に表し、逆算の考え方などによってその値を求めている。しかし、数量の関係がもっと複雑になると、算数の考え方だけでは難しくなり、新しい方法で解いていくことが必要になってくる。

ここでは、文字を用いた式の学習の上に立って、方程式の必要性と意味、及びその解の意味を理解し、等式の性質をもとにして、一元一次方程式を解く方法を考える。そして、それらを通して代数的な操作のよさを理解する。

### (2) 生徒観 ～省略～

### (3) 指導観

本時は、「方程式の利用2」の第一時である。まず文章を読み上げ問題の中で求められそうな数量を見つけ、方程式を利用して解けるかを考えていく。このとき、求めたい数量が6個あると予想される。前時までは基本となる利用の文章題を解く手順にしたがって課題解決をしてきた。本時は文章の中から求めたい数量を見つけることができるかペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の考えを伝え合う場を設定する。第二時では、第一時で求められそうな数量関係を方程式を使って解き、方程式のよさに気づかせる。

## 3. 指導計画 (17時間扱い)

- (1) 方程式とその解 (3時間)
- (2) 方程式の解き方 (4時間)
- (3) 比と比例式 (1時間)
- (4) 比例式の利用 (1時間)
- (5) 方程式の利用1 (4時間)
- (6) 方程式の利用2 (2時間) 本時 1/2
- (7) 章末 (2時間)

## 4. 本時の学習指導

### (1) 本時の目標

- ・課題に関心を持ち、求められそうな数量を見つけ出そうとしているか。 (数学への関心・意欲・態度)
- ・方程式を利用することで分からない数量を求めようと推測することができる。 (数学的な見方や考え方)
- ・数量関係から方程式を立式することができる。 (数学的な技能)

### (2) 本時の展開

指導内容	学習活動	○評価 ・配慮事項
1. 課題提示	「走れ!!扶也を読んで、求めたい数量を見つけだそう！」	○課題に関心を持ち、求められそうな数量を見つけ出そうとしているか。
2. 課題を音読する。	音読を聞きながら、知りたいこと、興味がわいたこと、求められるものや単語に下線や丸をつける。	(関・意・態)  ・場面が変わるときに、少し時間を空け、下線を引

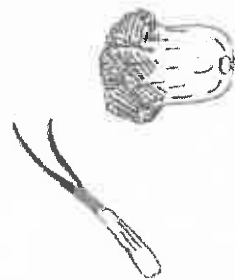
<p>3～4人の小グループになる。</p> <p>3. グループで話し合い、発表する。</p>	<p>下線部を引いた箇所が周りと同じか、それとも過不足があるか確認し、発表する。</p> <p>各場面で何を求めることができるのか話し合い、発表する。</p> <p>① A ねぎ1本の値段、B おだちんの値段  ② C 陽子の今の年齢  ③ D ワシ(お父さん)の年齢、E お母さんの年齢  ④ F 鉛筆1本の値段  ⑤ G 始め持っていた折り紙の枚数、H ライバルの人数  ⑥ I 扶也は何分後に追いついたか、K 追いつけたか  L 告白したのか</p> <p>① 1000円札を渡され八百屋に行き、ねぎ6本と450円のはくさい1個を買い、お釣りの370円を渡した。お母さんはねぎ5本分のおだちんをくれました。  ② 陽子の年齢は10年後に今の年齢のちょうど3倍になる。  ③ ワシとお母さんの年齢をたすとちょうどおばあさんと同じです。お母さんの年齢はワシの年齢のちょうど1割少ない。おばあさんは76歳です。  ④ 鉛筆6本を150円のリボンで結んだときの代金ならば、鉛筆1本ずつを80円の結んだものが5本分買える。  ⑤ 一人に7枚ずつあげようとしたら4枚たりなかったから、一人に5枚ずつあげたの。そうしたら12枚余った。  ⑥ 学校から駅まで2kmあります。智子ちゃんが去って10分が経過しています。智子ちゃんの歩く速さが毎分80m、僕の自転車の速さが毎分240mです。</p>	<p>きやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数だけに注目させるのではなく、興味がわいた文章や単語でも良いことを伝える。</li> <li>・話し合いが出来ていない生徒には声をかける。</li> <li>・グループ内で順に発表させる。</li> <li>・机間指導しながら短冊を渡し、出来上がった班から黒板に貼る。</li> </ul>
<p>4. 全体で解を1つ求めてみる。</p>	<p>Aを例に出し求める。  ねぎ1本の値段を<math>x</math>とする。  <math>1000 - (6x + 450) = 370</math>  <math>1000 - 6x - 450 = 370</math>  <math>-6x = 370 - 1000 + 450</math>  <math>-6x = -180</math>  <math>x = 30</math>                      ねぎ1本30円</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>求めたい数量を見つけたときは、方程式を使うと解くことができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数量関係から方程式を立式することができる。(技能)</li> <li>○方程式を利用して分からない数量を求めようと推測することができる。(見・考)</li> <li>・解けた生徒に板書させる。</li> </ul>
<p>5. 次時の予告</p>	<p>各自でB～Kの求めたいものを方程式で解く。</p>	

走れ！！

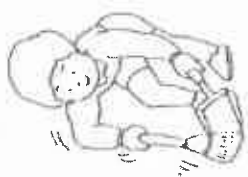
扶也



「今日はすき焼きか。」ぼくはうれし  
なりました。お母さんから1000円札を渡  
され八百屋へ行き、ねぎ6本と、白菜1個  
を買い、お釣りが370円をお母さんに渡し  
ました。「白菜はいくらだったの。」お母さ  
んが聞いたので「450円だよ。」と答えま  
した。お母さんは「高いわねー」とびび  
くりしていました。でも、お母さんはお  
だちんをくれました。ねぎ5本分のおだ  
ちんをくれるなんて、お母さんは優しい  
なと改めて思いました。

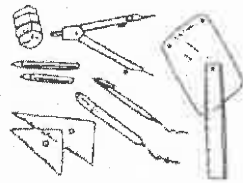


ぼくは、○○扶也と言います。○○中学  
校の1組の学級委員をしています。趣味は  
野球で、阪神タイガースの大ファンです。  
嫌いなものはへびとにんじんです。サー  
フレンドは・・・秘密です。  
勉強はあまり好きではありませんが、家の  
手伝いはよくします。先日買った物に行っ  
てきました。  
ぼくはお母さんにお使いを頼まれました  
た。ねぎと白菜を買ってくるように言われ  
ました。



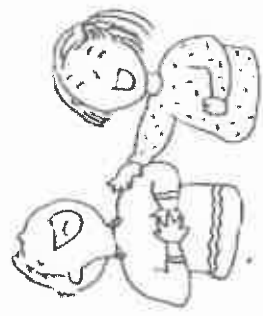
ぼくの家族は妹とお父さん、お母さん。  
おばあさんの5人家族です。妹の陽子の年  
齢は・・・忘れてしまいました。  
「陽子の年齢は10年後に今の年齢のちよ  
うど3倍になるな。」お父さんが前にぞん  
なことを言っていました。こんなことも言  
っていました。「ワシとお母さんの年齢を  
たすとちよとどおばあさんと同じだ。そう  
言えば、お母さんの年齢はワシの年齢より  
ちよとど1割少ないんだな。」  
おばあさんは76歳です。今も元気にエア  
ロビクスを毎日しています。

そんなことよりも、今僕にはもっと  
重大なことがあるのです。それはもう  
すぐクリスマスタイムの習子さんの誕生日  
なのです。プレゼントを渡す、告白し  
よう。そう決心しているのです。  
プレゼントは中学生なので文房具にし  
ようと思ひ、文具屋へ行きました。  
何にするかいろいろ迷いましたが、  
ちびまる子ちゃん鉛筆にすることにし  
ました。習子さんはちびまる子ちゃん  
にそっくりなのです。鉛筆にリボンをつ  
けて渡せばききと喜んでくれるだろ



授業後になってしまいました。習子さ  
んは教室で一人、日直の仕事をしてい  
ました。「ここで渡さなければ男じゃな  
い。」思い切つて渡しました。  
「ありがと。」習子さんはにっこり微  
笑み、僕に12枚のしおりをくれました。  
そのしおりは紙でできていました。  
習子さんのお手製のようです。僕はう  
れしくて涙が出そうになり、天まで上  
る気分になりました。  
しかし、次の言葉を聞いて一瞬にし  
て地獄に落ちてしまったのです。

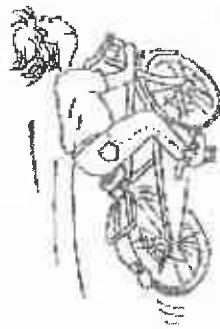
うと思ひました。リボンは、150円と80円の  
2種類ありました。鉛筆6本を150円のリボ  
ンで結んだときの代金なら、鉛筆1本ずつを  
80円のリボンで結んだものが5本分買える  
ことが分かったので、どちらならリボンが多  
いほうが目立つと思ひ、後の方がしまし  
まいよ。明日は習子さんの誕生日です。どう  
やつて渡そうか、そのことを考へると夜もな  
かなか眠れませんでした。  
次の日、プレゼントを何とかが渡そうと思ひ  
ましたがなかなかチャンスがなく、どうしよう



「今日、何人かの男の平にプレゼントをもらったの。そのお礼に休み時間のうちに折り紙でしおりを作ったの。」

一人に7枚ずつあげようとしたら4枚足りなかったから、一人に5枚ずつあげたの。そうしたら、12枚余っちゃったの。」

「僕は余りをたくさんもらったの。でもみんなあまりたくさんもらったからいいや。」そうやって自分を慰め、野暮でこの気持ちを発散しました。でも、やっぱり気になりました。「僕にはいったい何人のライバルがいるのだろうか。」そのことを考えると復も眠れませんでした。



そしてとうとう運命の日がきたのです。担任の先生が「突然ですが習子さんは今日、東京に引越します。」と告げたのです。先生のいつもの冗談かと思いましたが、どうも本音のようです。クラスのみんなと学校で見送りました。

「今から歩いて行くときちょうど電車が隣の合いの。」にっこり微笑んで、習子さんは鶴ヶ島駅に向かって歩いて行きました。習子さんの姿が見えなくなると、急に告白したくなりました。今しかチャンスはない。と思ったからです。

友達の高樹くんの自転車を借り、習子さんを追いかけました。習子さんが走ってすでに10分が経過しています。学校から駅までは2kmあります。習子さんが歩く速さが毎分80m、僕の自転車の速さが毎分240mです。「何分後に追いつけるだろうか。ひょっとして間に合わないかもしれない。」僕は必死にペダルをこぎました。

「走れ！！快哉」から知りたいこと、興味がわいたこと、求められそうな数量や出語をみつけてそう。

1年 組 氏名

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_
4. \_\_\_\_\_
5. \_\_\_\_\_
6. \_\_\_\_\_
7. \_\_\_\_\_
8. \_\_\_\_\_
9. \_\_\_\_\_
10. \_\_\_\_\_
11. \_\_\_\_\_
12. \_\_\_\_\_
13. \_\_\_\_\_
14. \_\_\_\_\_

今日の授業で分かったこと

---



---



---



---

「走れ！！扶也」の求められそうな数量を求めてみよう。 1年 組 氏名

<p><u>おだちんの値段</u></p> <p>ねぎ5本分のおだちなので  <math>30 \times 5 = 150</math>          150円</p>	<p><u>陽子の今の年齢</u></p> <p>陽子の今の年齢をx歳とする。  <math>x + 10 = 3x</math>  <math>2x = 10</math>  <math>x = 5</math>          5歳</p>
<p><u>ワシ（お父さん）の年齢</u></p> <p>お父さんの年齢をx歳とする。  <math>x + 0.9x = 76</math>  <math>1.9x = 76</math>  <math>x = 40</math>          40歳</p>	<p><u>お母さんの年齢</u></p> <p>お父さんより1割少ないので  <math>40 \times 0.9 = 36</math>          36歳</p>
<p><u>鉛筆1本の値段</u></p> <p>鉛筆1本の値段をx円とする。  <math>6x + 150 = 5(x + 80)</math>  <math>x = 250</math>          250円</p>	<p><u>始め持っていた折り紙の枚数</u></p> <p>8人に7枚ずつあげようとしたら4枚足らな          かったので  <math>8 \times 7 + 4 = 52</math>          52枚</p>

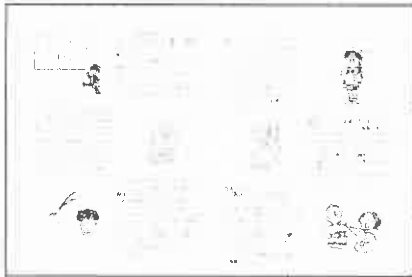
<p><u>ライバルの人数</u></p> <p>ライバルの人数をx人とする。  <math>7x + 4 = 5x + 12</math>  <math>2x = 16</math>  <math>x = 8</math>          8人</p>	<p><u>学校から駅までの道のり</u></p> <p>問題より2km</p>
<p><u>扶也は追いつけたか</u></p> <p>扶也が出発してx分後に追いつくとして  <math>80(x + 10) = 240x</math>  <math>160x = 800</math>  <math>x = 5</math>          5分後に追いつく</p>	<p><u>扶也は告白したか</u></p>

◆授業実践場面より◆

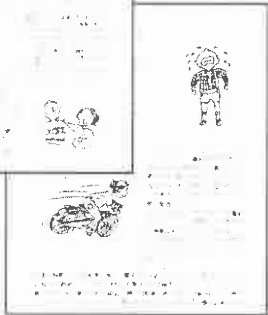
○モデル授業プラン 導入 に注目して



本時の学習内容や課題をつかめるようにする



課題プリント  
「走れ！！扶也」



T:「走れ！！扶也」を読んで、求めたい数量や言葉を見つけよう。これなら求められそうだな、調べてみたいなどいうものを抜き出してもらいたいと思います。

- ◎興味・関心、意欲を高めるような教材を用意する。
- ◎自ら課題を解決しようとする意欲を高める。
- ◎何について考えていくのか学級内で共有し、課題を設定できるようにする。

○モデル授業プラン 展開② に注目して



グループでの話し合いを通して、課題解決に迫る

【課題を問題にしていく場面】



友達の祐樹くんの自転車を借り、智子さんを追いかけました。智子さんが去ってすでに10分が経過しています。学校から駅までは2 km あります。智子さんが歩く速度が毎分80m、僕の自転車の速度が毎分240mです。「何分後に追いつけるだろうか。ひょっとして間に合わないかもしれない。」僕は必死にペダルをこぎました。

「走れ！！扶也」より一部抜粋

- S2; 時間、時間・・・。速度
- S3; 速度?
- S1; 時間・・・。
- S3; 追いつかないかもしれないね。
- S2; 扶也君が追いつかない? 追いつく?
- S1; 追いつかないかもしれない・・・?
- S4; 扶也さんが追いつくかどうかじゃない?
- S3; 追いつく時間?
- S1; 扶也さんは、智子さんに追いつくかどうかの時間
- S3; 時間? 追いつくかどうかでいいんじゃない
- S1; 追いつくかどうか?
- S2; 距離・・・、距離・・・。
- S1; 追いついたような気がするな。計算してみる?
- S4; じゃあ、追いつくまでの時間は? でいいよね。

〔授業後の研究協議より〕※抜粋

- ・生徒は「走れ！！扶也」の文中から、ポイントとなる言葉や数などを自由に見つけ出していた。このように「方程式の利用」のでは、教師が一律に定型問題を与えるだけでなく、生徒自身が既習事項を生かし、解きたい・考えたいと思うような課題を提供することが大切である。
- ・グループでの話し合いは4人班を設定した。意見を言いやすい雰囲気を作れ、活発な意見交換が行えていた。生徒のつぶやきも多く、一人一人が興味を持って、取り組むことができていた。



複数時間で問題解決を展開し  
活用力・探究的な学びを確保する授業プラン



《この授業でのPoint①(主体的)》  
 ○「何を学ぶか」を意識させる  
 →疑問をもたせる導入になっているか  
 →生徒自身が課題を設定しているか  
 ○「どのように学ぼうか」「自分はどう  
 に進めていくか」を意識させる  
 →予想の時間の確保がされているか  
 →「見通し」をもたせているか

《この授業でのPoint②(対話的)》  
 ○「双方向」「多様な情報」「自分には異なる  
 考え」「比較検討」等の場面の確保  
 →個人で考える場を設定した上で、他者  
 の意見に触れる時間を確保しているか

《この授業でのPoint③(深い学び)》  
 ○生徒の考えに対し、揺さぶりをかける  
 →意見に対して切り返したり、問い直した  
 りして、よく考えさせているか  
 ○「変容」を自覚させる  
 →視覚的に変容がわかる工夫がされて  
 いるか  
 →考えが漠然としたものから、科学的なも  
 のとなっているか

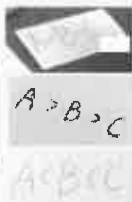
【課題】直列回路の各点を流れる電流の  
 大きさはどうなっているだろうか



主体的



たぶん、Aが  
 一番大きくて  
 B、Cの順に  
 小さくなる



これまでの体験や既習事項から  
 自分なりの予想を考える

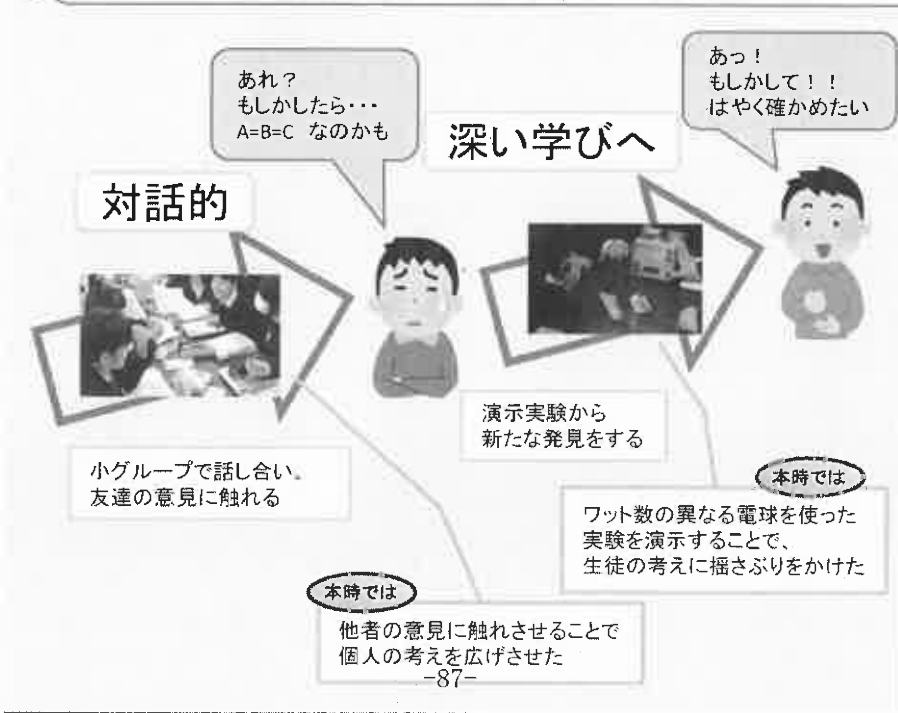
本時では

疑問をもたせることで  
 自分事のように捉えさせた

※結果：観察や実験から得られたデータ(事実)

※考察：事実を客観的にとらえ、合理的に判断し結論に導くプロセス

※結論：考察から導かれた科学的な法則や仕組み(一般化)



## 第2学年〇組 理科学習指導案

平成29年〇月〇日（〇） 第5校時

活動場所 第2理科室

生徒数 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名

授業者 〇〇 〇〇（T1）

〇〇 〇〇（T2）

1 単元名 「電流とその利用」（本時 ア 電流（ア）「回路と電流・電圧」）

2 単元について

(1) 教材観

小学校では、第3学年で「磁石の性質」「電気の通り道」、第4学年で「電気の働き」、第5学年で「電流の働き」、第6学年で「電気の利用」について学習している。

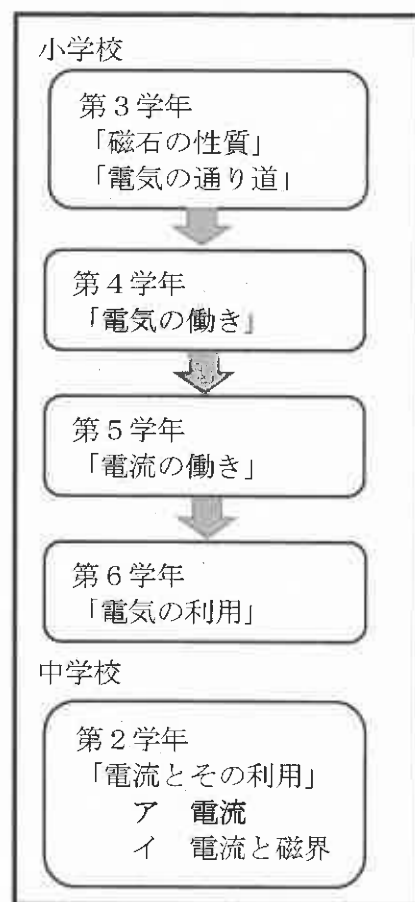
本単元では、電流回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養うことをねらいとしている。

ここでは、電流と電圧の関係、電流回路の基本となる考え方を、実験を通して定量的に捉えることで測定結果から各値に見られる規則性を見いだすことができ、思考力、表現力などを育成する上で有効な題材である。また、電流が日常生活の中でどのような形で関わり、利用されているかについて実験を通じて仕組みを考察することで、科学的な見方や考え方を養う。

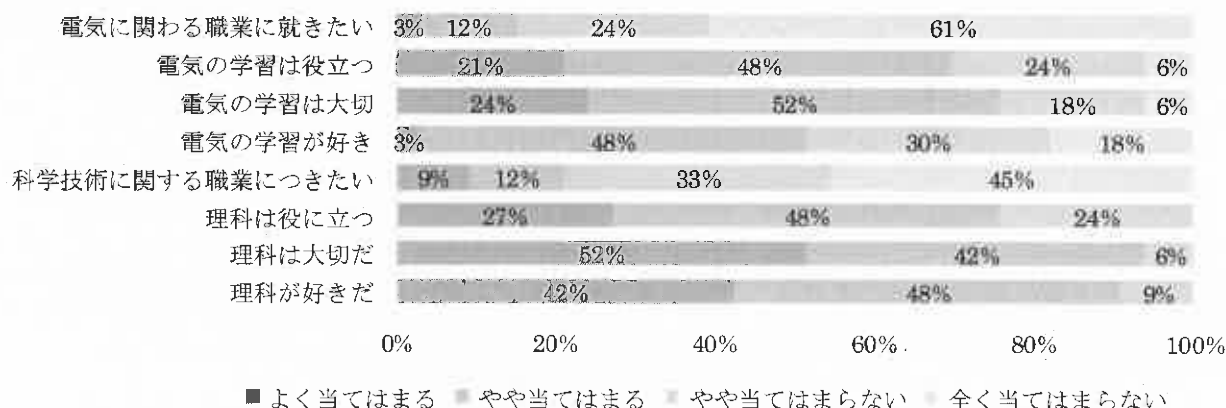
(2) 生徒観

本学級は規範意識が高く、チャイム着席や授業準備に対する意識も高い。しかし、自分の考えは持ってはいるものの、自ら積極的に意見を伝えることを苦手としている生徒も多く、挙手での発表などは特定の生徒になりがちな傾向にある。単元の学習に先駆けて行ったアンケートの結果は以下の通りである。

学習の系統性



### 2年〇組 事前アンケート



### (3) 指導観

電気についての観察、実験をできるだけ多く行い、基本操作を習得させるとともに、結果を分析して解釈する活動から規則性や関係性を見いだす力を養わせたい。アンケートより生徒たちは理科の学習に関して大切であると思っはいるものの、電気分野についての学習については、苦手意識をもっている。そこで、生徒が主体的に課題を見だし、実験に取り組める単元計画を設定するとともに、興味や関心を引き出す導入の工夫や回路についての操作技能のパフォーマンステストを通じ、電気を安全に扱える自信をつけさせたい。

さらに、実験を計画する段階と考察する段階で小グループでの学び合い活動を取り入れる。その中で、生徒が自分の考えを整理し、他者とのかかわりの中で自分の意見をより妥当なものとするこことで思考力、表現力などの育成を図りたい。その際にはホワイトボードやワークシートを用いて、記録や発表などの活動が円滑に行えるように留意する。

他にも、回路を組み間違えショートさせたり、電熱線などによって熱を発生させ火傷をしたりする恐れもあるので、実験前に各実験での注意点を確認させ、安全についても意識をもたせる。

### 3 単元の日標

電流回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養う。

### 4 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
電流と電圧の関係及び電流の働きに関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究するとともに、事象を日常生活との関わりでみようとする。	電流と電圧の関係及び電流の働きに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	電流と電圧の関係及び電流の働きに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、電流と電圧との関係及び電流の働きに関する事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

### 5 指導計画

#### 第1章 静電気と電流 (第1時 ～ 第5時)

- (1) 電気が帯びた物質がもつ力・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 静電気の性質・・・・・・・・・・ 2時間
- (3) 誘導コイルによる放電・・・・・・・・・・ 1時間
- (4) クルックス管での陰極線・・・・・・・・・・ 1時間

#### 第2章 電流の性質 (第6時 ～ 第20時)

- (1) 電気の利用〔回路図、電流計と電圧計〕・・・・ 3時間
- (2) 回路に流れる電流・・・・・・・・・・ 3時間 (本時1/3)
- (3) 回路に加わる電圧・・・・・・・・・・ 4時間
- (4) 電圧と電流と抵抗・・・・・・・・・・ 2時間
- (5) 電気エネルギー・・・・・・・・・・ 3時間

第3章 電流と磁界 (第21時 ~ 第28時)

- (1) 電流が作る磁界・・・・・・・・・・3時間
- (2) 磁界から電流が受ける力とモーター・・・・2時間
- (3) 発電機のしくみ・・・・・・・・・・3時間

単元のまとめ・・・・・・・・・・1時間 (第29時)

6 本授業での提案

① 目的意識をもたせるための予想の工夫

- ・自他の考えを互いに示し、似ている意見や異なる意見など様々な考えを見えるようにする。
- ・自分なりの根拠を持ち、文章化することで思考の可視化ができる。
- ・予想カードを書き足すことによって、自分の考えの変容を捉えることができる。

② 学び合い・高め合い

- ・生徒一人一人が根拠を明確にして意見を述べ発表することで、自分の考えを深める。
- ・他者とのかかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする。
- ・比較、分類、関連付けなどを行い、多様な視点から事物・現象を捉える。

③ 主体的に取り組む実験

- ・予想を確かめるために、事前の実験計画を話し合うことで、実験の見通しが持てる。
- ・実験の目的が明確になることで、知的好奇心を喚起し主体的に活動できる。

7 本時の学習 (2時間扱い)

(1) 本時の目標

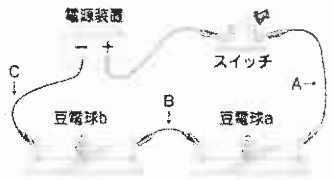
【科学的な思考・表現】

- ①直列回路の各点を流れる電流の大きさの予想を立て、その根拠を話し合い、回路に流れる電流について自分なりに表現することができる。
- ②実験結果から、回路に流れる電流の大きさについての規則性を見つけ、表現することができる。

【観察・実験の技能】

- ①予想を確かめるための実験計画を立てることができる。
- ②回路を正しく組み立て、回路中の各点の電流の大きさをはかることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	○教師の働きかけと ・予想される生徒の反応	評価及び指導上の留意点 【評価方法等】
第1時 導 入	1. 前時までの復習と本時の課題を把握する。 つかむ	○豆電球を直列につないだ回路を教卓に並べる。  ○この回路の回路図をノートに書こう。 ・時間に差が出る。班長中心に確認。 ○今日はこの回路について考えます。	・事前に回路図の書き方や、回路の作り方、電圧計・電流計の使い方までのパフォーマンステストを実施済み。  ・回路図が正しく書けているか、机間指導する。(T1・T2)
<p>【本時の課題】 直列回路の各点を流れる電流の大きさはどうなっているだろうか。(予想を立てて、説明してみよう。)</p>			

展 開	2. 本時の課題について予想する。 個々の予想	○A・B・Cの記号を使って、予想の画用紙に書きましょう。文章でも等号・不等号を使った式でも構いません。	・生徒たちの予想に合わせて、次回の実験内容が変わっていく可能性があることも伝える。
	3. 予想に対する理由を話し合う。 広める・深める	<p><b>提案① 目的意識をもたせるための予想の工夫</b></p> <p>○まず、自信を持って予想を立てられた人はいませんか？前に持ってきてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表現することができる。</li> </ul> <p>○同じ意味の予想が近くなるよう、黒板に貼っていく。後から持ってくる生徒には、自分と似たような考えを持つ意見の近くに貼るよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見に沿って、カードを黒板に貼ることができる。</li> </ul> <p>○そう思った理由を自分なりに考えて「予想カード」に書きましょう。(意図的に数名の意見を発表させる。)</p> <p>○班内で、各自の予想と理由を発表し合う。</p> <p>○自分の意見が変化してきたら、そのつど予想カードを書きましょう。</p>	<p>・黒板への掲示の仕方は、自他の考えが見えるようにする。</p> <p>・動けない生徒がいた場合は選択肢を与える。</p> <p>・予想カードは各班10枚程度用意しておく。</p> <p><b>C 評価の生徒への手立て</b> 選択肢を与えながら、より近い考えの生徒と意見交換できるように促す。</p> <p><b>【机間指導】</b></p>
次 回 に 向 け て	4. 再度、課題に対する考えを表現する。	○グループでの話し合いをしてみて、もう一度みんなの考えを聞きます。今の考えに近いところに名札を貼りましょう。 (初めの予想で出てきた意見を集約して、名札を貼るエリアを設ける。)	・生徒の考えを揺さぶる演示実験を行う(ワット数の異なる豆電球を用意し、実際に電流を流した様子を観察させる)。
	5. 仮説とその理由を発表する。	○それぞれの班ごとに発表させる。 ・本当のところどうなっているのかな？早く確かめたいな。	<b>【科学的な思考・表現】</b> 直列回路の各点を流れる電流の大きさの予想を立て、その根拠を話し合い、回路に流れる電流について自分なりに表現している。 (発表・ノート(予想カード))
次 回 に 向 け て	6. 実験計画を立てる。 見通す	○では、次回はこの結果を確かめましょう。そのために必要な道具を考え、どんな手順で行うかも、実験計画用紙に書きましょう。	<b>【観察・実験の技能】</b> 予想を確かめるための実験計画を立てている。 (ワークシート)
		<p><b>提案③ 主体的に取り組む実験</b></p> <p>○完成した班を確認する。未完成の班は次回までの宿題とする。</p>	・各自の予想が検証できる計画が立てられているかを班ごとにチェックする。(T1・T2)

7. 本時の課題を確認する。**見通す**

○前回話し合った皆さんの予想は、何に対するものか覚えていますか？  
 ・直列回路の電流の大きさで、どこが大きいかなど。

・実験に対する見通しが持てるように、発言を促す。

**【本時の課題】** 直列回路の各点を流れる電流の大きさはどうなっているだろうか。(たてた予想を実験で確かめてみよう。)

展開

8. 実験計画の確認をする。  
 (電流計の扱い方の確認も含む)

○電流の大きさを測定するためには、何が必要かな？  
 ・電流計、回路・・・  
 ○電流計の読み方を確認しよう。  
 ○今までの実験では、豆電球を使っていましたが、今回からはセメント抵抗を使います。

・生徒がつくった実験計画の内容を反映させながら確認する。  
 ・電流計や電圧計の目盛りは、一端子の接続場所によって異なること、目盛りの1/10まで読み取ること留意させる。

9. 実験を行い結果を記録する。

①右図のような直列回路をつくり、回路のどの点から順に電流をはかるかを確認する。

②電流をはかる点の導線を外し、電流計をつなく。

③スイッチを入れ電流計の目盛りを読み取り記録する。

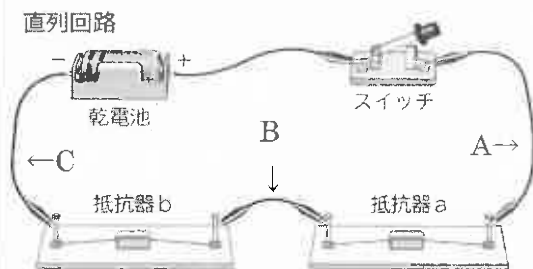
④B点、C点についても同様に行う。

10. 実験の終わった班から道具を片付ける。

11. 実験結果から考察を行う。

**結果** **考察**

○以下の回路がつくれているか確認する。



○電流計の接続では、はじめにつなぐ一端子の位置を確認させる。  
 ・大きな値の端子から。

・電流を流しはじめる前に、回路を確認する。

・前時の予想で、抵抗の種類を複数用意し、電流の大きさを求める形の実験を必要とした場合、作成する回路は複数用意する。

**C** 評価の生徒への手立て  
 回路は3つの部分(電源・導線・抵抗)から成り立つことを振り返らせる。  
**【机間指導】**

**【観察・実験の技能】**  
 回路を正しく組み立て、回路中の各点の電流の大きさをはかっている。  
 (机間指導)

展開

12. 予想を振り返り、まとめを行う。**結論**

**【まとめ】**  
 直列回路では、電流の大きさはどこでも変わらない。  
 ・流れている電流の量は、失われるわけではない。

**【科学的な思考・表現】**  
 実験結果から、回路に流れる電流の大きさについての規則性を見つけ、表現している。  
 (ワークシート)

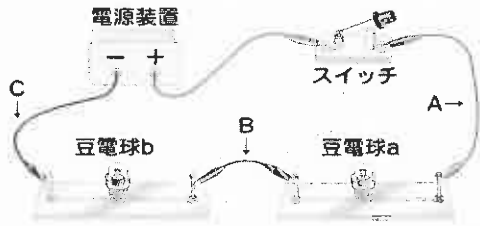
まとめ

8 板書計画

第1時

直列回路を流れる電流

【本時の課題】 直列回路の各点を流れる電流の大きさはどうなっているだろうか。  
(予想を立てて、説明してみよう。)



◎話し合いで深まった、みんなの意見。


予想1

\*似ている予想ごとに、グループ分けして貼る。

自信あり！の貴重なご意見

- 
- 
- 

予想2

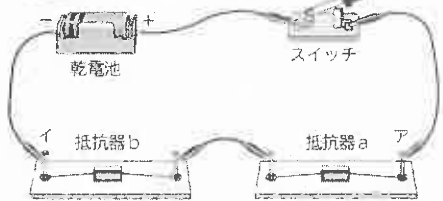
\*予想1で出てきた意見を見て、代表的な予想を示した表を作成する。その表の中に名前カードを貼る。

第2時

直列回路を流れる電流

【本時の課題】 直列回路の各点を流れる電流の大きさはどうなっているだろうか。  
(たてた予想を実験で確かめてみよう。)

直列回路



結果

場所\班	1	2	3	4	5	6	7	8
A【 】								
B【 】								
C【 】								

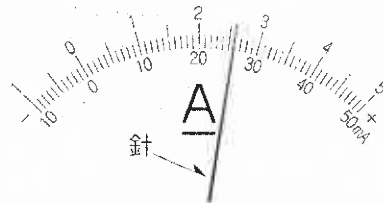
【 】の中には、読み取った値の単位を記入しましょう！

\*予想で抵抗の種類を複数求める形の実験を必要とした場合  
それに合わせた結果の表を作成する。

電流計の使い方

- ・回路に対し、直列につなぐ。
- ・-の端子は、大きいものに接続し、針の振れ幅が小さいとき、ひとつずつつながかえる。

★次の場合何Aまたは、何mAですか。



予想を振り返って

まとめ



# 中学校英語科モデル授業プラン

「学び合い、高め合い」のある授業づくりを目指して

平成28年度全国学力・学習状況調査によれば、川越市の現状として「知識・技能を活用した問題及び記述式の問題の正答率が低い」との分析結果が得られた。そこで、平成29年度学力向上研究委員会では、「子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力の育成」を視点の一つに設定し、研究を進めてきた。

本年度の授業研究部《中学校・英語》では、「outputするためのinputを補うための帯活動」を、「思考力・判断力・表現力」を伸ばすための手立てとして考えた。これらの帯活動は、「出来るだけ短時間で完結するもの」「出来るだけシンプルなもの」「継続して取り組めるもの」「楽しいもの」の4点を意識したものである。

## 【帯活動のアイデア】

### 「ペラペラ イングリッシュ」

#### <ポイント>

- ・教室内に英語を話す雰囲気ができる。
- ・毎時間同じ活動からスタートするので、生徒は安心して授業に取り組める。
- ・どの生徒も同じように取り組める。
- ・どのように文法事項が使われているのかを学ぶことができる。
- ・読ませ方を工夫することで、飽きることなく、継続して行うことができる。

#### <進め方>

- ①立って向かい合い、隣同士でジャンケンをする（勝ち：質問者、負け：回答者）。
- ②1～10まで会話できたら、役割を交代し、再度1から始める。
- ③お互いに右（または左）にズレて、新しいペアで行う。40秒でペアを交代する。
- ④一回りしたら、終了（1列5人なら、40秒×5人で約4分）。
- ⑤慣れてきたら読ませ方を工夫する。シートを見ないで言える生徒が半数くらいになったら、新しいシートを配布する。

ペラペラ イングリッシュ No.1

- 1 Hi, how are you? \_\_\_\_\_ I'm \_\_\_\_\_, thank you.
- 2 What is the date today? \_\_\_\_\_ It's \_\_\_\_\_.
- 3 Was it sunny yesterday? \_\_\_\_\_ Yes, it was. / No, it wasn't.
- 4 When do you study? \_\_\_\_\_ I usually study \_\_\_\_\_ dinner.
- 5 Who is Chris? \_\_\_\_\_ He is our English teacher.
- 6 What are you doing? \_\_\_\_\_ I am speaking English.
- 7 Did you watch TV last night? \_\_\_\_\_ Yes, I did. / No, I didn't.
- 8 What time did you get up this morning? — I got up at \_\_\_\_\_.
- 9 What subject do you like? \_\_\_\_\_ I like \_\_\_\_\_.
- 10 What did you do last weekend? \_\_\_\_\_ I \_\_\_\_\_.

## Bingo ワークブックと連動した単語練習 (※別頁指導案参照)

#### <ポイント>

- ①授業開始時に Warm-Up として、英単語 Bingo を行う。
- ②Bingo 終了後、その日に出てきた英単語を中心に、ノートにひたすら書いて練習する（3～5分間）。
- ③Bingo で教室の雰囲気盛り上がった後に、個人練習の時間を確保することで、授業に「動」と「静」のメリハリをつける。
- ④Bingo で扱った英単語を範囲として、定期的に小テストを行う。授業内で練習する時間をとり、小テストに向けた自主学习（家庭学習）につなげることも、ねらいの一つである。

「個人対抗」「ペア対抗」などの形式の工夫も効果的！

#### <Bingo の進め方（例）>

- パターン① 教師が発音する英語を聞き取るだけ。パターン②（パターン①にプラスして）生徒も同じ単語を発音する。  
パターン③ 教師は該当の単語を含めた英文を言う。パターン④ 教師が言う日本語に対応する単語を、生徒が発音する。  
※進め方のバリエーションを工夫すれば、「楽しい」だけの活動に、「学習」の要素が加わります。

## Basic Dialog を活用した対話練習

(※別頁指導案参照)

### 【1年】 Program2-2

A : Are you a volleyball fan?

B : Yes, I am.

No, I'm not. I'm not a volleyball fan./I'm a baseball fan.

#### <進め方>

- ①ペアでの練習の前に、事前に全体で十分に練習をする。
- ②下線部分(変更可)の関連表現も事前にいくつか確認する(上記の例では、スポーツの名前など)。
- ③まずは隣同士や前後でペアを組むなど、自分の席から動かない範囲で対話練習を行う。
- ④(③が終わったら)時間を区切り、教室を自由に動き回り、対話練習を行う。その際、「男子は女子と(女子は男子と)」必ず練習すること、JTEやAETのどちらか一方と必ず練習すること等を活動の条件とする。
- ⑤Programごとにこの活動を行い、定期的にパフォーマンステストとして評価をする。

## リスニング教材の活用

(※別頁指導案参照)

#### <ポイント>

- ①授業開始時に Warm-Up として、リスニング教材を活用した演習を行う。
- ②「取り組みやすいもの」「短時間でできるもの」等の視点で教材を選定する。
- ③(別頁指導案の例では)「大まかに聞き取る」→「細かく聞き取る」→「語句の聞き分け」の順に進める。
- ④全体像を把握したあとに細部を確認する形式をとることは、他の題材を聞き取る際の大事な視点となる。
- ⑤「語句の聞き分け」では、例えば、excited と exciting の違いなど、似て非なる単語を焦点化して取り扱う。
- ⑥得点を毎回記録させることで、自身の学習状況とその変化を把握させ、以後の学習につなげていく。
- ⑦この活動をとおして得られたスキルが、別な場面で生かされているかどうかの確認を、教師側が意識的に設定する必要がある。

## スパイラルワークシートの活用

#### <ポイント>

- ①教科書付属の「スパイラルワークシート」は、加工せずにそのまま使用可能である。
- ②本ワークシートは「復習」として位置付け、新出単語や教科書本文の理解を補助するためのものとして活用する。
- ③概ね「一問一答形式」となっており、授業中の発言が消極的な生徒にも指名しながら進めることができる。
- ④答えの確認は「口頭」で進めることを基本とし、時間をかけないことがコツである。
- ⑤定着が必要と思われる表現、定着が不十分であると思われる事項があれば、意識的にその部分を生徒に口頭練習させる等の手立てを講じ、ワークシートをワークシートのまま終わらせないよう工夫し、input を確う活動となり得る。

## 「ディクトグロス」(文章復元法)の取組

「ディクトグロス」(文章復元法)は、ある程度まとまった英文を聞かせ、その内容を文法的に正しい文章で復元させるものです。「ディクテーション」のように、聞いた英文をそのまま復元するものではありません。例えば、He is good at skiing. という英文を聞いたとしても、復元する際には He can ski very well. など、内容が合っていれば良いこととします。そうすることで、生徒にとって、語句等の形式よりも、内容を意識した活動となります。ペア活動やグループ活動をとおして英文を再構築するので、文法事項への意識の高まりや、「なるほど、そうだったのか」という「気付き」を促し、「主体的・対話的で深い学び」につながります。理屈として文法を学ぶのではなく、実際の言語使用の中で文法について考えることになるため、学習内容の定着が期待される活動です。

ある程度語彙力がついてきた中学2年生後半頃から導入するのがいいでしょう。少々難しさを伴いますが、楽しく、やりがいのある活動です。

#### <進め方>

- ①教師が話すまとまった英文の内容や聞き取れた単語などについて、メモを取りながら聞かせる。クラスの実態により、英文の数や聞かせる回数を設定する。
- ②少人数グループで、それぞれの断片的なメモや記憶を基にして、英文を復元する。その際、文法の正確さや話の首尾一貫性を重視する(協働学習)。時間があれば、グループで復元した文を発表する。
- ③元の英文を示し、確認や訂正を行わせる。必要に応じて、文法事項に関する説明を加える。

# 第1学年〇組 英語科学習指導案

平成30年1月16日(火)第5校時  
 場所 1年〇組教室  
 生徒数 男子〇〇名 女子〇〇名  
 指導者 〇〇 〇〇

## 1 単元名 Program9 A New Year's Visit (Sunshine English Course 1)

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

本学級の生徒を対象に、以下のアンケートを行った(平成29年12月8日実施)。

- ・質問①「英語は好きですか。」
- ・質問②「日頃の授業の中で一番楽しいと感じるものは何ですか。」

質問①では、4割の生徒が「とても好き」または「好き」と回答した。その理由として、「ビンゴが楽しい」「授業が分かる」等が挙げられる。しかし、約3割の生徒が「あまり好きではない」または「嫌い」と回答しており、「単語が書けない」「定期テストの点数が良くない」ことなどを理由としている。

質問②では、多くの生徒が「ビンゴ」と回答し、「教科書の音読」、「ワークシート(ワークブック)」、「単語練習」、「英会話練習」も挙げられた。「ビンゴ」については、「書く練習にもなる」ことや「ゲームだから楽しい」等の理由が多数であり、ゲーム感覚で楽しいだけで終わらせることなく、英語力の向上に結び付ける工夫が必要であると考えている。

また、以前実施した「b e 動詞」と「一般動詞」に関する小テストでは、b e 動詞の正答率は9割を超えたが、一般動詞については正答率が7割に届かなかった。このことから、一般動詞を苦手と感じる生徒が比較的多いことが読み取れる。

#### (2) 教材観

元日の朝、日本に滞在中のジムさん一家が、妻の愛子さんの両親の家へ年始のあいさつに行く準備をしている最中に、電話が鳴る場面からスタートする。しかし、それぞれの準備で誰も電話に出られないという状況である。電話が再び鳴り、準備が済んでいる息子のサムが電話に出て、祖母からの電話を取り次ぐために母親に呼びかける。まだ電話に出られない母親に代わり、サムが用件を聞き、祖父が作った雑煮の準備ができたとの伝言を家族に伝える。本文の展開は、すべて対話形式で進んでいく。

新出の言語材料は、「現在進行形」(am, are, is + 一般動詞のing形)である。この表現を用いて、「今していること」について表現させたい。

#### (3) 指導観

- ①生徒一人一人の言語活動を支援し、取組への意欲を引き出す。
- ②新出の言語材料を用いた活動を通して、現在進行形がどのように使われるのかを理解させる。

### 3 本単元における評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化の知識・理解
ていねいに単語を読み、積極的に発表しようとしている。	現在進行形の疑問文を用いて、対話することができる。	相手が話したことを、正しく理解できる。	現在進行形を用いた英文を正しく理解できる。

### 4 本単元の指導計画(6時間扱い)

時	指導内容	評価項目・方法
1 本時	§ 1 ・単語練習 ・音読練習 ・新出表現(現在進行形) ・ワークシート	・表現、理解(ワークシート、音読) ・新出単語(行動観察)
2	§ 1 ・単語の復習 ・本文の内容理解	・TFテスト ・本文の内容に関するQ&A
3	§ 2 ・単語練習 ・音読練習 ・新出表現(現在進行形の疑問文) ・ワークシート	・表現、理解(ワークシート、音読) ・新出単語(行動観察)
4	§ 2 ・単語の復習 ・本文の内容理解	・TFテスト ・本文の内容に関するQ&A
5	§ 3 ・単語練習 ・音読練習	・表現、理解(ワークシート、音読)

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出表現 (What are you doing?)</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出単語 (行動観察)</li> </ul>
6	§ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の復習</li> <li>・本文の内容理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TFテスト</li> <li>・本文の内容に関するQ&amp;A</li> </ul>

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

- ①ジェスチャーゲームをとおして、相手が今していることを現在進行形を用いて表すことができる。
- ②新出単語について、「読める」「意味がわかる」「正しく発音できる」「書くことができる」ようになる。
- ③教科書本文の意味を理解しながら、正しい強勢、イントネーション、区切りで音読できる。

### (2) 展開

	学習活動		<b>■</b> 指導の留意点 <b>◇</b> 評価
	学習内容	教師の指導・支援	
導入	① Greeting ・あいさつ  ② Warm-Up ・BINGO  ・5分間単語練習  ・対話練習	○簡単な英語で質問する。 (日付、曜日、天候)  ○リズムよく進める。  ○机間指導を行い、書けない生徒を支援する。 ○個人練習をする。 ○プリントを用いて、ペアで練習をする。	<b>■</b> 英語学習をする雰囲気をつくる。  <b>■</b> BINGOのワークブックを使用する。 <b>◇</b> 静かに集中して書いているか。  <b>◇</b> 日本語文を見ないで言おうとしているか。
展開	③現在進行形の導入  ④現在進行形を用いた言語活動  ⑤ワークシート  ⑥新出単語  ⑦本文の音読	○教師が実際に動き、「今していること」についての動作を示す。 ○PowerPointを用いて、現在進行形について説明する。 ○PowerPointの画面を見ながら、現在進行形の英文を口頭練習させる。  ○「ジェスチャーゲーム」について説明する(グループ活動)。  ○机間指導を行い、生徒の進み具合を確認する。個別対応を要する生徒への支援を行う。  ○PowerPointの画面を見ながら、新出単語の意味や発音を確認させる。 ○練習の最後には、一人ずつ指名して、発音を確認する。  ○英語→英語、日本語→英語、個人読み ○読むことが苦手な生徒への個別支援を行う。	<b>■</b> 「今していること」がわかるように、動作と言葉をはっきりさせる。  <b>■</b> 活動の滞っている班や個人への支援 <b>◇</b> 現在進行形を用いて、「相手のしていること」を表現しようとしているか。  <b>■</b> 問題を選んで取り組む形式とし、各自の学習意欲を高める。 <b>■</b> 書くことで、定着を図る。  <b>■</b> 始めはゆっくり、徐々に早く繰り返させる。 <b>◇</b> 正しく発音できているか。  <b>■</b> 音読の方法にバリエーションを持たせ、意欲を高める。
整理	⑧まとめ	○導入で用いた画面を見ながら、現在進行形が含まれた英文の口頭練習を繰り返す。	

## 6 本時の評価

- ①ジェスチャーゲームをとおして、相手が今していることを現在進行形を用いて表すことができたか。
- ②新出単語について、「読める」「意味がわかる」「正しく発音できる」「書くことができる」ようになったか。
- ③教科書本文の意味を理解しながら、正しい強勢、イントネーション、区切りで音読できたか。

# 第3学年〇組 英語科学習指導案

平成29年11月28日(火) 第5校時

場所 3年〇組教室

指導者 ○○ ○○

## 1 題材名 Sunshine English Course 3 Program 8 Clean Energy Source

### 2 題材について

#### (1) 題材観

本プログラムでは、関係代名詞(目的格)の用法を学習する。§1で目的格 **which** の用法、§2で目的格 **that** の用法、§3で関係代名詞の省略の用法を学習する。生徒はプログラム6で分詞(現在分詞、過去分詞)の後置修飾を学び、プログラム7で関係代名詞の主格(**who**、**which**、**that**)の用法を学んでいる。修飾語が後ろにくる感覚が身に付いてきたところで、目的格の用法をあわせて理解させたい。

また、教科書本文では、環境に関する内容が扱われている。近年話題となっている、太陽光発電や風力発電といったクリーンエネルギーについてである。§1では大介とパットの会話文、§2では大介の発表文、§3では波力発電と地熱発電に関する説明文となっている。本文の内容にとどまらず、電気自動車や原子力発電など、生徒の興味・関心に合わせて授業を進めたい。

#### (2) 生徒観

男子16名、女子19名の35名のクラスである。本学級の生徒の実態は以下の通りである。

(生徒のデータは省略)

そのため、**授業では常に刺激を与え続け、50分間をフルに使い、無駄なく取り組むこと**が求められると考える。

本学級は英語の授業に対して意欲的な生徒が多く、活気がある。大きな声で発音練習を行い、ペアワークも男女分け隔てなく取り組むことができる。英語の授業が好きだと思っている生徒がいる一方で、英語に対して苦手意識を持っている生徒もいる。易から難へ、短い文から長い文へなど、段階を追いながら、取り組みやすい課題を中心に、一人一人が前向きに取り組ませたい。英語を苦手と感じている生徒も、声かけ次第で前向きに取り組めることが多いので、粘り強い指導が大切だと考える。

#### (3) 指導観

今年度、学力向上研究委員会の委員として、英語科では**短時間の活動をテンポよく行う**ことを意識して取り組んできた。これは生徒の実態に伴い、授業ではなるべく無駄を省き、フルに活動をさせたいという思いからである。ウォームアップから新出単語や新出文法の導入までは、毎時間同じパターンで行い、生徒は授業の流れに沿って動くことができる。活動や説明の時間を5分~10分程度におさえ、4技能の観点から、1時間の間に**多くの刺激**を与え、**多くの活動**を行えるように留意する。

ウォームアップでは、英語の歌とリスニング用の教材を用いて**音声面や聞くこと**、ペアワークのBasic Dialogで発表、自由会話でやり取り、本文の読解で**読むこと**、英作文で**書くこと**の4技能5領域をおさえ、英語を使いこなせるように指導をする。また、授業では説明と解説を除き、英語で行うことを基本とし、自然と英語が出てくるように仕掛けていきたい。読解も単なる解説にとどまらず、**「ピクチャーカードを用いたリスニング」(音声)→「ピクチャーディスクリビング」(表現活動)→「本文の確認」(読み・理解)**の流れで生徒の興味を引き出し、思わず発言をしなくなってしまうような雰囲気づくりをしていく。また、活動の確認として**ポイントカード(EPoCa)を導入**し、全員の活動を把握するようにしている。

### 3 指導目標

- ・新出単語の意味を理解し、発音できる。
- ・関係代名詞（目的格）の文型を理解し、4技能の観点から使えるようになる。

### 4 指導計画(6時間扱い)

ねらい		評価規準	評価方法
1 (本時)	関係代名詞目的格の which を理解し、聞け、話せるようになる	新出文法を聞き、話せる 〈L・S〉	EPoCa
2	新出単語の意味を理解し、発音できる 関係代名詞目的格の which の文を読めるようになる 関係代名詞目的格の which の文を書けるようになる	新出単語を発音できる 〈R〉 新出文法の文を読める 〈R〉 新出文法の文を書ける 〈W〉	行動観察 行動観察 EPoCa
3	関係代名詞目的格の that を理解し、聞け、話せるようになる	新出文法を聞き、話せる 〈L・S〉	EPoCa
4	新出単語の意味を理解し、発音できる 関係代名詞目的格の that の文を読めるようになる 関係代名詞目的格の that の文を書けるようになる	新出単語を発音できる 〈R〉 新出文法の文を読める 〈R〉 新出文法の文を書ける 〈W〉	行動観察 行動観察 EPoCa
5	関係代名詞目的格の省略を理解し、聞け、話せるようになる	新出文法を聞き、話せる 〈L・S〉	EPoCa
6	新出単語の意味を理解し、発音できる 関係代名詞目的格の省略の文を読めるようになる 関係代名詞目的格の省略の文を書けるようになる	新出単語を発音できる 〈R〉 新出文法の文を読める 〈R〉 新出文法の文を書ける 〈W〉	行動観察 行動観察 EPoCa

EPoCa=English Point Card

### 5 本時の学習指導

#### (1) 目標

- ・関係代名詞目的格の which を理解し、聞け、話せるようになる。

#### (2) 展開

過程	学習活動	教師の支援・生徒の反応	評価規準	・指導上の留意点 ※評価
WU 10分	あいさつ English song (5分)  "Kikitore" (5分)	♪We are the World  Open your "Kikitore" Today's number is 51. Check your answer.		・チャイムと同時に開始する ・素早く歌へ ・楽しく歌う  ・切りかえを素早く ※自己採点
導入 10分	New Grammar's Point (10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           板書 ポイント   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             名詞 which 主語 動詞              (○○が ~する 名詞)           </div>             a pen which I use a book which I bought         </div>		・説明は最低限にする  ・ペアで読み方、文法の使い方の確認をさせ、スローラーナーへの支援を図る

展 開 ① 12 分	Basic Dialog (12分)	<p>T: Now, what's this? (ポチ袋) S: "Otoshidama". T: Yes. What is "otoshidama"? S: Money? Present? New Year's gift? T: OK. I'll look it up in my dictionary. Umm... It's some money which a child gets as a New Year present.</p> <p>Today's Basic Dialog is about "otoshidama". Open your textbook.</p> <p>ペアで練習 覚えたら Epoca を持って前へ来る</p>	S 発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポチ袋、辞書を使い、実際の Basic Dialog の会話を再現する</li> <li>相手の顔を見て、自然な会話になるように指導する</li> <li>正しい発音、流れを意識させる</li> </ul> <p>※EPoCa</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早く終わった生徒に、終わっていないペアをチェックさせる (ミニティーチャー)</li> </ul>
展 開 ② 16 分	Listen (3分)  Speak (6分)  Try (7分)	<p>Next, Listen Check your answer. Perfect?</p> <p>Next, Speak</p> <p>Next, Try 英語で自分の持ち物自慢 教科書に沿って、「これは〇〇が買った(買ってくれた) ~なんだ。」という会話を練習する。</p>	L  R  S	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えを記入するのみ。</li> </ul> <p>※行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音声をインプットさせるために何度も言わせて、覚えさせる (短期記憶でよい)</li> </ul> <p>※行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の持ち物をほめ、即興で返す練習をさせる。</li> </ul> <p>※行動観察</p>
ま と め  2 分	まとめ あいさつ	本時のまとめ		

(3) 本時の評価

評価の観点	内容のまとまりと評価基準	評価方法
外国語表現の能力	新出文法を聞き、話せる <L・S>	行動観察 EPoCa

# English Point Card (EPoCa)

※授業時間内に課題がクリアできた人にスタンプを1個

※ポイントに応じて評価します

※年に2回提出（1学期末テスト返却日、2学期末テスト返却日、3学期は提出なし）

※再発行はしません

	Section 1		Section 2		Section 3	
	Basic Dialog	Write	Basic Dialog	Write	Basic Dialog	Write
<b>Pro 1</b>	1	2	3	4	5	6
<b>PU 1</b>	①会話ペア暗記 7					
<b>Pro 2</b>	8	9				
<b>Pro 3</b>	12	13	14	15	16	17
<b>PU 2</b>	①道案内ペア読み 18					
<b>Pro 4</b>	お礼のメール 19					
<b>PU 3</b>						
<b>Pro 5</b>	1	2	3	4	5	6
<b>PU 4</b>	①会話ペア読み 7					
<b>Pro 6</b>	8	9				
<b>Pro 7</b>	12	13	14	15	16	17
<b>PU 5</b>	①教科書の穴埋め 18					
<b>Pro 8</b>	19	20				
<b>PU 6</b>						

1学期 (      ) ポイント / 19ポイント	2学期 (      ) ポイント / 24ポイント
----------------------------	----------------------------

3 - (      ) No. (      ) Name (      )

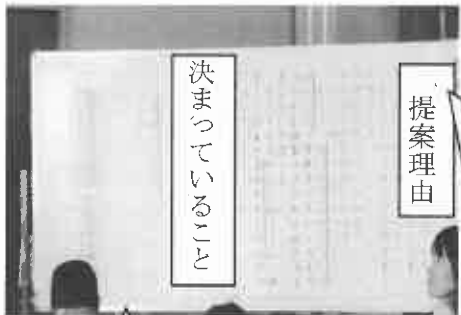


# 学級活動（1）モデル授業プラン

学習活動の基盤となる学級経営の充実を図る学級活動の授業づくり

学級活動（1）は、**自分たち**の問題を**自分たち**で解決し、**自分たち**で実践する児童・生徒の**主体的な活動**です。子どもたちの思いを生かしながら、「学び合い、高め合い」のある授業づくりをしましょう。

## 事前の活動



**共通理解**

実践に向けて、あらかじめ日程やプログラム等、話し合いの柱以外は決めておき、「**決まっていますこと**」として示す。

計画委員会を組織し、話し合いの柱立てや意見の根拠となる**提案理由・話し合いのめあて**を考える。

★提案理由の作り方★

- ① 今の様子（学級の実態）
- ② どんな活動・どんなことを解決したいのか。（活動の目的・方向性）
- ③ 学級にとってどんなよいことがあるのか。（解決後のイメージ・目指す学級像）

★めあての作り方★

提案理由の中のキーワードをもとに要点を絞り示す。行動目標だけにならないようにする。

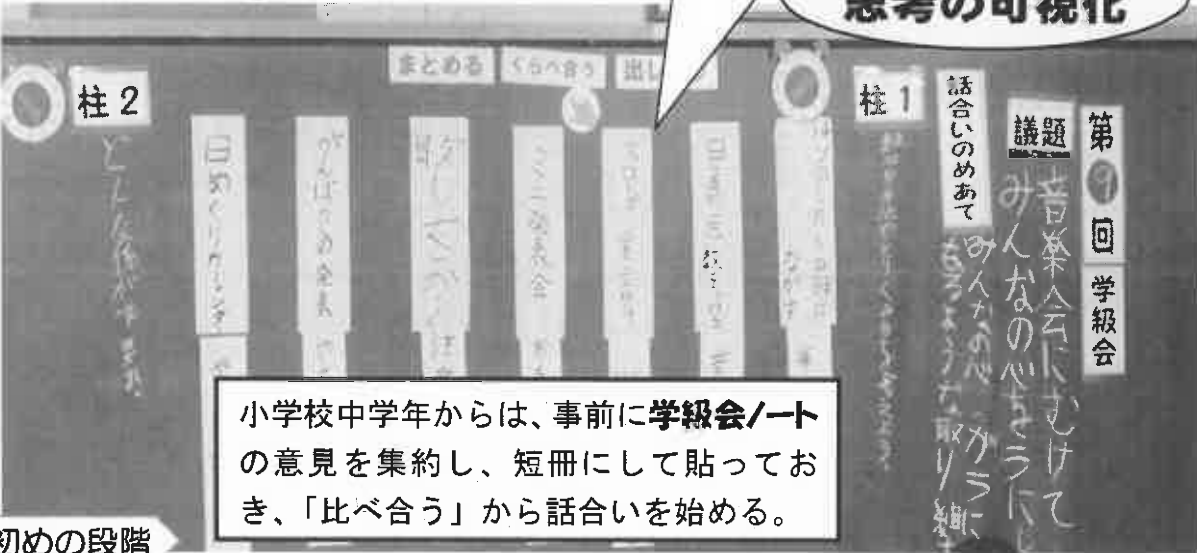
## 話し合い ①

### 出し合う

みんなに、話し合いの流れや友だちの考えがわかる板書の工夫をする。

短冊は分類ごとに近くにまとめて貼ったり、色分けをしたりして意見を見やすく整理する。

### 思考の可視化



小学校中学年からは、事前に**学級会ノート**の意見を集約し、短冊にして貼っておき、「**比べ合う**」から話し合いを始める。

初めの段階

# 話し合い ②

## くらべ合う

意見発表で終わることがないように、意見を**絞り込み**、本当にこれでよいのか、意見を**比べ合う**場を意図的に設定する。

(決定マーク)

(時計)

話し合いの段階を表す。

(注目マーク)

考えや話し合いの流れがわかるように**短冊を移動**させたり、**学級会グッズ**を活用したりする。

終わりの段階

## よさを生かした合意形成

<指導の目安>

- ① 話し合いの流れがわかる。
- ② 前の人につなげる意見を言う。
- ③ いろいろな決め方を知り、まとめる意見を言う。
- ④ 反対意見の理由に着目し、解決策を言う。
- ⑤ 意見を比べ、その意見の「他にはないよさ」を言う。

合意形成の前に、実践に向けて心配なことや気になることはないか確認をする。

意見が出されたときは、何について意見を出し合うのか、みんながわかるように**気になる点やその解決方法を板書**して話し合わせる。

(子どもの振り返り)



学級のあゆみとして、**掲示物**等で足跡を残す。

# 事後の活動

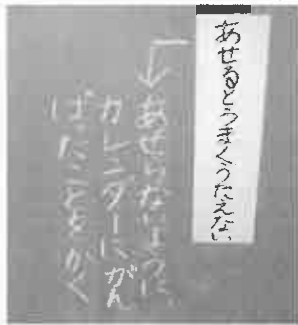
一連の活動をふり振り返り、一人一人の変容と集団の伸びを明らかにする。

**互いのよさや頑張り**を認め合う場を大切にする。反省点は次につなげる。

教師は、身に付けさせた**力は**どうだったか評価し、次の指導に生かす。

# 話し合い ③

## まとめる



# 第4学年〇組 学級活動指導案

平成29年10月4日(水) 第5校時  
 児童数 男子△名 女子△名 計△名  
 指導者 教諭 ○ ○ ○ ○

## 1 議題 「音楽会に向けてみんなの心をひとつにしよう」

### 2 議題について

- (1) 児童の実態 略
- (2) 議題選定の理由

① 議題が選定された背景

市内音楽会への出場が決まり、音楽会に向けて当初はどの児童も張り切って練習に取り組んでいたが、最近練習に消極的な児童もみられ、クラス中での温度差が感じられるという現状があった。本議題は、それを改善するために「音楽会に向け、心をひとつにするための取り組みを考えたい」という児童の提案によるものである。

### 3 評価規準 略

② 児童に身に付けたい力

話し合ったことを全員で協力して実践することで、みんなで力を合わせて一つのことに取り組むことよさに気づき、自分たちでよい学級を作っていこうという児童の意識を高められるようにしたい。

### 4 事前の活動

日時	児童の活動 (〇全員 ・ 計画委員)	・ 指導上の留意点 ③ 目指す児童の姿と評価方法
9/27(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「4の1ポスト」を開ける。</li> <li>・ 出された議題をまとめ、その扱いを整理していく。</li> <li>・ 提案ありがとうカードを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急性のあるもの、みんなで話し合った方がよいものを考え整理する。</li> <li>・ 今回話し合えない議題も、係や先生に解決してもらうなど、きちんと扱われることをカードに書いて知らせるようにする。</li> </ul>
9/28(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇全員で議題を決定する。</li> <li>・ 議題名、めあて、柱等を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 自分の役割を理解し、責任を持って準備している。 (知識・理解【教師の観察】)</li> </ul>
9/29(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に決めておく必要のあることを確認する。</li> <li>・ 学級会ノートを作成する。</li> <li>・ 背面黒板に記入する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>事前に話し合ったことを学級全体で共通理解できるように、背面黒板で知らせる。</b></p>
10/2(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇学級会ノートに意見を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ めあてをよく考えて、意見や理由を記入している。 (思考・判断・実践【学級会ノート】)</li> </ul>
10/3(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見の短冊や、決まっていること等の資料を準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自信を持って発言できるよう、必要な児童には、ノートに励ましの言葉を入れたり、個別に考えを聞いたりする。</li> </ul>
10/4(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級会ノートを返却する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いの見通しがもてるようにする。</li> </ul>

学級活動ノートを活用し、全員に自分の考えを持たせる。

### 5 本時の展開

#### (1) 本時のねらい

音楽会を成功させるため、クラスの一員として自分にできることを考えることができるようにする。

#### (2) 児童の活動計画

議題	音楽会に向けてみんなの心をひとつにしよう
提案理由	私たち4年1組は歌のオーディションに見事合格することができました。みんな熱心に練習していますが、残念なことに最近半分の人が練習に力を入れていません。そこで私たちは、みんなの心がひとつになるように、音楽会に向けてみんなでできる練習方法や取組を考えたいと思いました。そうすれば、みんな練習して本番も最高の歌が歌えると思います。
話し合いのめあて	みんなの心がひとつになるような取組を考えよう。
決まっていること	・2週間でできる取組を2、3個決める。・スローガン「元気よく心をひとつにがんばろう」を掲示する。

## 6 指導上の留意点

話合いの順序	・指導上の留意点 ◎目指す児童の姿と評価方法
1 始めの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話合いのめあての確認 6 決まっていることの確認 7 話し合うことの確認 8 先生の話 9 話合い ① 練習方法や取り組みを考えよう ② どんな係が必要か  10 決まったことの発表 11 話合いのふり返り 12 よかったことの発表 13 先生の話  14 終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてが言えるように事前に指導をする。</li> <li>・議題や提案理由は、はっきり言えるよう指導する。</li> <li>・提案者の「みんなの心をひとつにしたい」という思いを全員が理解し、話合いの指針となるよう事前に指導する。</li> <li>・全体の話合いのめあてとともに自分なりのめあても持つよう指導する。</li> <li>・決まっていることは分かりやすく掲示しておく。</li> <li>・話合いのポイントを簡潔に話す。</li> </ul> <p>「練習方法」は青い短冊、「掲示物」は黄色い短冊に書き、色分けして黒板に貼ることで<b>話合いの視覚化</b>を図る。(出し合う)</p> <p>「みんなの心をひとつにしたい」という<b>提案理由を根拠</b>にして意見を発表できるようにする。(出し合う)</p> <p>学級会ノートから、「ミニ発表会」は賛成意見も反対意見も多く出ると予想されるので、話合いが混乱しそうな時には注目マークを貼り、児童の意識をひとつに集中させるようにする。(くらべ合う)</p> <p>・<b>意見をつなげる発表</b>の仕方ができるようにする。(くらべ合う)</p> <p>・いくつかの意見を比べながら、ほかにはないよさを見つけていけるようにする。(くらべ合う)</p> <p>・自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けることも必要であることについて助言する。(くらべ合う)</p> <p>・最も提案理由に適している意見、「自分もよくてみんなもよい」意見にまとめていけるようにする。(まとめる)</p> <p>・少数意見や反対意見を大切にするとまとめることができるようにする。(まとめる)</p> <p>・集団決定の前に「心配なこと」を確認し、その理由や解決方法も板書するようにする。(まとめる)</p> <p>◎音楽会を成功させるため、クラスの一員として自分にできることを考えながら話し合っている。(思考・判断・実践【観察・学級会ノート】)</p> <p>◎話合いの進め方や約束を理解している。(知識・理解【観察・計画委員会活動計画】)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人、よかった点や課題について自己評価できるようにする。</li> <li>・よかったこと等の発表を通して友達の見解のよさや自分たちの成長にも気づかせる。</li> <li>・提案理由を意識した発言や学級全体を考えた建設的な発言、意欲的に参加していた児童を称賛するとともに、今後の課題を伝える。</li> <li>・計画委員へねぎらいの言葉を掛けるとともに、音楽会に向けて、決まった取り組みへの意欲が高まるような言葉掛けをする。</li> </ul>

「私も〇〇さんと同じで〜。」  
 「〇〇さんの意見につけてして〜。」など

板書の視覚化・構造化を行う。→意見の分類、色分け等

決まったことを学級全体で共通理解し、協力して準備・実践ができるようにする。

## 7 事後の活動

日時	児童の活動 (○全員 ・計画委員)	・指導上の留意点 ◎目指す児童の姿と評価
10/5(木)	・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。	・学級の全員が決まったことに協力できるようにする。
10/5(木)~	○決まったことを取り入れながら練習、当日、事後の活動を行う。	・意欲的に活動している児童や協力して活動している児童を称賛する。
10/19(木)	○活動の振り返りをする。	・自分の態度を振り返り、今後の生活づくりに生かせるようにする。
10/19(木)	○活動の振り返りをする。	・「身に付けた力」の達成度を評価する。
<p>互いのよさや頑張りを認め合えるようにする。            集団としての成長も確かめ合えるようにする。</p>		<p>◎準備や集会に仲良く協力して実践している。            (関心・意欲・態度【教師の観察】)</p>

## 第2学年〇組 学級活動指導案

平成29年7月4日（水） 第5校時  
 生徒数 男子△名 女子△名 計△名  
 指導者 教諭 ○ ○ ○ ○

### 1 議題 「クラスのよいところランキングを作ろう」

### 2 議題について

- (1) 生徒の実態 略  
 (2) 議題選定の理由

### 3 評価規準 略

### 4 事前の活動

① 議題が選定された背景

1学期末に学期を振り返るアンケートを取ったところ、多くの生徒や先生方からあいさつの声が小さいや挙手発言が少ないという声があがった。本議題は、それを改善するために「クラスにはもっと誇れることがたくさんあり、それを見つけることで自分たちが自信を持ち、2学期以降に控える行事や授業に向けてみんなで前向きに頑張っていきたい」という生徒の提案によるものである。

② 生徒に身に付けさせたい力

これまでは全体の中で意見を求められると、遠慮や萎縮をして活発に意見交換ができないことが多くあった。その課題の解消はすぐにはできないと思われるが、自分たちのよいところや頑張っている所に気付かせ、今後の学級生活に自信を持って行動できる態度を育てたい。

日時	生徒の活動（〇全員 ・計画委員）	・指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿と評価方法
6/21（火）	〇1学期学級生活の振り返りアンケート	・より客観的にクラスの成果や課題を見極めるため、生徒のみでなく、授業担当の先生にもアンケートに協力してもらうよう促す。
6/22（水）	・アンケートのまとめ	・アンケートを基に現状でのクラスのよさや改善すべき課題に目を向け、みんなで話し合える議題を考え、計画委員に整理させる。
6/23（木）	〇議題の提案 ・議題の決定 ・目標、柱等を検討する。	<b>計画委員を組織して輪番制で運営する。</b>
6/28（水）	・学級会ノートを作成する。	◎自分の役割を理解し、見通しを持って準備している。 （思考・判断・実践【教師の観察】）
7/3（火）	〇クラスのよいところアンケート 〇学級会ノートの記入 ・意見の短冊や、アンケートのまとめ等の資料を準備する。	◎話し合いの目的を理解し、自分の考えを持っている。 （関心・意欲・態度【教師の観察】）

**アンケート等の資料を活用し、クラスのよさ、課題、話し合いの目的を明確にする。**

### 5 本時の展開

#### (1) 本時のねらい

クラスのよさを認め合いながら、さらに良い学級にするために、自分たちに必要な取組を考えることができるようにする。

#### (2) 生徒の活動計画

議題	クラスのよいところランキングを作ろう
提案理由	授業のあいさつや授業中の挙手発言が少ないのは、一人一人に自信がないためと考える。1学期の1組の授業や生活、学校行事や委員会係活動などを振り返り、1学期の1組のよいところ、他のクラスに誇れるところランキングをみんなの話し合いで作成し、自分たちのクラスに自信を持てるようにしたい。さらに、より成長するための取組も考え、クラスで頑張っているところをもっとよくして、2学期のクラスの成長につなげていきたい。
話し合いの目標	・クラスのよさを認め合いながらランキングを考えよう。 ・一人ひとりが積極的に話し合い、全員が参加する学級会にしよう。
決定していること	・ランキングはベスト3を決める。 ・具体的な取組は1学期中にできるものを決定する。

## 6 指導上の留意点

話し合いの順序	・指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿と評価方法
1 開会の言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の提案 4 提案理由の確認  5 話し合いの目標の確認 6 決定していることの確認 7 話し合うことの確認 8 話し合い ① よいところランキングを考えよう  ② さらによくなるための取組を考えよう  ③ 役割分担をしよう  9 決定したことの確認 10 話し合いの振り返り 11 先生の話  12 閉会の言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級委員が生徒の記入した振り返りアンケートの成果と課題、教科係が授業の成果と課題を発表する。</li> <li>・提案者の「自分のクラスに自信を持ってほしい」という思いを全員が理解し、話し合いの指針となるようにする。</li> <li>・意欲的な話し合いを促す呼びかけができるようにする。</li> <li>・共通理解が図れるように、わかりやすく掲示しておく。</li> <li>・班でよいところランキングベスト3を決定する際に多数決ではなく、話し合いで決めるよう助言する。(出し合う・比べ合う)</li> <li>・<b>提案理由を根拠</b>にして、ベスト3を決めることでより自信を持てるような話し合いになるように助言する。</li> <li>・各班のランキングからクラスのベスト3を決定する。(比べ合う・まとめる)</li> <li>・ランキングの発表では、それぞれの班の1位マーク、2位マーク、3位マークを貼り、それを残しておくことで各班のランキングを全員で共有できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>話し合いの視覚化→意見の共有をする。</b></p> <p style="text-align: center;"><b>板書の構造化→カードを移動する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柱1で決定したベスト3のカードを柱2に移動させ、ベスト3に入っているものをさらによくなる取組を考える意識を高める。</li> <li>・1学期中にできることを決定するように助言する。</li> <li>・賛成意見ばかりにならないように反対意見を取り上げ、その理由を大切に話し合えるようにする。</li> <li>・早い段階で意見を絞り話し合いを焦点化する。(比べ合う)</li> <li>・少数意見や反対意見を大切にするとまとめ方ができるようにする。(まとめる)</li> <li>◎クラスのよさを認め合いながら、さらによい学級にするために、自分たちに必要な取組を考え話し合っている。(思考・判断・実践【観察・学級会ノート】)</li> <li>・一人一人、よかった点や課題について自己評価できるようにする。</li> <li>・決定したことの意味、この学級が持つよさを再認識させ、実行していくことの大切さを伝える。</li> <li>・提案理由を意識した発言や学級全体を考えた建設的な発言、意欲的に参加していた生徒を称賛するとともに、今後の課題を伝える。</li> <li>・計画委員へねぎらいの言葉を掛けるとともに、取組への意欲が高まるような言葉掛けをする。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>決まったことを学級全体で共通理解し、見通しを持ち、協力して実践できるようにする。</b></p>

## 7 事後の活動

日時	生徒の活動 (○全員 ・計画委員)	・指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿と評価方法
7/5(水) ~ 7/15(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったことを掲示する。</li> <li>○決まったことを取り入れながら役割ごとに準備、全体での活動を行う。</li> <li>○活動の反省をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の全員が決まったことに協力できるようにする。</li> <li>・意欲的に活動している生徒や協力して活動している生徒を称賛する。</li> <li>・自分の態度、学級全体の取組状況を振り返り、今後の生活づくりに生かせるようにする。</li> <li>◎活動の目的を理解し、協力して実践している。(思考・判断・実践【観察・学級会ノート】)</li> </ul>

**振り返りを行い、互いのよさや努力、学級の成長を確かめ合えるようにする。**

# ときもドリル

※「ときもドリル」(各教科・家庭学習用カード)は、教育センターキャビネットに掲載します。

## 国語(小3~小6)-文法-「ローマ字(3)」



☆次の言葉をローマ字で書きましょう。

(1)

(2)

(3)

( いか )

( たこ )

( まぐろ )

(4)

(5)

(6)

( からす )

( すずめ )

( ふくろう )

(7)

(8)

(9)

( ばった )

( ちょう )

( とんぼ )

(10)

(11)

(12)

( つくえ )

( こくばん )

( こうてい )


☆次の地名をローマ字(大文字)で書きましょう。

(1)

(2)

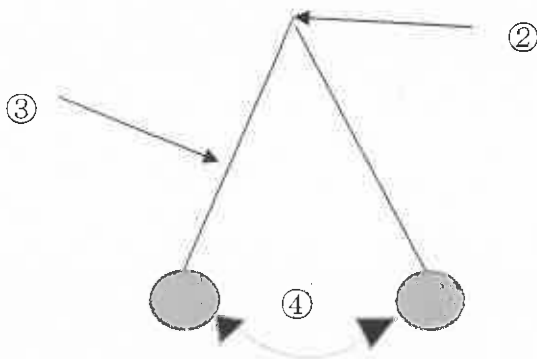
( さいたま )

( かわごえ )

	理科 (5年生) No.7 ふりこのきまり	名前 _____
---	--------------------------	-------------

1  にあてはまる言葉を入れましょう。

① 下の図のように、棒やひもにおもりをつけて左右にふれるようにしたものを何といいますか。 ( )

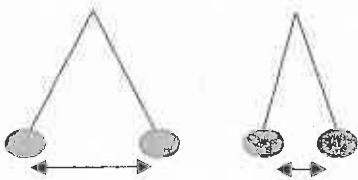


② ( )

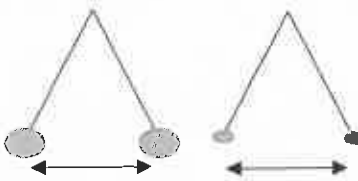
③ ( )

④ ( )

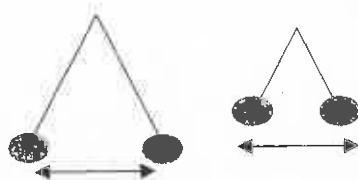
2 ふりがが1往復する時間はどうなりますか。



① ふれはばがちがう。( )



② おもりの重さがちがう。( )

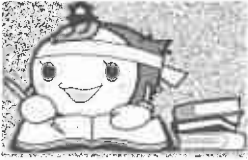


③ ふりこの長さがちがう。( )

3 次の中からふりこの性質を利用しているものを選び、記号で答えましょう

- |          |        |
|----------|--------|
| ① 砂時計    | ④ 柱時計  |
| ② メトロノーム | ⑤ ブランコ |
| ③ カスタネット | ( )    |





川越市マスコットキャラクター ときも

## 社会(公民) No.1 個人の尊重と日本国憲法

	問 題	答 え
(1)	「法の精神」を著して三権分立を唱えたフランスの思想家は誰か。	
(2)	「人間に値する生存」の保障などの社会権を世界で最初に取り入れたドイツの憲法を何というか。	
(3)	1889年に発布され、国民は、主権者である天皇からあたえられる「臣民ノ権利」を持つと定めた憲法を何というか。	
(4)	日本国憲法の三原則を答えなさい。	
(5)	国会が憲法改正の発議を行った後に行われる、その改正案について国民の賛否を問う投票を何というか。	
(6)	日本国憲法において、天皇は日本国と日本国民統合の何と定められているか。	
(7)	天皇が行う、国会の召集や法律の公布、栄典の授与などの形式的、儀礼的な行為を何というか。	
(8)	基本的人権のうち、全ての人が平等な存在であり、平等なあつかいを受ける権利を何というか。	
(9)	男性と女性が対等な立場であらゆる社会活動に参加し、活動することが社会の実現を目指して、1999年に制定された法律を何というか。	
(10)	自由権のうち、自由に物事を考え、思想や信仰を持ち、自分の意見を発表する自由を何というか。	
(11)	自由権のうち、犯罪の捜査や裁判などで、不当に逮捕・捜索されたり、自白を強要されたりしない自由を何というか。	
(12)	自由権のうち、居住・移転および職業選択の自由や財産権の保障などを内容とする自由を何というか。	
(13)	人権は制約を受けることがあるが、その人権の限界や制限にあたる「社会全体の利益」を意味する言葉を何というか。	
(14)	個人が自分の生き方や生活の仕方について自由に決定する権利を何というか。	
(15)	(14)に基づいて医療現場で求められる、患者が治療方法などを自ら決定できるようにするための「十分な説明に基づく合意」のことを何というか。	
(16)	国民が主権者として政治について判断するため、国や地方公共団体から情報を手に入れる権利を何というか。	
(17)	個人の私生活に関する情報を公開されない権利を何というか。	
(18)	国連が1948年に採択した、世界各国の人権保障の模範となっている宣言を何というか。	
(19)	日本の衆議院議員の選挙(総選挙)で採られている選挙制度を何というか。	
(20)	選挙区によって、選出される議員一人あたりの有権者数に差が生じていることを何というか。	
(21)	議員が政党を中心に活動し、複数の政党が議席を争う政治を何というか。	
(22)	内閣が複数の政党から組織された政権を何というか。	
(23)	各政党が示す、政権を担当したときに実施する政策やその実施方法などを明記したものを何というか。	
(24)	社会のさまざまな問題について、多くの人々によって共有されている意見を何というか。	
(25)	マスメディアから発信される情報をさまざまな角度から批判的に読み取る力のことを何というか。	



# 英語 (中学1年生①)

b e 動詞 / 一般動詞 / 命令文 / 代名詞

## 英語のしくみ① (教科書P58~P59)

1. 【b e 動詞】 次の ( ) 内にあてはまる b e 動詞を書いてみよう。

- (1) I ( ) Mike. (2) She ( ) a teacher.  
 (3) They ( ) students. (4) Taro and I ( ) teachers.  
 (5) This book ( ) on the desk.

2. 【一般動詞】 次の日本語に合うように、( ) 内にあてはまる一般動詞を書いてみよう。

- (1) I ( ) English. 私は英語を話します。  
 (2) Do you ( ) baseball? あなたは野球が好きですか。  
 (3) I ( ) ( ) a letter. 私は手紙を書きません。

3. 【命令文】 次の日本語に合うように、( ) 内の語を並べ替えましょう。文の始めに来る語も小文字で示してあります。

- (1) ( your / open / book ). (あなたの) 本を開きなさい。  
 (2) ( in / don't / play / ground / the ). グラウンドで遊んではいけません。  
 (3) ( watch / let's / together / movie / the ). 一緒にその映画を見ましょう。

## 英語のしくみ② (教科書P76)

4. 【代名詞】 空欄に入る英語を書きなさい。

	~は・~が	~の	~を・~に	~のもの		~は・~が	~の	~を・~に	~のもの
私					私たち				
あなた					あなたたち				
彼					彼ら				
彼女					彼女ら				
それ					それら				